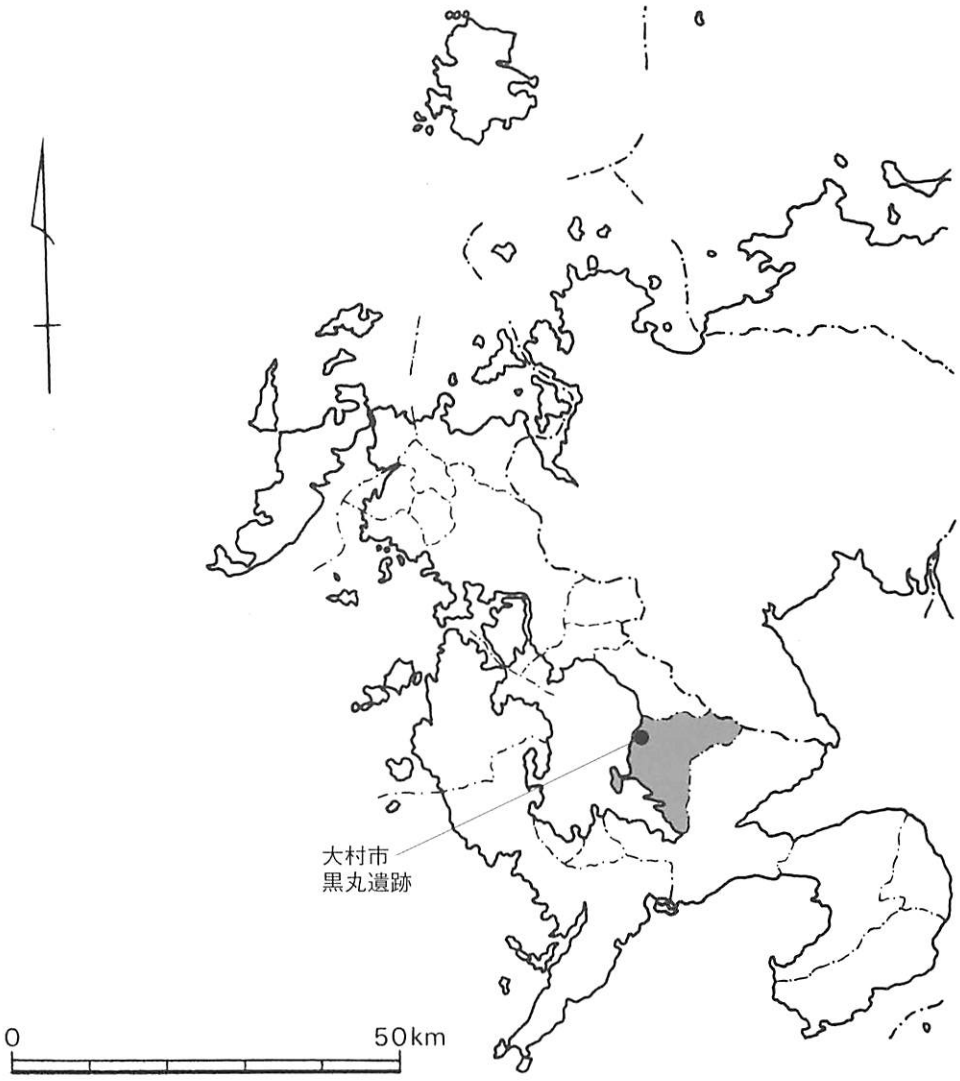
長崎県文化財調査報告書　第204集

黒丸遺跡Ⅳ

郡川河川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書



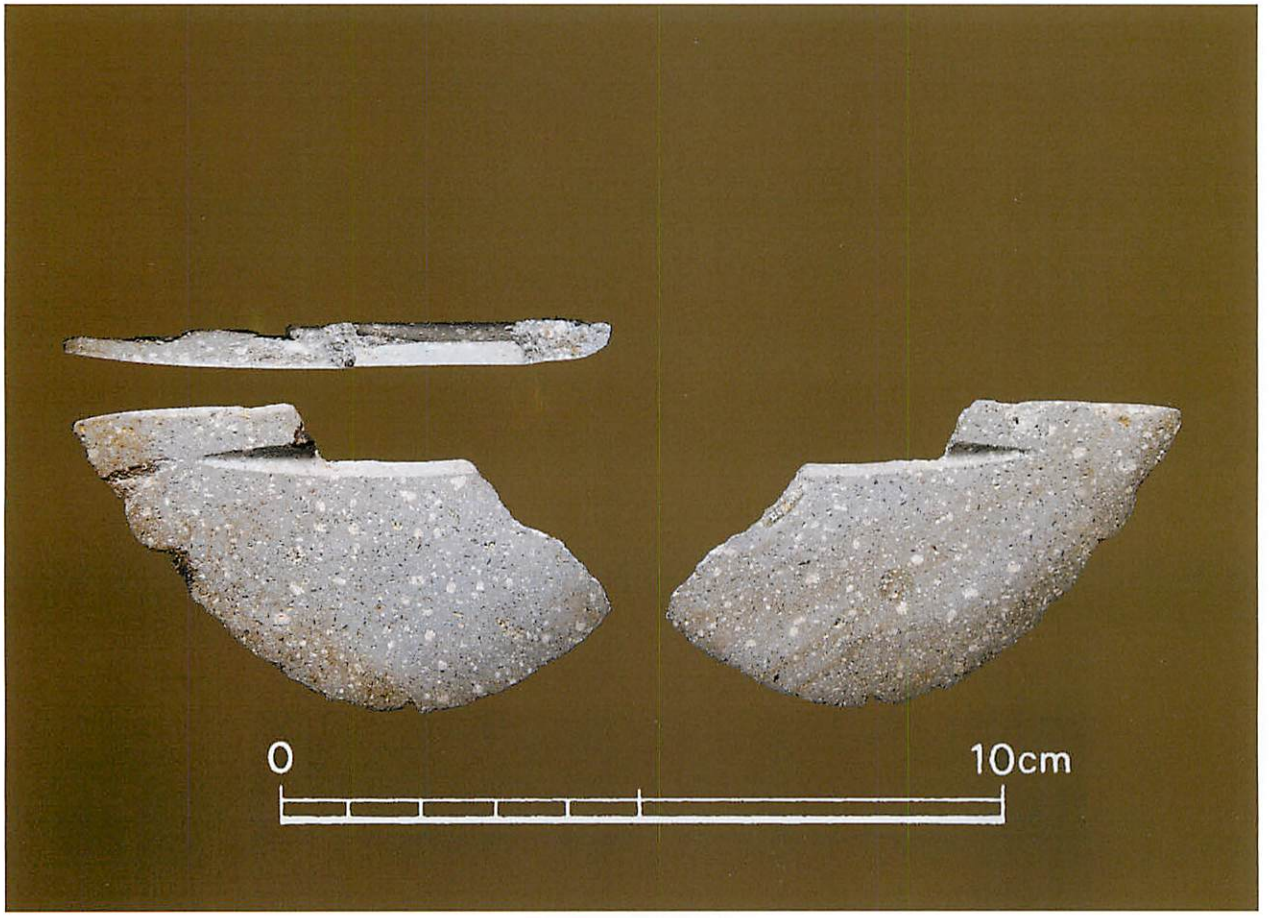
2010

長崎県教育委員会

調査区遠景①（西から）

調査区遠景②（東から）

装飾のある石製品（第19図117）



石庖丁（第40図310）

発刊にあたって

本書は、郡川改修工事に伴い、長崎県教育委員会が行った黒丸遺跡の発掘調査報告書です。

黒丸遺跡は、縄文時代から室町時代までの長い時代にわたる人々の生活跡が確認された遺跡であり、これまでに20回以上にわたり調査が実施されています。

今回の発掘調査では、弥生時代前期の遺構である柱穴や土坑が約540基確認されました。出土した遺物の中には、稲の穂積み具として使用された石庖丁があり、大村における弥生時代農耕文化を知るうえで重要な成果を得ることができました。

また、古代の土坑や柱穴も確認されており、土坑内からは「七月」と読める刻書を持つ土器が出土しています。遺跡が所在する黒丸町・沖田町は古代のころの郡衙と呼ばれる役所跡があったところと推測されており、このことを検討するうえで貴重な成果といえるでしょう。

これらの調査成果が、これからの考古学における調査研究の学術的資料として広く活用され、文化財の保存活用に役立つことができるよう祈念いたします。

最後になりましたが、本書の刊行にあたり、発掘調査や整理作業に従事された方々をはじめ、ご尽力をいただきました関係者各位に深く感謝申し上げます。

平成22年３月31日

長崎県教育委員会教育長

寺田　隆士

例　　言

1　本書は長崎県大村市沖田町に所在する黒丸遺跡の発掘調査報告書である。

2　調査は郡川改修工事に伴うもので、長崎県教育庁学芸文化課が調査主体となり実施した。
　調査期間は以下の通りである。
　2009（平成21）１月６日～2009年（平成21）３月13日

3　調査担当者は次のとおりである。
　長崎県教育庁学芸文化課文化財班　文化財保護主事　山口浩司（現：長崎県立大崎高等学校）
　　同　　文化財調査員　平田賢明

4　調査は発掘調査業務・図面実測・上空写真及び労務管理等を㈱イビソクに業務管理した。

5　遺物実測は、奥村清美・成田万里・中村千春・野島愛子・濱崎美加・横田愛子・和田美加・井上里奈が行った。トレースは奥村・野島・濱崎・横田・井上が行った。また、図版作成は一瀬裕子・頭島直美・山村きよみの協力を得た。本書関係の写真撮影は平田が行った。

6　土層および土器の色調は『新版標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議事務所局編集）による。

7　本書における遺物、写真・図面等は、長崎県埋蔵文化財センターで保管している。

8　本書で用いた遺構に関する表記は以下の通りである。
　Pit：柱穴、SK：土坑、SD：溝状遺構、SR：自然流路

9　発掘調査から報告書作成に至る経緯で、以下の方々にはご助言、ご協力賜った。
大野安生・松川憲毅・安樂哲史（以上、大村市教育委員会）、竹中哲朗（諫早市教育委員会）、本多和典（南島原市教育委員会）、林潤也（大野城市教育委員会）、細井浩志（活水女子大学）、高橋育夫・吉田朋史・奥田幹成（以上、㈱イビソク）、山口勝也（㈱埋蔵文化財サポートシステム）、渡邉康行

10　本書の執筆は主に平田が行い、第２章１節を井上が担当した。また、編集は寺田正剛の責任のもと井上の協力を得て、平田が行った。

本　文　目　次

1章　経過……1
　第1節　調査に至る経緯……1
　第2節　調査組織……1
2章　遺跡の立地と環境……2
　第1節　地理的環境……2
　第2節　歴史的環境……2
　第3節　主な調査履歴……5
3章　調査……6
　第1節　調査方法……6
　第2節　基本層序……6
　第3節　遺構と遺構出土遺物……11
　第4節　Ⅸ層出土遺物……34
　第5節　その他の層位出土遺物……36
4章　総括……55

挿　図　目　次

遺跡位置図中表紙
第1図　遺跡位置図（S＝1/50,000）……3
第2図　過去の主な調査地点……4
第3図　基本土層図（S＝1/40）……6
第4図　土層図（S＝1/80）……7・8
第5図　遺構配置図（S＝1/200）……9・10
第6図　SK3・8・9遺構実測図（S＝1/10）……12
第7図　Pit69遺構実測図（S＝1/20）……12
第8図　SK3・8・9出土遺物（S＝1/3）……13
第9図　SK2遺構実測図（S＝1/40）……14
第10図　SK4・5遺構実測図（S＝1/30）……14
第11図　SK2・4出土遺物（S＝1/3）…15
第12図　SK15遺構実測図（S＝1/30）……16
第13図　SK31遺構実測図（S＝1/40）……16
第14図　SK20遺構実測図（S＝1/20）……17
第15図　SK15出土遺物（S＝2/3・1/3）……18
第16図　SK20出土遺物①（S＝2/3・1/2・1/3）……18
第17図　SK20出土遺物②（S＝1/3・1/3）……19
第18図　SK1・7・12・14・16・17・19・24・26・28・29・31・33出土遺物（S＝2/3・1/3）……20
第19図　SK31出土遺物（S＝1/2・1/3）……21
第20図　B地区Pit群覆土別配置図①（S＝1/200）……22
第21図　B地区Pit群覆土別配置図②（S＝1/200）……23
第22図　B地区Pit群覆土別配置図③（S＝1/200）……24
第23図　B地区ピット群床面標高別配置図①（S＝1/200）……25
第24図　B地区ピット群床面標高別配置図②（S＝1/200）……26
第25図　B地区ピット群床面標高別配置図③（S＝1/200）……26
第26図　B地区ピット群床面標高別配置図④（S＝1/200）……27
第27図　B地区ピット群床面標高別配置図⑤（S＝1/200）……27

第28図　Ｂ地区ピット群床面標高別配置図⑥
（Ｓ＝１/200）……28
第29図　Ｂ地区ピット群床面標高別配置図⑦
（Ｓ＝１/200）……28
第30図　Ｂ地区ピット群床面標高別配置図⑧
（Ｓ＝１/200）……29
第31図　Pit 出土遺物①
（Ｓ＝２/３・１/２・１/３）……31
第32図　Pit 出土遺物②
（Ｓ＝２/３・１/２・１/３）……32
第33図　Pit 出土遺物③SR１・２出土遺物
（Ｓ＝２/３・１/２・１/３）……33
第34図　Ⅸ層出土遺物①（Ｓ＝１/３）……35
第35図　Ⅸ層出土遺物②（Ｓ＝１/３）……36
第36図　Ⅸ層出土遺物③（Ｓ＝１/３）……37
第37図　Ⅸ層出土遺物④（Ｓ＝２/３）……38
第38図　Ⅸ層出土遺物⑤（Ｓ＝２/３）……39
第39図　Ⅸ層出土遺物⑥（Ｓ＝２/３）……40
第40図　Ⅸ層出土遺物⑦
（Ｓ＝２/３・１/２・１/３）……41
第41図　Ⅸ層出土遺物⑧（Ｓ＝１/３）……42
第42図　Ⅸ層出土遺物⑨
（Ｓ＝１/２・１/３）……43
第43図　Ⅸ層出土遺物⑩（Ｓ＝２/３）……44
第44図　その他の層位出土遺物①
（Ｓ＝１/３）……45
第45図　その他の層位出土遺物②
（Ｓ＝１/４）……46

表　目　次

第１表　周辺の遺跡一覧……３
第２表　主な調査履歴……５
第３表　遺構観察表①……48
第４表　遺構観察表②……48
第５表　遺構観察表③……49
第６表　遺構観察表④……49
第７表　遺構観察表⑤……50
第８表　遺構観察表⑥……50
第９表　遺物観察表①……51
第10表　遺物観察表②……52
第11表　遺物観察表③……53
第12表　遺物観察表④……54

図　版　目　次

SK３半裁（北から）……12
SK３・８・９完掘（北から）……12
Pit69半裁（北から）……12
SK２セクションベルト（南から）……14
SK２完掘（北から）……14
SK４・５半裁（南から）……14
SK４・５完掘（南から）……14
SK15セクションベルト（南から）……16
SK31完掘（南から）……16
SK31遺物出土状況……16
SK20セクションベルト（南から）……16
SK20完掘状況（南東から）……17
SK20遺物出土状況……17
Ｂ区西半部 Pit 群……25
体験発掘の様子……57
Ａ地区完掘（東から）……58
Ｂ地区完掘……58
第８図……59
第８図－７……59
第15図－29……60
第19図……60
第17図－81……61
第33図－166……61
第35図……62
第37・38図……62
第36図……63
第40図……63
第41図……64
第42図……64

1章　経　　過

第1節　調査に至る経緯

平成17年度大村市北部を流れる郡川の河川改修工事計画が、諫早土木事務所より示された。この事業計画は50年に1度の大雨を想定し、防災上の安全確保のため郡川の左岸について拡幅を行うものである。

工事は下流域から開始され、平成20～35年まで実施される予定である。下流域の約900mに関しては周知の埋蔵文化財である黒丸遺跡にかかり、その面積は14,400㎡であった。

平成6～9年度に工事予定地周辺の範囲確認調査を大村市教育委員会が実施した結果、縄文・弥生時代の遺物が多数出土した2,341㎡について発掘調査が必要との結論に達した。諫早土木事務所と協議した結果、2ヶ年に分け調査を実施することとなり、平成19年度は下流側1,411㎡、平成20年度には上流側930㎡について調査を実施することとなった。

なお、平成19年度分の調査はすでに終了しており、発掘調査報告書を刊行している（長崎県文化財調査報告書第201集『黒丸遺跡Ⅲ』2009）。

平成20年度分の調査に関しては、長崎県教育庁学芸文化課が調査主体となり、発掘調査および労務管理等の業務は㈱イビソクに委託した。

第2節　調査組織

本調査から報告書刊行に至るまでの組織は以下のとおりである。

調査　2009（平成21）1月6日～2009年（平成21）3月13日

学芸文化課　課長補佐　古門雅高　係　長　冨田和宏
主任文化財保護主事　福田一志
調査担当　文化財保護主事　山口浩司
文化財調査員　平田賢明

整理報告書作成　2009（平成21）4月1日～2010年（平成22）3月31日

学芸文化課　課長補佐　古門雅高
係長　冨田和宏
主任文化財保護主事　福田一志
文化財保護主事　寺田正剛
整理担当　文化財調査員　平田賢明
同　井上里奈

2章　遺跡の立地と環境

第1節　地理的環境

大村市は、長崎県の中央部に位置し、東側に佐賀県との境になる多良山系がそびえ、西側は『琴の湖』（ことのうみ）と称される波静かな大村湾に面した土地である。

多良山系は、現在、標高1,076mの経ヶ岳を最高峰として、五家原岳、多良岳等で形成される。地質は、新世代古第三紀の堆積岩を基盤とし、第四紀の安山岩、玄武岩類から構成されている[註1]。この多良山系からは、佐奈川内川・南川内川の支流が合流し、市内最大の郡川が大村湾へ流れ込む。大村市内北部を流れる郡川は、2級河川ながら、県内本土部では最大級の扇状地を形成し、大村市民の生活の舞台は、この平野部を中心に営まれている。郡川には河童伝説があり、河童を祀った水神神社があったとされる場所付近には、大村市の指定文化財の1つである「水神淵の線刻河童」が残っている[註2]。

大村市は、世界初の海上空港である長崎空港をはじめ、ＪＲ線、高速道路を通した交通の要所でもある。近年では大型店舗が相次いで出店し、人口は、2007年（平成19年）10月時点で、89,285人であるが、毎年1,000人前後の人口増加を続けている[註3]。

第2節　歴史的環境（第1図、第1表）

黒丸遺跡(1)は、郡川河口近くの標高0m～10m前後を測る扇状地上に所在する。黒丸町・沖田町に跨り、過去の調査から、縄文時代～中世にかけての複合遺跡である事が判明している。黒丸遺跡の主体は、住居跡や62基のドングリ貯蔵穴等を検出し、黒川式段階の土器や扁平打製石斧等の石器が豊富に出土する縄文時代晩期から、壺棺群や水田農耕に関連する施設とみられる矢板列、畦畔状遺構が検出され、これに伴って土器や木製農具が出土する弥生時代中期に求められる。遺跡の北東に位置する沖田地区には、条里跡(2)が残っており、肥沃な土壌を有する黒丸遺跡周辺が、古くから農耕生産の中心を担っていたと思われる。また、この条里跡は、古代、彼杵郡家が、この辺りに存在した事を想定させ、『郡（こおり）』の地名もそれとの関連性を考える要因になっている[註4]。

周辺には、先人達の生活が営まれていた痕跡を残す、多くの遺跡が存在する。

東側の山麓台地には野岳遺跡(3)があり、旧石器時代のナイフ形石器や細石核等が出土している。

黒丸遺跡の東方には、縄文時代～中世までの遺物を包含する竹松遺跡(4)、郡川を挟んだ所では、弥生時代終末期～古墳時代初頭のものとみられる、土師器群が確認された冷泉遺跡(5)や岩名遺跡(6)、黄金山古墳(7)等がある。岩名遺跡では、近年実施された調査で、縄文時代早期の土器が出土している。中九州以南に分布の中心を持つ物も含まれており、南九州文化が縄文時代早期後半には、九州西北部のこの辺りまでもたらされていた事がうかがえる[註5]。黄金山古墳は、4世紀後半の石棺系横口石室を持ち、横穴式石室構造が導入された過渡期の一形態と位置付けられている[註6]。

南方に富の原（常磐）遺跡(8)があり、弥生時代中期の住居址の検出や、成人用甕棺の中から鉄戈・鉄剣等が発見されている。近年の調査で、環濠の一部も発見され、弥生時代中期～後期の比較的大規模な集落址であるとみられている[註7]。

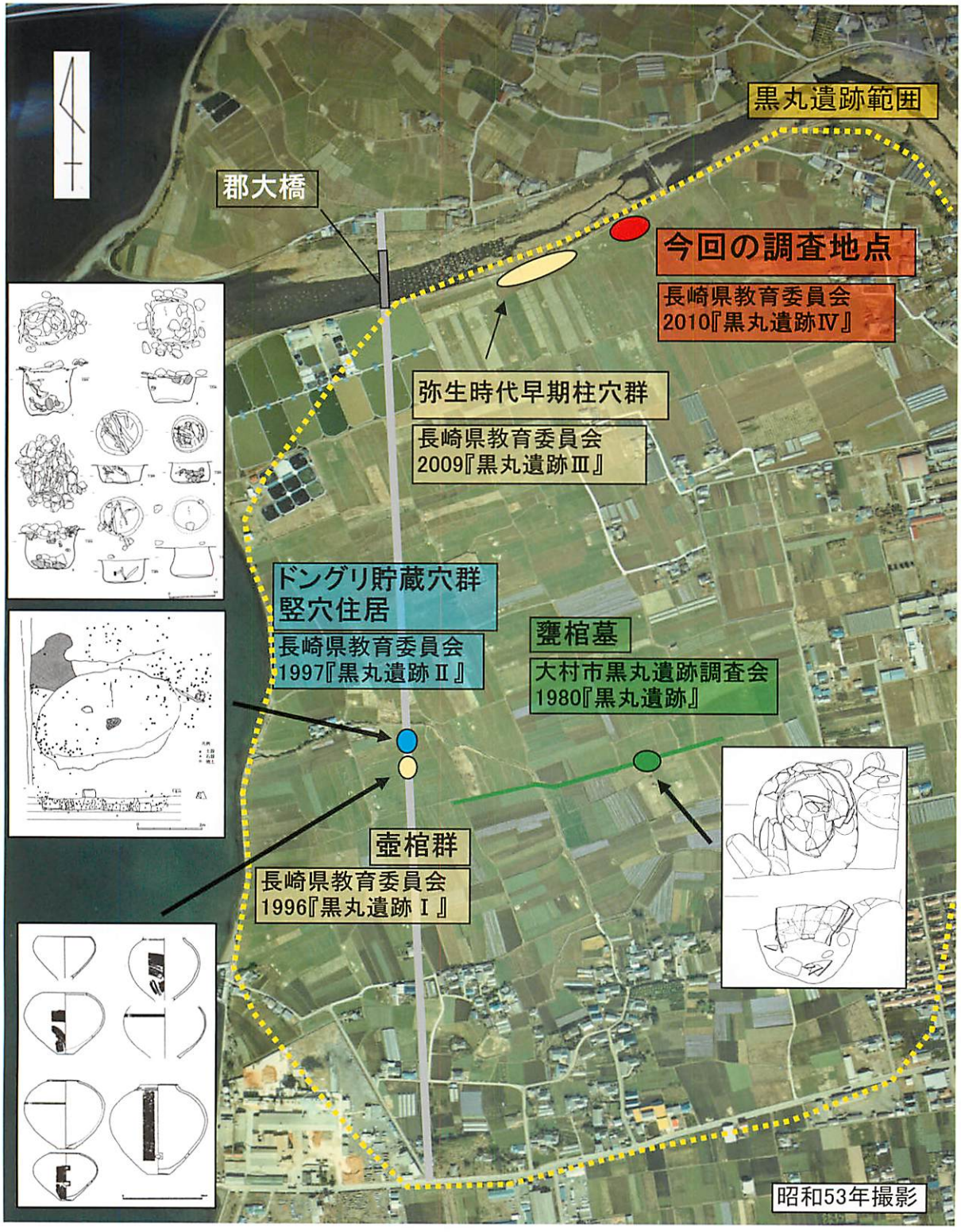
郡川を挟んで北方には、大村氏第15代領主純治が築城したと伝えられる好武城跡(9)と、これを包み

込むように寿古遺跡[10]がある。12世紀後半の土師器や須恵器系陶器、石鍋、輸入陶磁器等が多量に出土する事から、好武城の成立に伴うものと推測されている[註8]。

第１図　遺跡位置図（Ｓ＝１/50,000）

第１表　周辺の遺跡一覧

No	遺跡名	所在地	種別	立地	時代
1	黒丸遺跡	大村市黒丸町	遺物包含地	平野	縄文～近世
2	沖田黒丸条里跡	大村市黒丸町・沖田町	条里跡	〃	古代・中世
3	野岳遺跡	大村市東野岳町ほか	遺物包含地	台地	旧石器・縄文
4	竹松遺跡	大村市竹松町	〃	平野	縄文～中世
5	冷泉遺跡	大村市今富町	〃	台地	古墳
6	岩名遺跡	〃	〃	平野	縄文～中世
7	黄金山古墳	〃	古墳	台地	古墳
8	富の原（常磐）遺跡	大村市富の原	集落跡・遺物包含地	平野	縄文・弥生
9	好武城跡	大村市寿古町	城館跡	丘陵	中世
10	寿古遺跡	〃	集落跡・遺物包含地	平野	旧石器～近世



第２図　過去の主な調査地点

第３節　主な調査履歴（第２表）

黒丸遺跡はこれまでに大村市教育委員会、長崎県教育委員会らによって度重なる緊急発掘調査が実施されている。ここでは前回（長崎県教育委員会2009『黒丸遺跡Ⅲ』）で掲載した調査履歴に、新たな事例や記載漏れを追加し報告したい。調査年や掲載報告書、検出遺構などの詳細については、第２表を参照されたい。

第２表　主な調査履歴

番号	調査開始日	調査終了日	主な検出遺構	主な出土遺物	調査の種別	報告書（発行機関・シリーズ番号・書名）	発行年
1	19770704	19770713			範囲確認	大村市黒丸遺跡調査会『黒丸遺跡発掘調査報告書』	1980
2	19780214	19780311			範囲確認	大村市黒丸遺跡調査会『黒丸遺跡発掘調査報告書』	1980
3	19781121	19790531	縄文晩期甕棺墓	晩期土器、石器、石庖丁【２点】 弥生時代中期土器、古墳時代土師器	本調査	大村市黒丸遺跡調査会『黒丸遺跡発掘調査報告書』	1980
4	19901203	19901214			範囲確認	長崎県127集『黒丸遺跡Ⅰ』	1996
5	19931025	19940215	弥生時代中期壺棺群ほか	縄文時代晩期土器・石器、弥生時代土器	本調査	長崎県127集『黒丸遺跡Ⅰ』	1996
6	19941115	19950203	ドングリ貯蔵穴群、住居跡	縄文時代晩期土器・石器、弥生時代土器	本調査	長崎県127集『黒丸遺跡Ⅰ』	1996
7	19940000	19970200	縄文晩期石組炉跡	舟形木製品・石庖丁【３点】	範囲確認	大村市20集『黒丸遺跡ほか発掘調査概報 VOL. 1』	1997
8	19951101	19960315			本調査	長崎県132集『黒丸遺跡Ⅱ』	1997
9	19970000	19980000			範囲確認	大村市24集『黒丸遺跡ほか発掘調査概報 VOL. 2』	2000
10	19970402	19970409	溝	かわらけ	範囲確認	大村市24集『黒丸遺跡ほか発掘調査概報 VOL. 2』	2000
11	19980000	20020000	弥生中期矢板列	木製品(堅杵、鋤、弓、柄、斧柄、舟形木製品) 弥生中期土器	範囲確認	大村市25集『黒丸遺跡ほか発掘調査概報 VOL. 3』	2003
12	19990823	19990915			範囲確認	長崎県158集『埋蔵文化財調査年報８』	2001
13	19990000	20010000			範囲確認	大村市28集『黒丸遺跡ほか発掘調査概報 VOL. 5』	2005
14	20010726	20010807	中世柱穴群、土坑	土師器、龍泉窯系青磁、滑石製品ほか	範囲確認	大村市28集『黒丸遺跡ほか発掘調査概報 VOL. 5』	2005
15	20021202	20030320	畦畔状遺構、杭列	弥生時代中期木製品（又鍬）、土器	範囲確認	大村市27集『黒丸遺跡ほか発掘調査概報 VOL. 4』	2004
16	20040113	20040312			範囲確認	大村市28集『黒丸遺跡ほか発掘調査概報 VOL. 5』	2005
17	20050222	20050331	畦畔状遺構、杭列、ドングリ貯蔵穴（古墳時代初頭カ）	木製品（三又鍬、鋤などの農具類）、古式土師器	範囲確認	大村市31集『市内遺跡発掘調査概報１』	2007
18	20051027	20060111			範囲確認	大村市31集『市内遺跡発掘調査概報１』	2007
19	20001218	20010219	縄文後期廃棄土坑	縄文後期、晩期前半土器	範囲確認	大村市31集『市内遺跡発掘調査概報１』	2007
20	20070409	20070427		縄文晩期土器、古墳時代中頃の土師器	範囲確認	大村市32集『市内遺跡発掘調査概報２』	2008
21	20050218	20050314	柱穴	白磁、青磁、滑石製品	範囲確認	大村市32集『市内遺跡発掘調査概報２』	2008
22	20071018	20080305	縄文晩期柱穴群	縄文時代晩期～弥生時代中期にかけての土器・石器	本調査	長崎県201集『黒丸遺跡Ⅲ』	2009
22	20090106	20090313	弥生時代前期柱穴、土坑	縄文晩期～弥生時代中期にかけての土器・石器	本調査	長崎県204集『黒丸遺跡Ⅳ』	2010

3章　調　　査

第1節　調査方法

調査を実施した地点は黒丸遺跡の最北端部にあたり、郡川南岸沿いで水田や畑地として利用されている場所である。大村市が実施した範囲確認調査において縄文・弥生時代の遺物が出土した試掘坑周辺の930m²について調査を実施した。重機による表土除去の後、10m×10mのグリッドを設定し、人力による掘り下げを開始した。掘りあげた土置き場を確保するため、調査区をA区、B区に二分割し、A区を前半（1月～2月中旬）、B区を後半（2月中旬～3月中旬）に実施した。

なお、調査にあたり公共座標（世界測地系）に基づく10m方眼を、南から北側へA・B・C…、東から西方向へ1・2・3…と区分けし、遺構実測や遺物取り上げを行った。

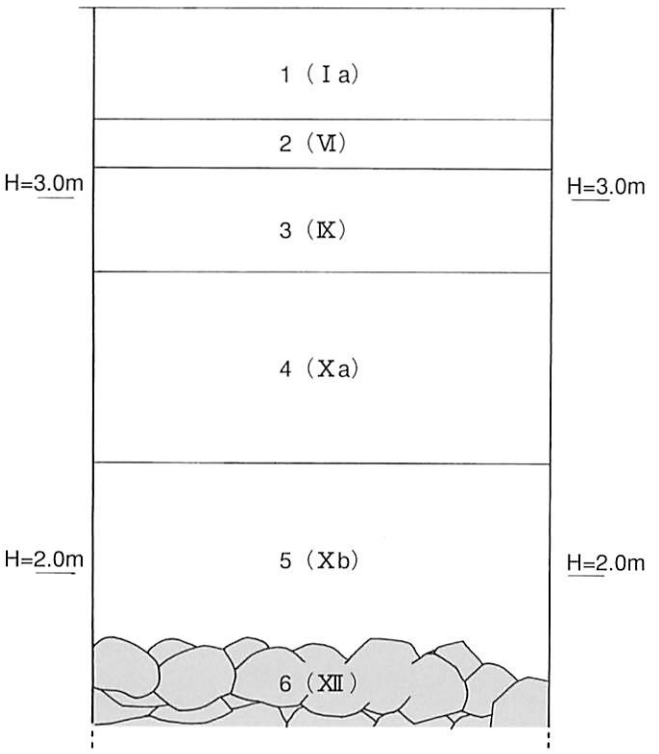
第2節　基本層序（第3図）

調査区全体が河川の影響を大きくうけているため、土層堆積が非常に複雑である。正確な層序の堆積状態は第4図に示すため、ここでは、大別したものを報告する。なお層序番号である算用数字は、便宜上用いたもので、実際の正式な層序番号は（　）内記載のローマ数字である。

1層（Ⅰa）…現代耕作土もしく水田面。(約20cm)

2層（Ⅵ）…現代耕作土（水田面）の床土。非常に黄色味が強く、弥生時代中期の包含層を一部削平しているため、下部付近には遺物が混じる。(約15cm)

3層（Ⅸ）…褐色粘質土。弥生時代中期包含層。2層に削平されているため、本来の厚みは不明である。(約20cm)



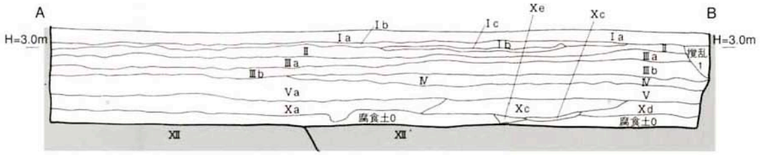
第3図　基本土層図（S＝1/40）

4層（Ⅹa）…浅黄橙色粘質土。弥生時代前期遺構面。(約45cm)

5層（Ⅹb）…浅黄橙色砂質土。無遺物層。水成堆積。(約45cm)

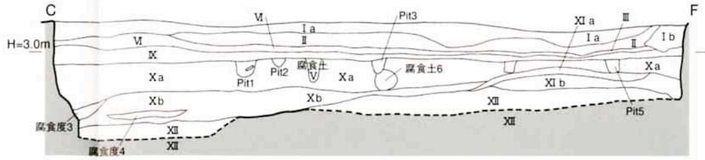
6層（Ⅻ）…暗褐色礫層。地山。

西壁土層図

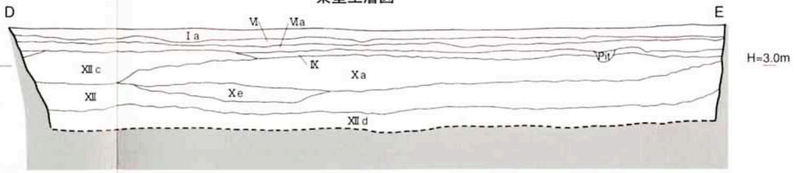


Ⅰa層…灰褐色粘質土(7.5YR4/2)現代耕作土1
Ⅰb層…黒褐色粘質土(7.5YR3/1)現代耕作土2，拳大の円礫，レンガを含む
Ⅰc層…黄橙色粘質土(7.5YR7/8)現代耕作土の床土1
Ⅱ層…黄橙色粘質土(7.5YR7/8)現代耕作の床土2
Ⅲa層…褐色粘質土(10YR4/4)旧耕作土1
Ⅲb層…褐色粘質土(10YR4/4)旧耕作土2
Ⅳ層…褐灰色粘質土(10YR4/1)旧耕作土3，直径1～5mm大の礫を含み砂混じり
Ⅴa層…黒褐色粘質土(10YR3/1)より濃い，砂混じり，近現代の遺物を含む
Ⅴb層…黒褐色粘質土(10YR3/1)Ⅴa層に比べ黄褐色の砂が混じる
Ⅴc層…黒褐色粘質土(10YR3/1)拳大～人頭大の礫が部分的にはいる
Ⅵ層…黄橙色粘質土(10YR7/8)現代耕作土の床土，Ⅳ層を削平する
Ⅵa層…明黄褐色砂質層(10YR6/8)Ⅵより濃い，床土2
Ⅵb層…黄橙色砂質層(10YR7/8)Ⅵより濃い
Ⅵc層…黄褐色砂質層(10YR5/6)Ⅵより濃い
Ⅻ層…黒色粘質土(2.5YR2/1)Ⅵより濃い
Ⅻa層…浅黄橙色粘質土(10YR8/3)自然流路内(SR3)堆積層の最上層，上面で遺構検出，不純物を含まない，無遺物(流路内の堆積層)
Ⅻb層…にぶい黄色砂質層(2.5Y6/4)直径1～5mm程度の砂利で構成(流路内堆積層)
Ⅸ層…褐色粘質土(10YR4/6)縄文晩期～弥生中期迄含層，直径5～10mの有機物を含む
Ⅸa層…にぶい黄褐色粘質土(10YR4/3)炭化物を少し含む
Ⅸb層…褐色粘質土(7.5YR4/4)拳大の円礫を少量含む
Ⅹa層…浅黄橙色粘質土(10YR8/3)自然流路内(SR3)堆積層の最上層，上面で遺構検出，不純物を含まない，無遺物層
Ⅹb'層…にぶい黄橙色粘質土(10YR7/2)砂混じり，無遺物層
Ⅹb層…浅黄橙色砂質土(10YR8/3)ⅩⅤ層に比べ円礫を含まず砂で構成
Ⅹc層…褐色砂礫層(10YR4/4)直径10～50mm大の礫と砂で構成，縄文晩期の遺物を少量含む
Ⅹc層…明褐色礫層(7.5YR5/6)Ⅸ層の漸移層
Ⅹd層…灰黄褐色粘質土(10YR5/2)しまり弱い，砂混じり，無遺物層
Ⅹe層…灰黄褐色砂質土(10YR5/2)Ⅵa層に比べしまり弱い
Ⅹf層…褐灰色礫層(10YR4/1)Ⅹh層に比べ円礫が小さい
Ⅹg層…黒褐色砂礫層(10YR3/1)直径1～2mm程度の砂，拳大の円礫で構成
Ⅹh層…褐灰色礫層(10YR4/1)拳大～人頭大の礫で構成
Ⅻ'層…灰黄褐色砂質土(10YR5/2)直径10m～拳大の円礫で構成，SR1の覆土
Ⅻ層…灰黄褐色礫層(10YR5/2)拳大～人頭大の礫で構成，SR1の際，地山層
Ⅻa層…灰黄褐色礫層(10YR5/2)
Ⅻb層…黒褐色砂礫層(10YR3/1)直径1～2mm程度の砂利層
Ⅻc層…灰黄褐色礫質土(10YR4/2)拳大の礫で構成される砂利層
Ⅻd層…灰黄褐色砂利層(10YR4/2)直径1～2mmの砂と円礫で構成
Pit1…灰黄褐色粘質土(10YR6/2)しまり弱い，少量の炭化物が混じる
Pit2…灰黄褐色粘質土(10YR6/2)しまり弱い，少量の炭化物が混じる
Pit3…灰黄褐色粘質土(10YR6/2)しまり弱い，少量の炭化物が混じる
Pit4…灰黄褐色粘質土(10YR6/2)
Pit5…灰黄褐色粘質土(10YR6/2)
Pit6…にぶい黄褐色粘質土(10YR4/3)しまり強い，炭化物を少し含む
土坑1…褐色粘質土(10YR4/3)しまり強い，炭化物を少し含む
土坑2…褐色粘質土(10YR4/3)しまり強い，炭化物を少し含む
SK10…灰オリーブ色粘質土(5Y4/2)しまり強い
撹乱1…拳大～人頭大の礫が混じる
撹乱2…拳大の円礫が入る(現代)
腐食土0…暗褐色粘土(10YR3/3)しまり弱い，腐食した自然木が入る
腐食土1…黒褐色粘土(2.5Y3/1)炭化した自然木が入る
腐食土2…黒褐色粘土(2.5Y3/1)炭化した自然木が入る

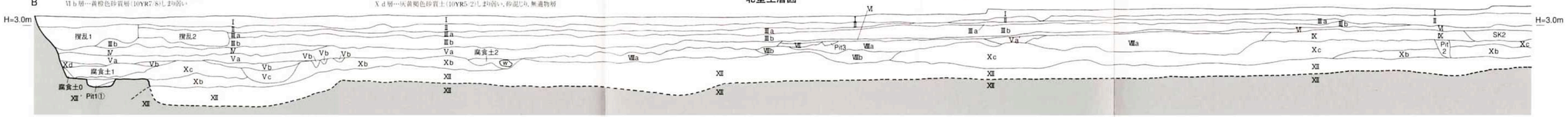
中央土層図

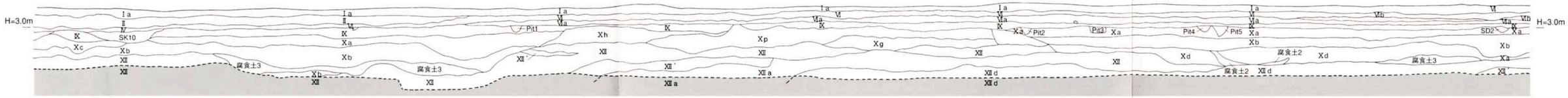


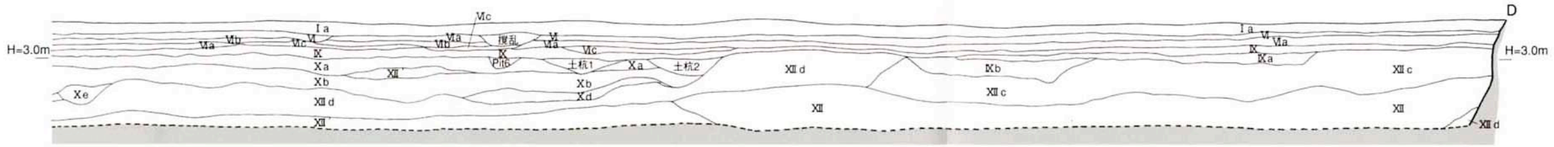
東壁土層図

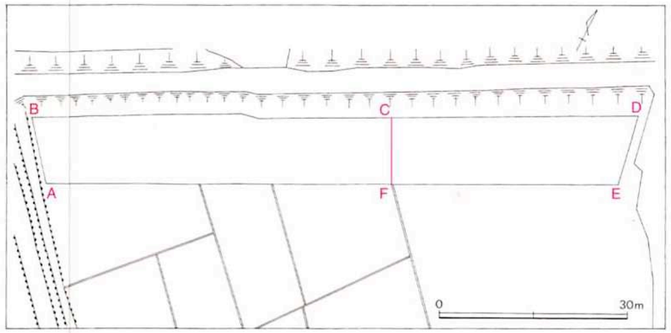


北壁土層図



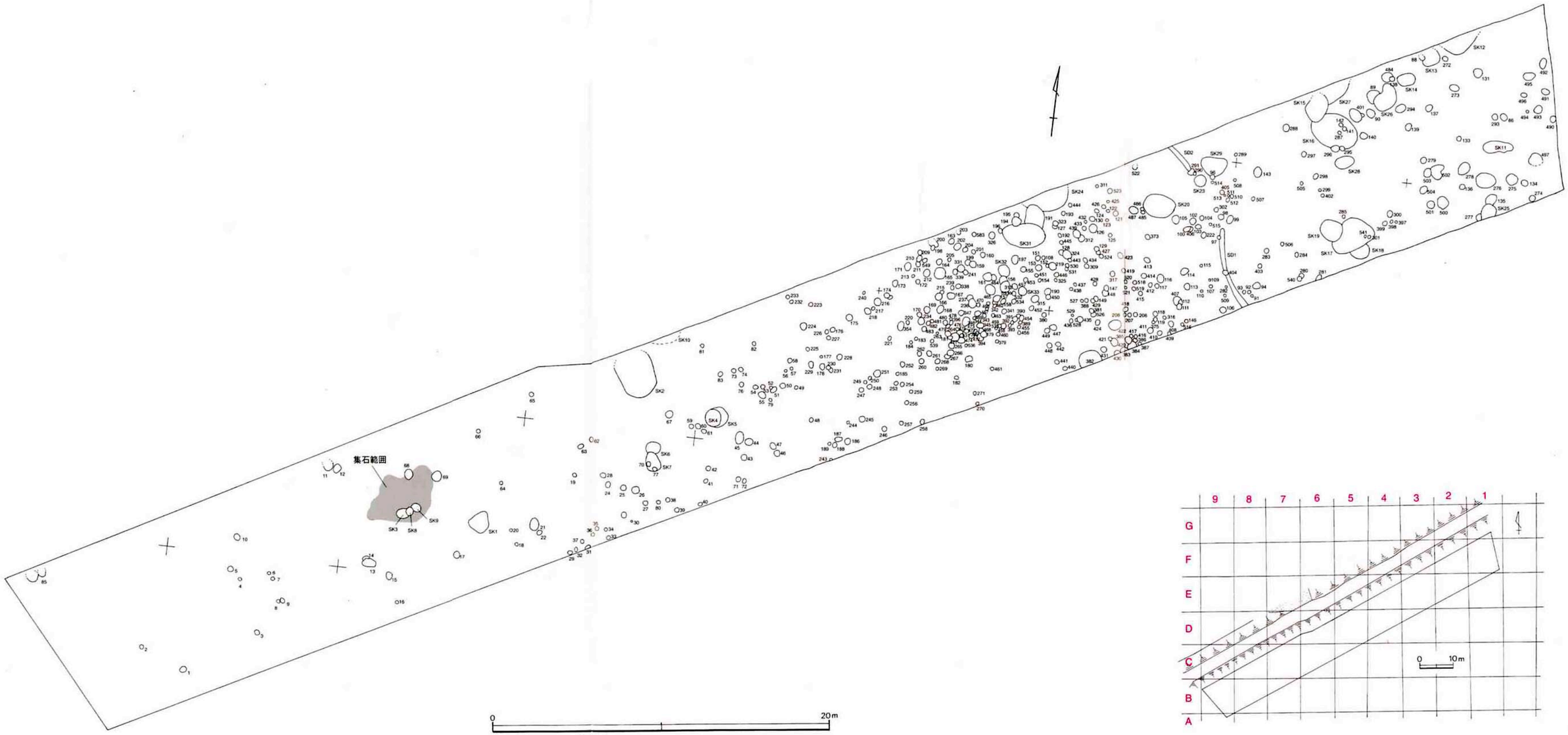






0　5m

第4図　土層図（S＝1/80）



第５図　遺構配置図（Ｓ＝１/200）

第３節　遺構と遺構出土遺物

ここでは、検出されたすべての遺構に関し、文章中での詳細な報告が難しいため各時代の特徴的な遺構と出土遺物について概要を述べたい。個々の遺構に関する詳細は観察表を参照されたい。

古　代

遺構（第６・７図）

古代の遺構は、Ａ地区の自然流路（SR１）の脇で検出した土坑SK３・８・９、Pit69の４基があげられる。現代耕作土（水田面）の床土であるⅣ層を掘り下げ中に、拳大から人頭大の円礫が不定形に広がり、その礫を除去した後に３基とも検出された。この円礫群と検出した３基の遺構が一連であるかどうかは判断できなかった[註9]。またSK３・８・９の３基とも形状は円形を呈し、切り合い関係がみられるが、それぞれの遺構内から出土する遺物にはほとんど年代差が見られない。

遺物は土師・須恵器の坏身、蓋で、およそ８世紀後半～９世紀初頭に位置できるようである。また、それらは完形に近いものが多く、中には口縁部を意図的に一部打ち欠いだと考えられるものや、高台裏に「七月」と読める刻書を持つ資料も見られた。このことから、これら３基の遺構は短期間に複数回の掘り直しが行われ、さらにその都度完形もしくは、それに近い状態の坏・蓋を埋納した祭祀関連の遺構であることが想定できる。

また、Pit69からは、接合できる土師器は１点出土している。69の付近には多数のPitが検出されているが、その大半は覆土中に弥生時代の遺物を含むため、はっきりと古代の柱穴といえるのはこの１基だけである。

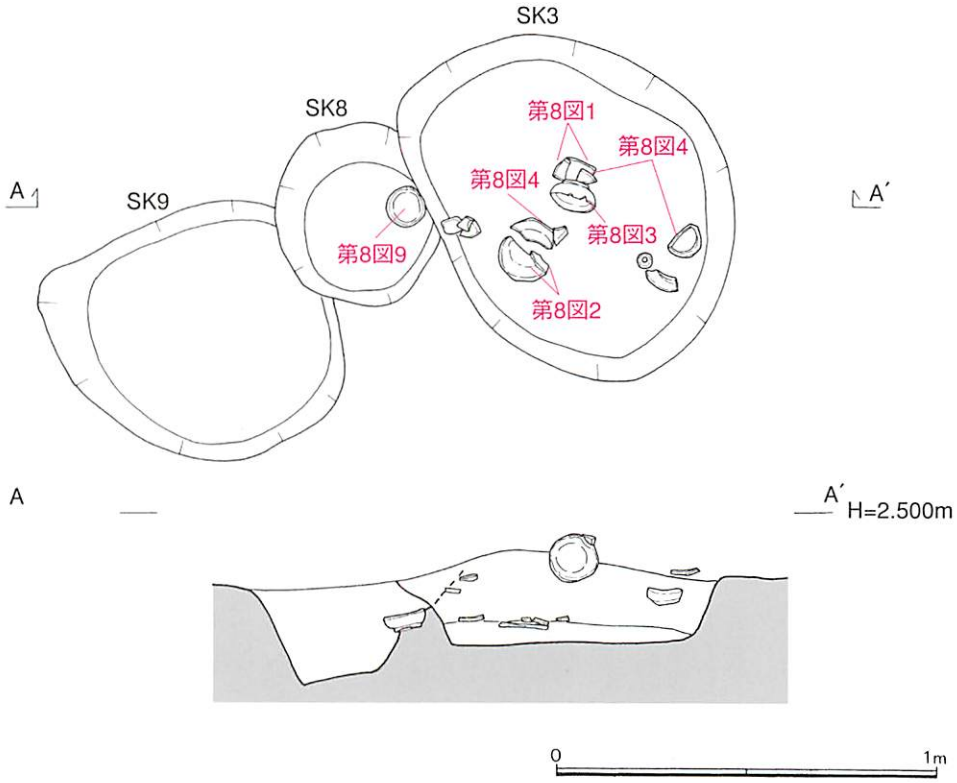
遺物（第８図・第９表１～10）

１、**２**は須恵器の坏蓋である。擬宝珠が潰れたつまみを持つタイプのもので、**１**は天井部付近に回転ヘラ削りが残る。２は焼成時大きく変形してしまっている。回転ヘラ削りは見られない。**３**は須恵器の坏身で低い高台を有す。口縁部に打ち欠いたような痕跡がみられる。**４**は須恵器の坏身で、やや外反する高台を持つ。焼成は良好である。**５**～**８**は土師器の坏身で無高台のものである。**５**は口径15cmに対し、器高が４cmと非常に浅く、皿に似た形状を呈す。また**６**は口径10cmに対し器高が４cmと深い。**７**は高台を有す土師器の坏身である。復元口径が約15cm、器高が４cmである。調整は内外面ともにナデである。高台裏には刻書で「七月」と読める文字が刻まれる。**９**は**５**と非常に類似する。**10**は須恵器の高台を有さないタイプの坏身で、口径が12cm、器高が約４cmである。これらの資料は小田富士雄編年のⅦ期～Ⅷ期に位置づけられるようである。

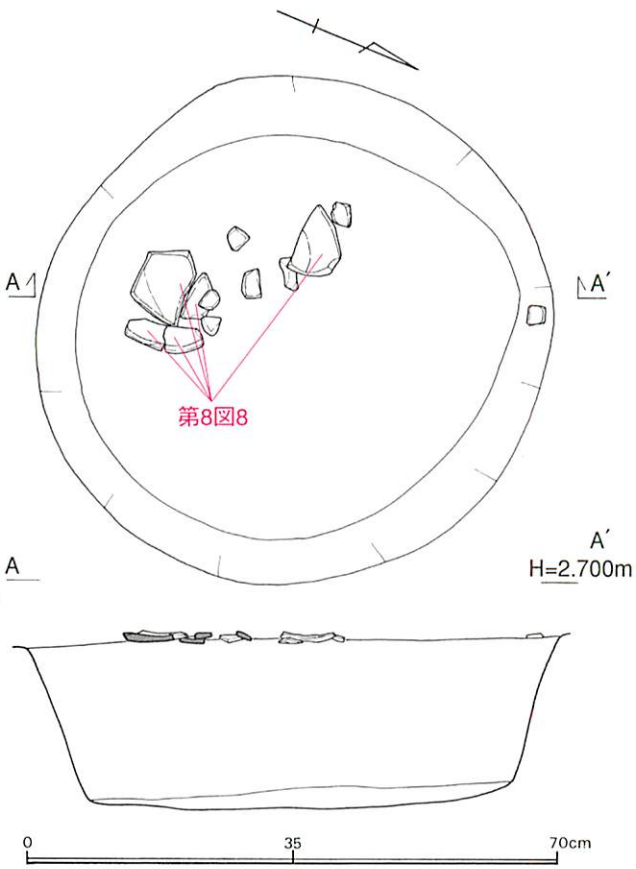
弥生時代前期

遺　構

当該期の遺構として柱穴（Pit）約500基、土坑（SK）約40基、溝状遺構（SD）が２基検出された。遺構面は主にＡ地区東端部（調査区中央部付近）とＢ地区（調査区東半部）で確認できた。遺構を検出したＸ層は、主として混じりの少ない砂質土層で構成される。Ｂ地区を南北に走る溝状遺構（SD１・２）より東側は地山であるⅫ層が盛りあがるように堆積しているため、Ｘ層の堆積は希薄で、遺構も少ない。このことから、SD１・２は排水のため機能よりも、居住区域とそうでない区域を区分けする用途で掘られたものと考えられる。またＡ地区は遺構面自体の残りが非常に悪く、特に西側は現代の耕作によって大きく削平をうけている。わずかに検出された遺構は、本来、比較的深く掘り込



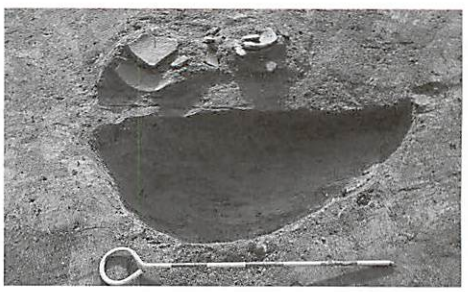
第６図　SK３・８・９遺構実測図（S＝１/10）



第７図　Pit69遺構実測図（S＝１/20）

SK３半裁（北から）

SK３・８・９完堀（北から）

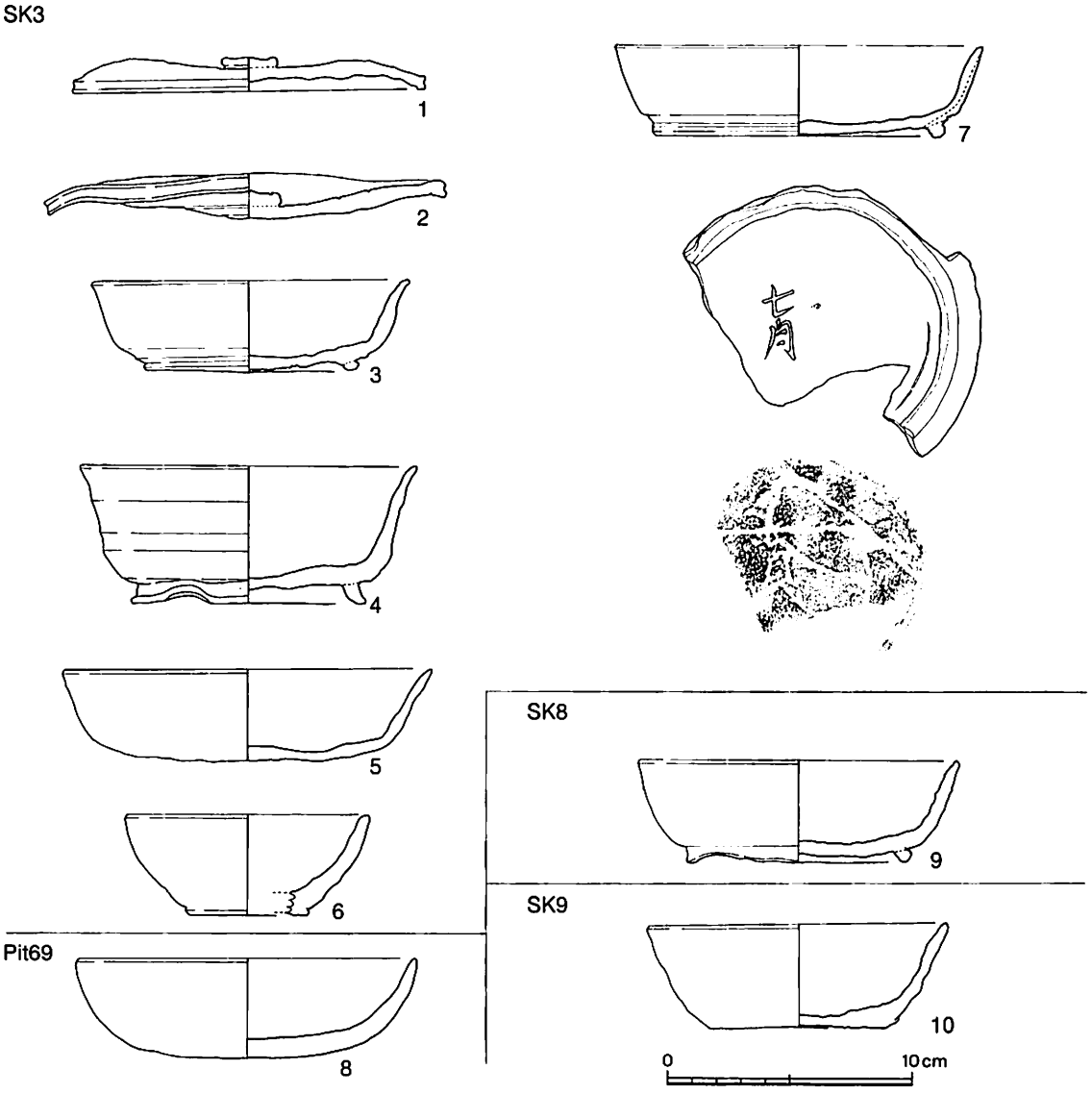


Pit69半裁（北から）

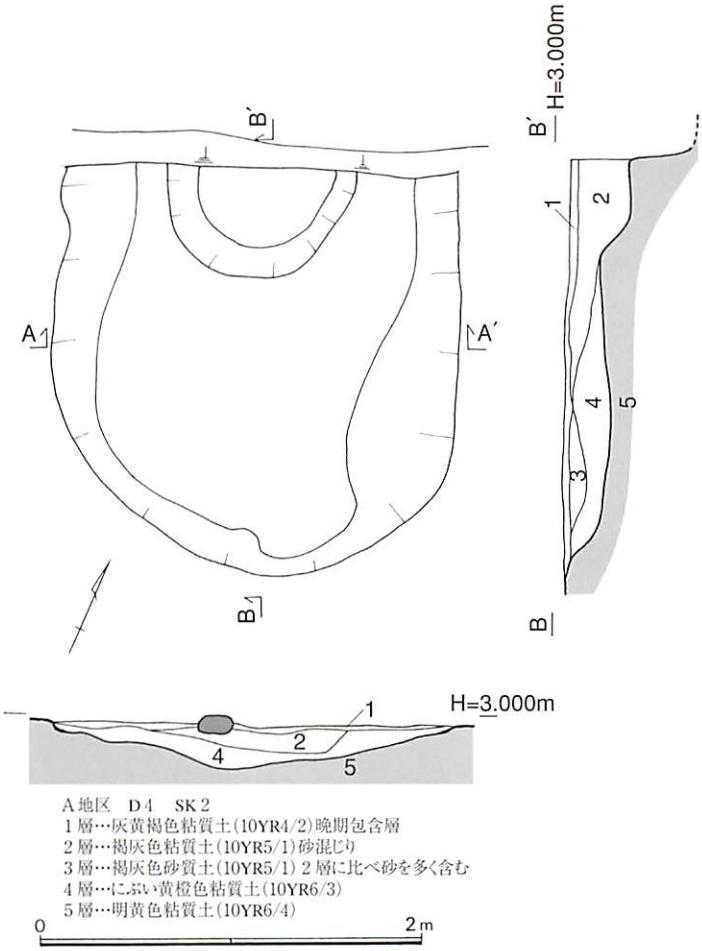
まれていた遺構の下端付近が、かろうじて残っていたものと想定できる。

土坑（SK）（第９・10・12～14図）

検出した土坑のうち、比較的まとまって遺物が出土したSK２・４・５・15・20・31を取上げる。このうちSK２～SK15までがＡ地区東部、SK20、31がＢ地区西半部での検出である。SK２の北側部は、東西方向の壁際に先行して設定したサブトレンチにかかる。遺構の北側端は調査区外にもぐる形になっている。検出できた状態での規模は、南北方向に約2.2m、東西方向に約２mの楕円形を呈す。遺構内北側にはテラス状の落ち込みが１段確認できる。覆土は４層に分かれる。１層は灰黄褐色粘質土（10YR4/2）で弥生時代中期の包含層である。２層は褐灰色粘質土（10YR5/1）で砂混じり、３層は褐灰色砂質土（10YR5/1）で２層に比べ砂を多く含む。４層はにぶい黄橙色粘質土（10YR6/3）である。遺構内からは粗製の深鉢や扁平打製石斧など縄文時代晩期にみられる資料が弥生時代前期の遺物と共に出土している。SK４・５はSK４が５を切る形で検出された。SK４は直径約1.2mほどの円形に近い形状をなす。SK５は４に切られているため、形状は不明である。SK４からは口縁と胴部に刻目突帯を巡らす深鉢など、弥生時代前期の資料がまとまって出土している。SK５からは遺物が出



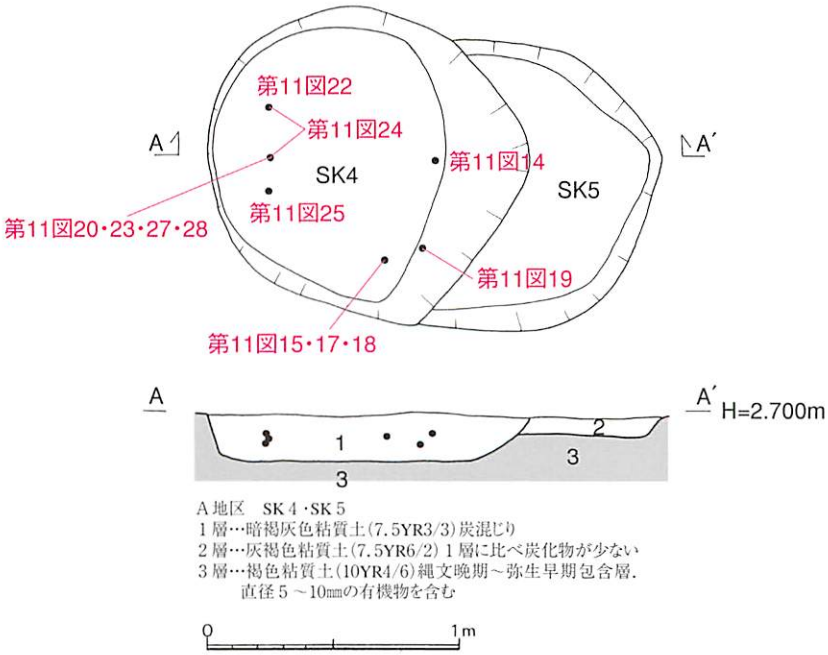
第８図　SK３・８・９出土遺物（S＝１/３）



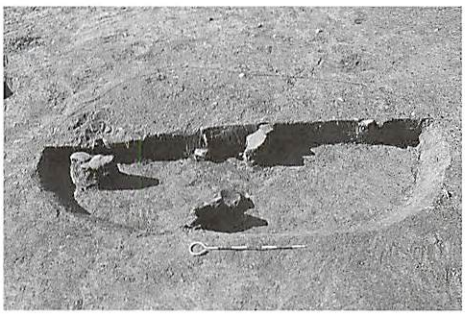
第9図　SK2遺構実測図（S＝1/40）

SK2セクションベルト（南から）

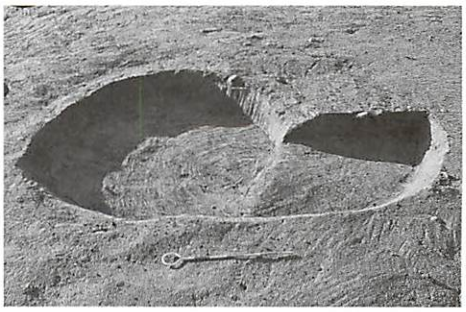
SK2完堀（北から）



第10図　SK4・5遺構実測図（S＝1/30）



SK4・5半裁（南から）



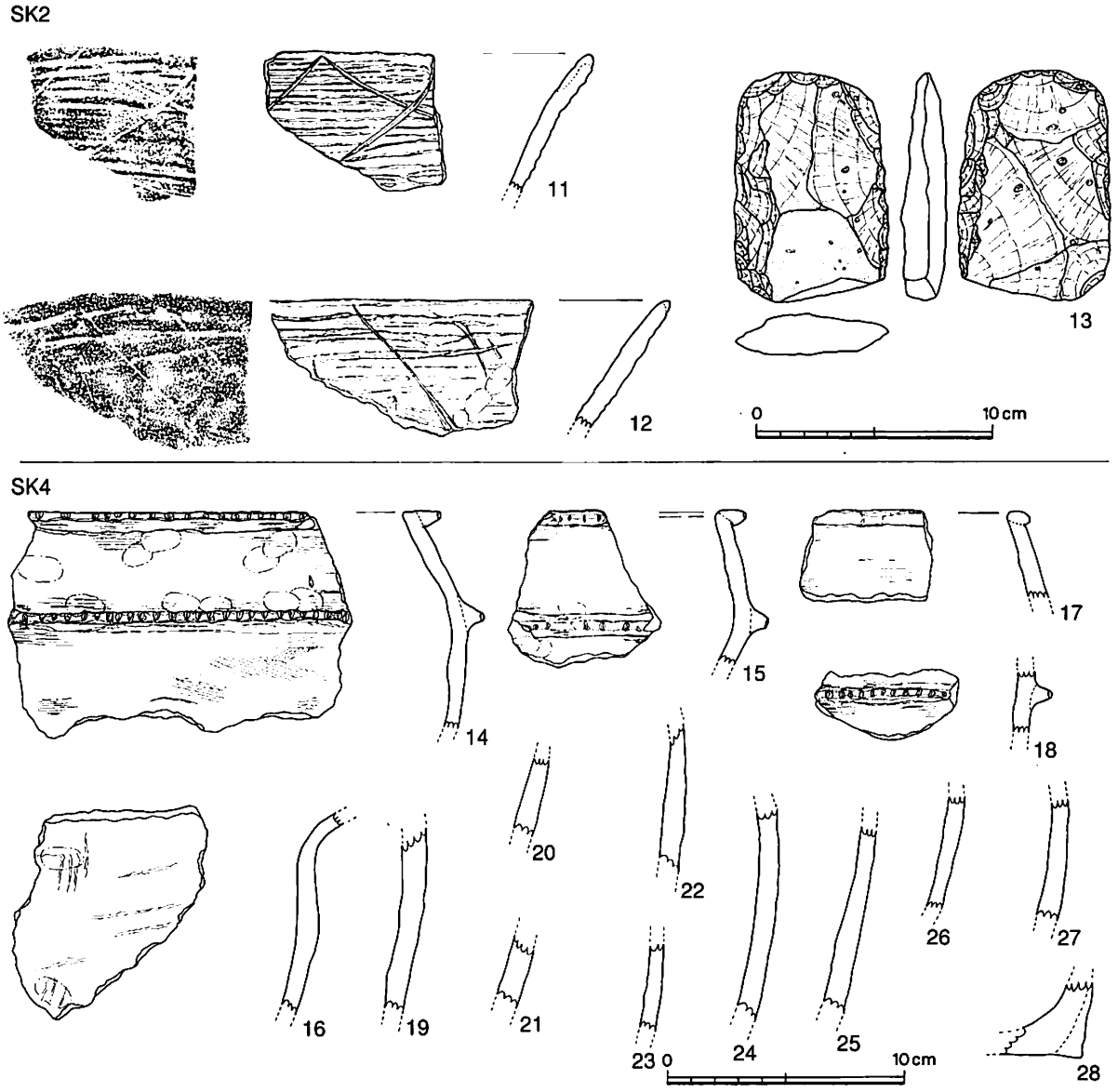
SK4・5完堀（南から）

土せず、遺構年代は不明である。SK15も同じくA地区東半部で検出された。長軸約2.7m、短軸約1.2mの隅丸方形を呈す。覆土は3層からなり、2層には炭化物および赤色化した焼土ブロックが混じる。SK20は長軸約2.0m、短軸約1.7mを測りタマゴ型を呈す。遺構内には1段の緩やかなテラスが巡る。大量の土器片が出土したが、床面に張り付くように出土した甕は、底部を除きほぼ復元可能な資料である。覆土は2層に分かれる。SK31は長軸約2.6m、短軸約1.61mを測り、半円形を呈す。遺物の出土は遺構覆土の上層に集中し、刻目突帯を有する甕などと共に、橿原文様に非常に類似する装飾を施した石製品が出土している。ただし、遺構検出面の上層には、縄文時代晩期から弥生時代中期の遺物が混じる二次堆積層が覆い被さっていたため、それらの資料が混入している可能性も考えられる。

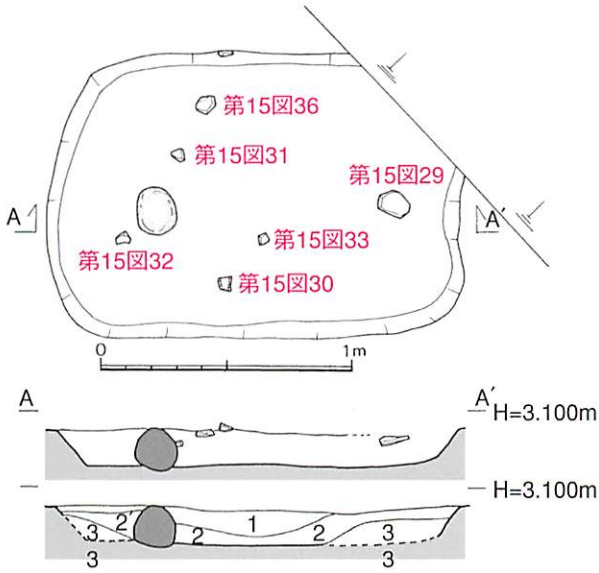
柱穴（Pit）（第20～30図）

Pitが多く検出されたB地区あるが、覆土は大きく①黒褐色粘質土、②黒色粘質土、③褐灰色土の3種に分けられる。それらの配置を示したものが第20～22図である。

対象としたPit234基の内、①が96基で41%、②が18基で8%、③が120基、51%となる。分布は、



第11図　SK2・4出土遺物（S＝1/3）

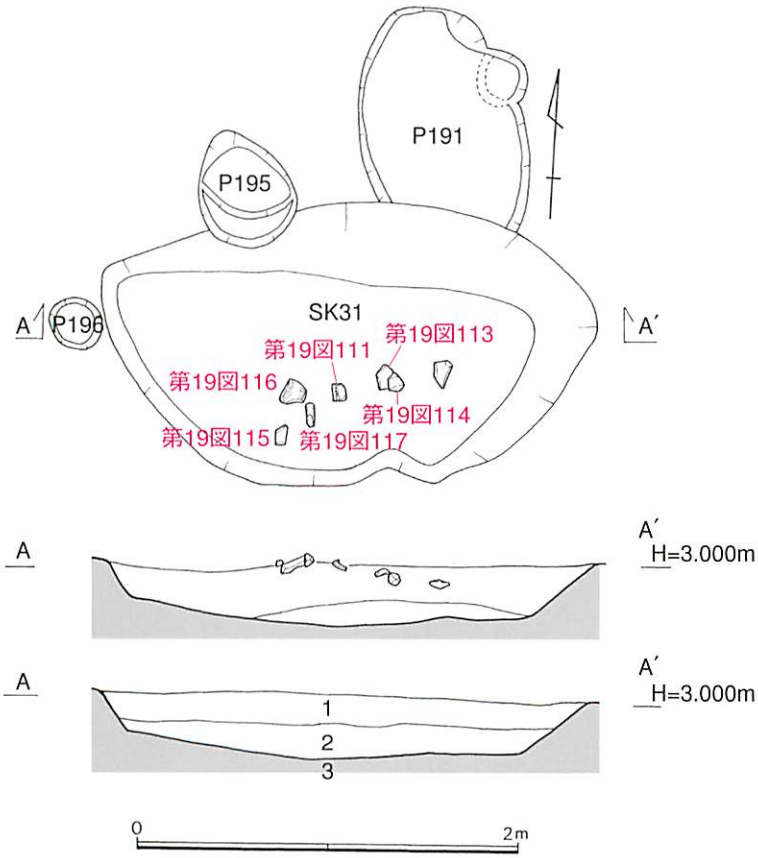


B地区　SK15
1層…灰黄色粘質土(2.5Y6/2)しまり弱い，わずかに炭化物を含む
2層…暗灰黄色粘質土(2.5Y5/2)しまり弱い，多量の炭化物を含み，焼土が混じらない
2′層…暗灰黄色粘質土(2.5Y5/2)しまり弱い，多量の炭化物，焼土が混じる
3層…黄灰色粘土　地山

第12図　SK15遺構実測図（S＝1/30）

SK15セクションベルト（南から）

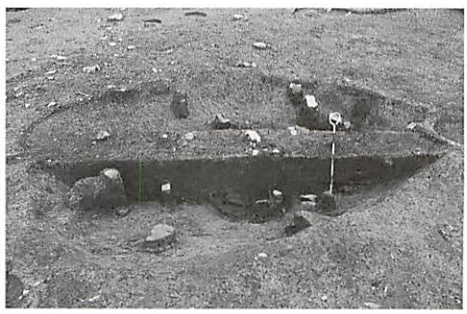
SK31完掘（南から）



B地区　SK31
1層…暗灰黄色粘質土(2.5Y5/2)しまり弱い，微量の炭化物を含む
2層…黄灰色粘質土(2.5Y6/1)しまり弱い，地山ブロック混じり
3層…浅黄色粘質土(2.5Y4/3)しまり弱い，地山ブロック混じり

第13図　SK31遺構実測図（S＝1/40）

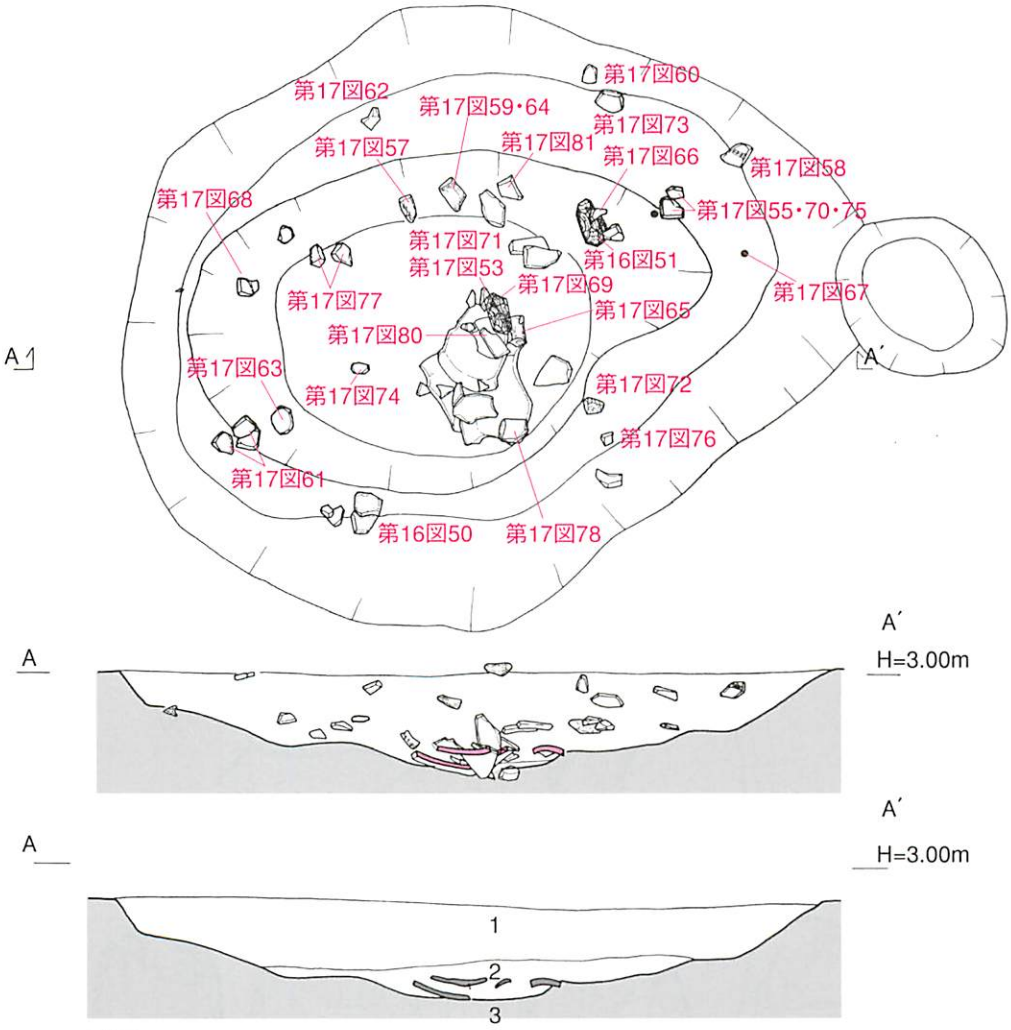
SK31遺物出土状況



SK20セクションベルト（南から）

SK20完掘状況（南東から）

SK20遺物出土状況

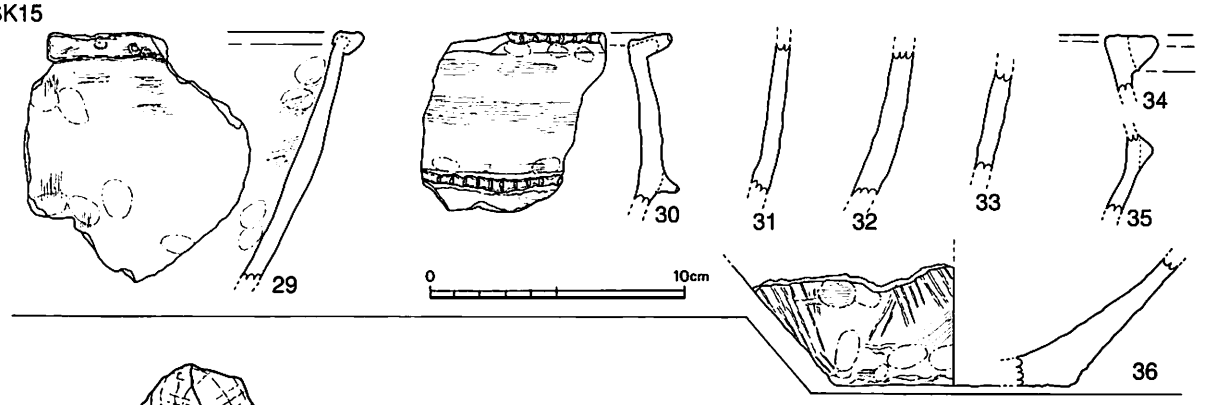


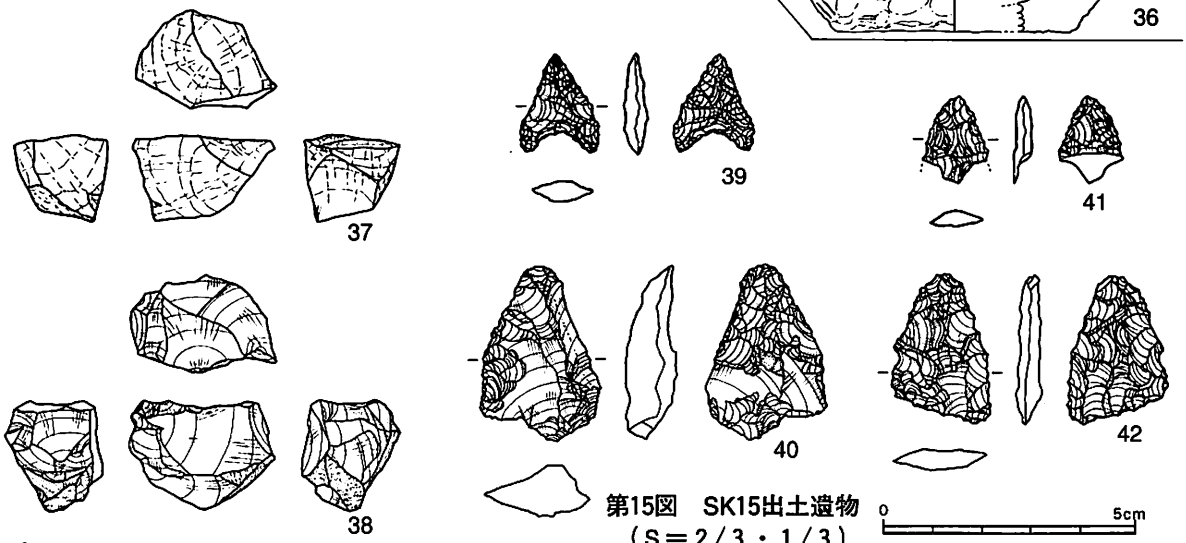
B地区　SK20
1層…黄灰色粘質土(2.5Y4/1)しまり弱い．微量の炭化物が混じる．直径20～30㎜程度の地山ブロックが混じる
2層…黄灰色粘質土(2.5Y4/1)しまり弱い．1層に比べ炭化物が非常に多い．弥生時代前期の遺物が多量に混じる
3層…地山

0　1m

第14図　SK20遺構実測図（S＝1/20）

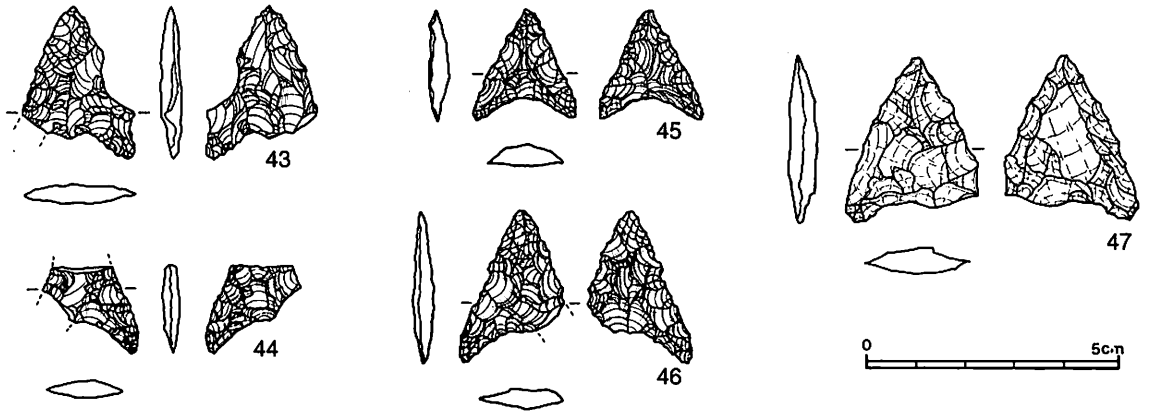
SK15

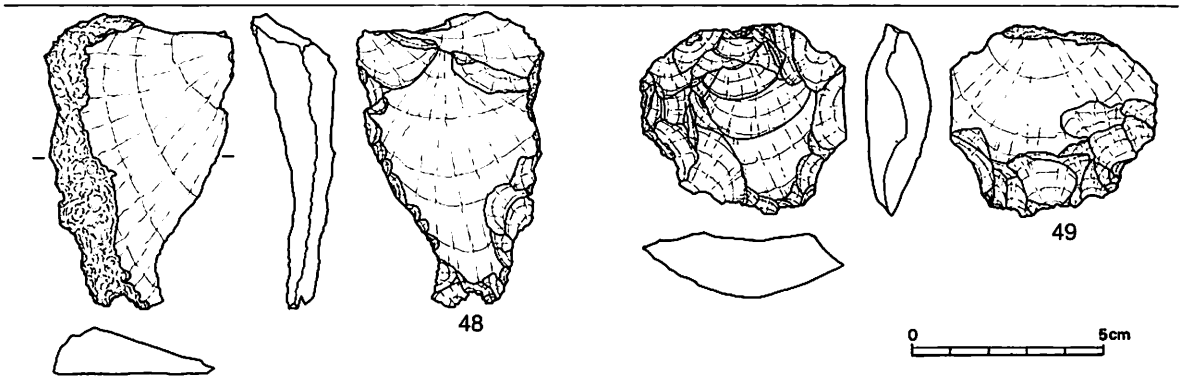


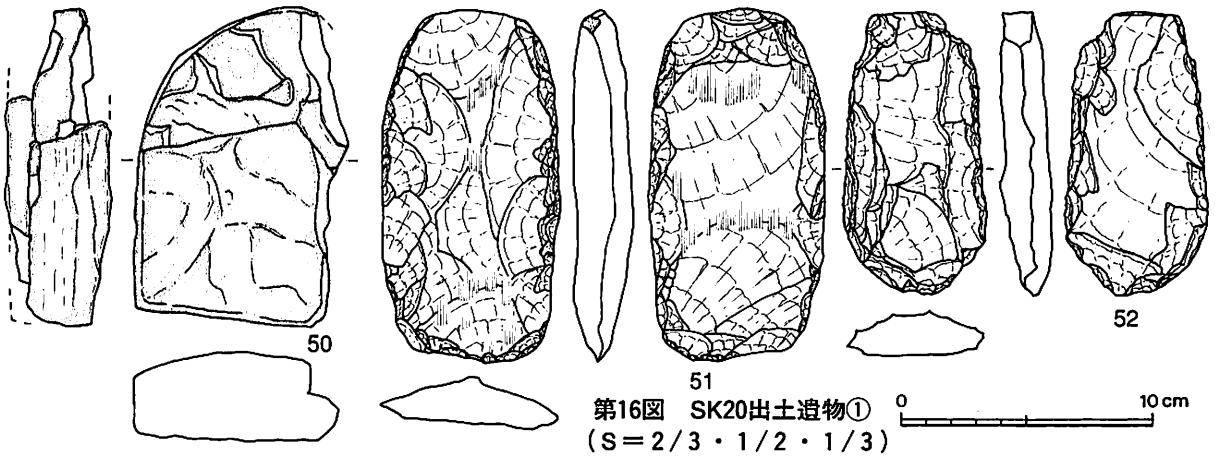


第15図　SK15出土遺物
（S＝2/3・1/3）

SK20

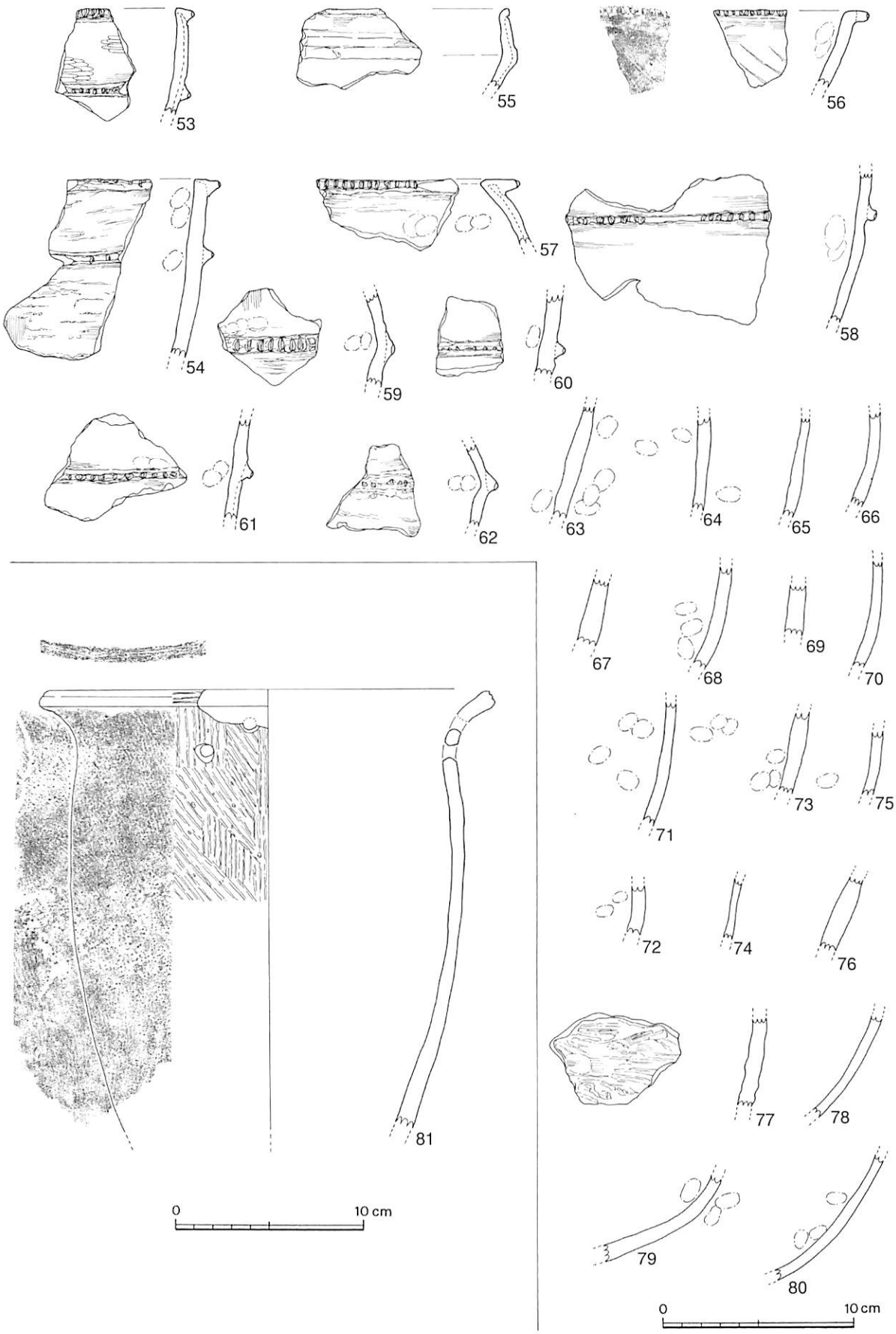




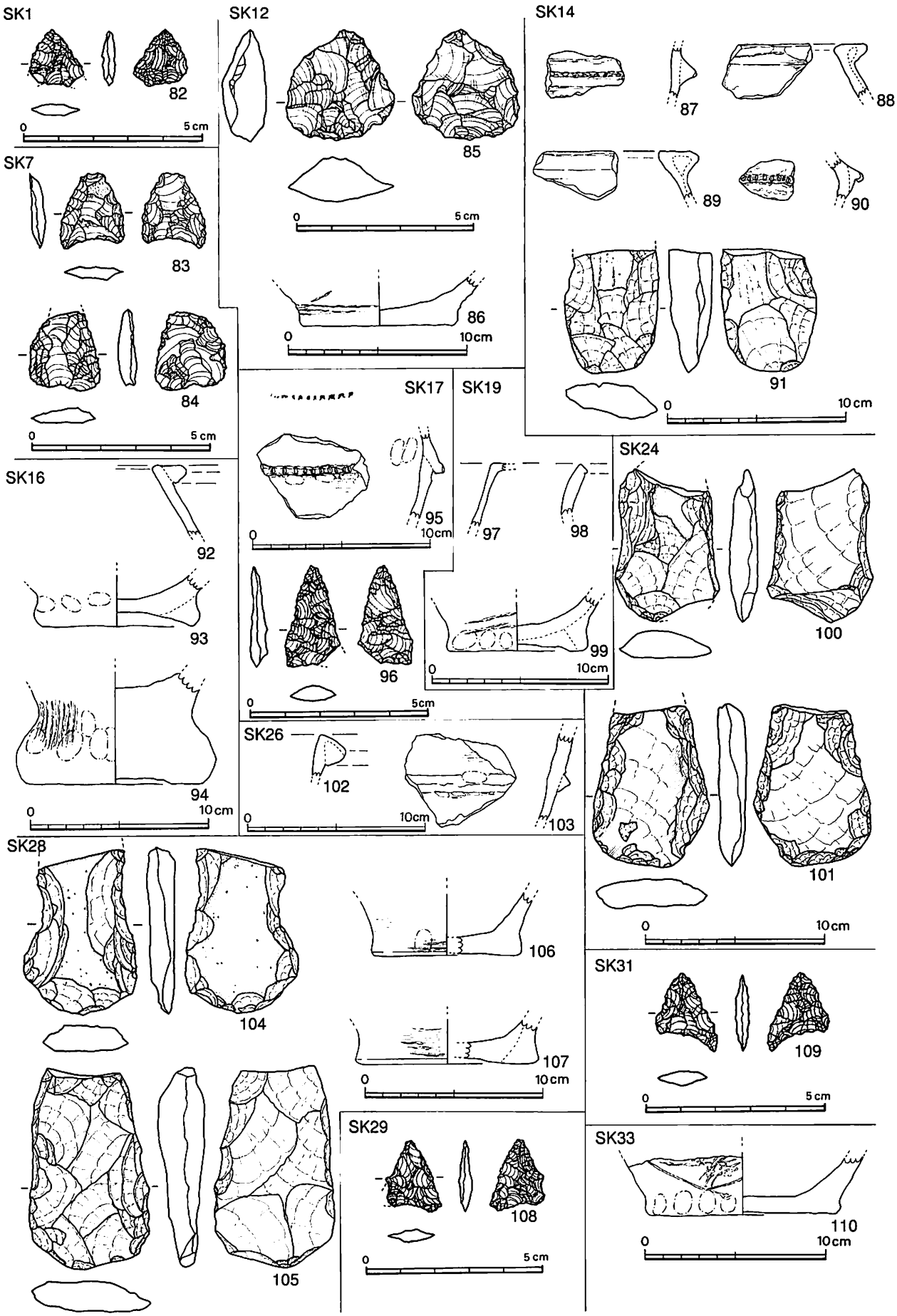


第16図　SK20出土遺物①
（S＝2/3・1/2・1/3）

SK20



第17図　SK20出土遺物②（S＝1／3・1／3）



第18図　SK１・７・12・14・16・17・19・24・26・28・29・31・33出土遺物（S＝2/3・1/3）

①が調査区東半部に集中する傾向がある。②は数が少ないが東半部と西半部に確認できる。③は調査区全体に広く分布するが、東半～中央部にかけて比較的密に確認できる。①～③の覆土内から出土する遺物に年代差は見られなかった。

またB地区の中でも、特にPitが集中する東半部付近において床面標高別の基数、分布を比較、検討したものが第23～30図である。Pitの床面の標高は2.500m～3.00mまでの50cmの範囲にほぼ収まる。これらをさらに5cmごとに区切り検討を行った。その内訳はA2.601m～2.650mが17基で6％、B2.651～2.700mが48基で18％、C2.701～2.750mが53基で20％、D2.751～2.800mが45基で17％、E2.801～2.850mが34基で13％、F2.851～2.900mが32基で13％、G2.901～2.950mが24基で9％、H2.951～3.000mが18基で7％となった。A～Hそれぞれの分布は、A～DまでがB地区東半部でも比較的中央部に集中し、またE～Hは北東側に集中することがわかった。

遺構出土遺物（第11・15～19図）

SK 2 出土遺物（第11図11～13）

11・12は粗製深鉢の口縁部である。外面に条痕がみられる。13は扁平打製石斧で刃部を欠損する。

SK 4 出土遺物（第11図14～28）

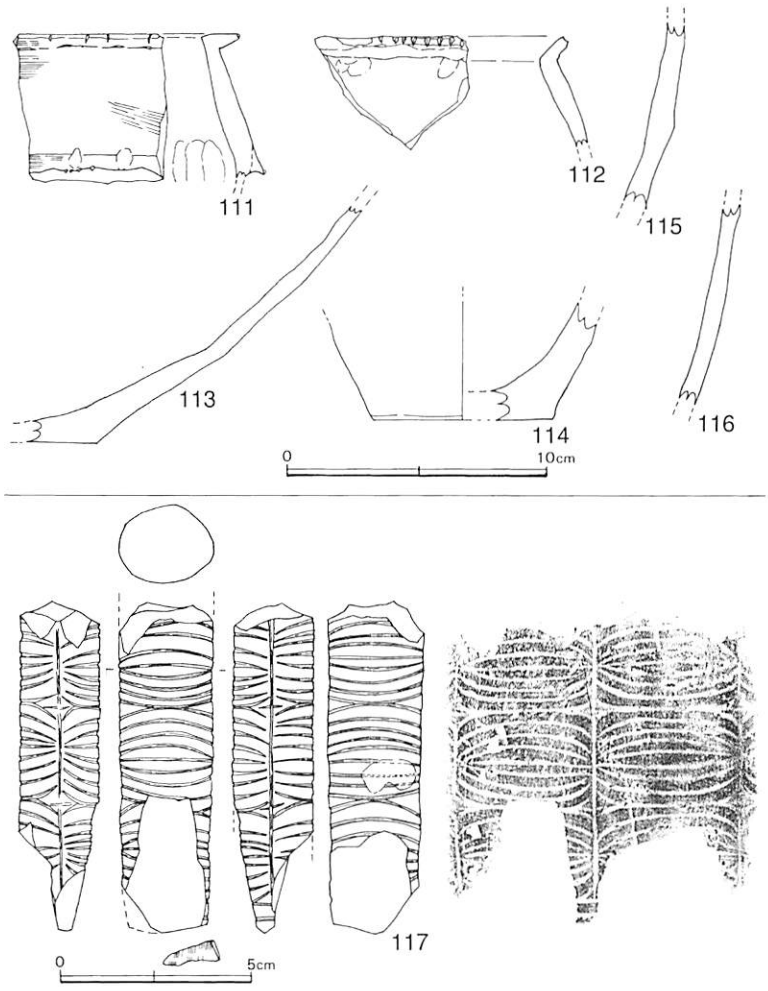
14・15は口縁部および肩部付近に刻目突帯を有す深鉢で口縁部である。17も口縁部外面が剥離しているため、断定はできないが、同一の資料と思われる。18は深鉢胴部である。16、19～27は甕の胴部付近である。28は底部である。

SK15出土遺物（第15図）

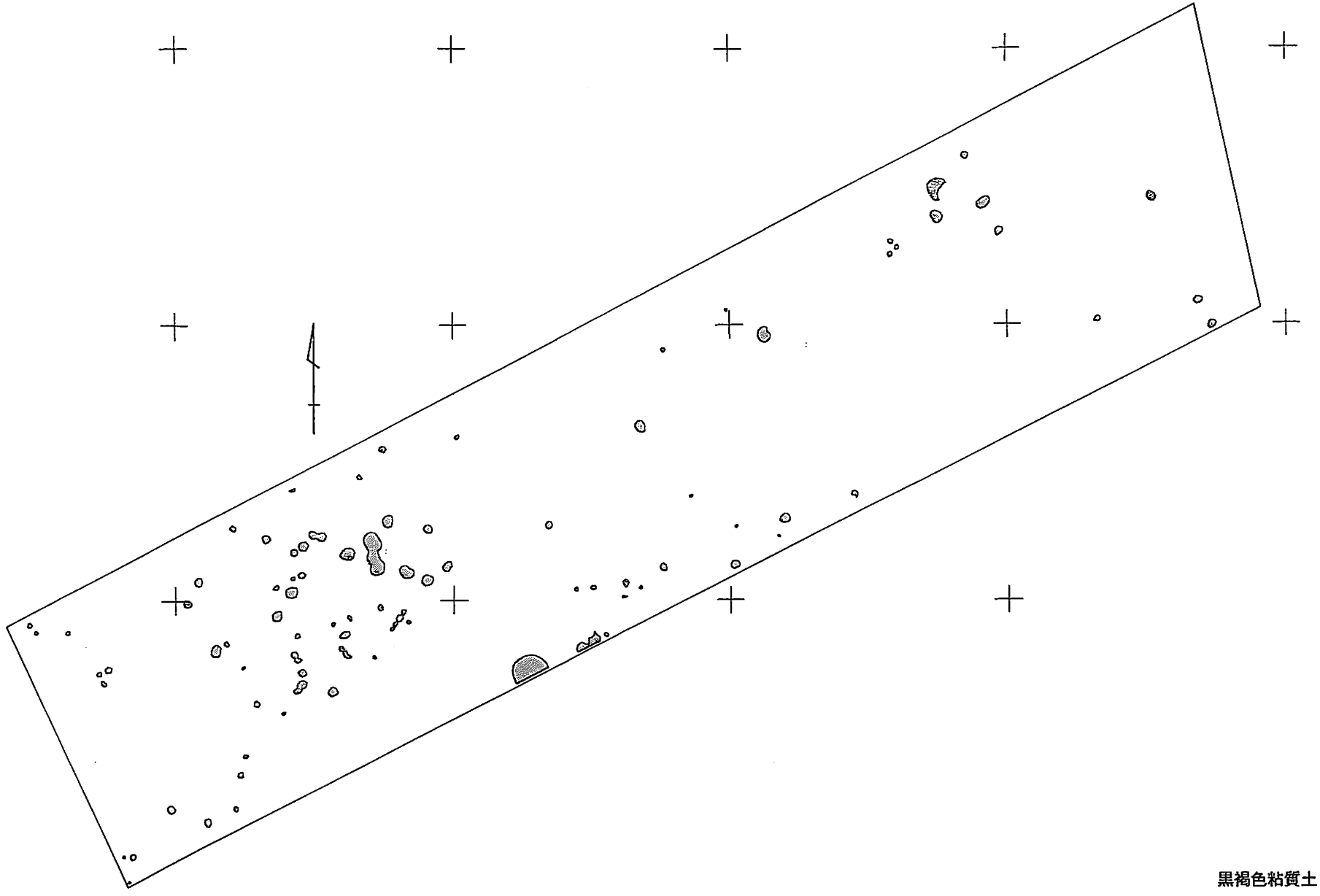
29は甕の口縁部である。色調は赤褐色を呈す。口縁部は断面円形の粘土紐を貼りつけて成形する。口縁部に貼りつけられた粘土紐の上面は、丁寧にナデを施し平坦にならし、外面にはユビオサエが部分的に残る。特徴から朝鮮系擬無文土器の可能性が高く、韓国青銅器時代後期前半に位置できるようである[注10]。30は口縁部および胴部に刻目突帯をもつ深鉢である。31～33は甕の胴部片。34は甕の口縁部。35は胴部付近である。36は壺の底部で外面にハケメが残る。37、38は石核で37は安山岩、38は黒曜石である。39～42は黒曜製石製の石鏃である。

SK20出土遺物（第16・17図）

43～47は石鏃である。石材は47が安山岩で残りはすべて黒曜石で

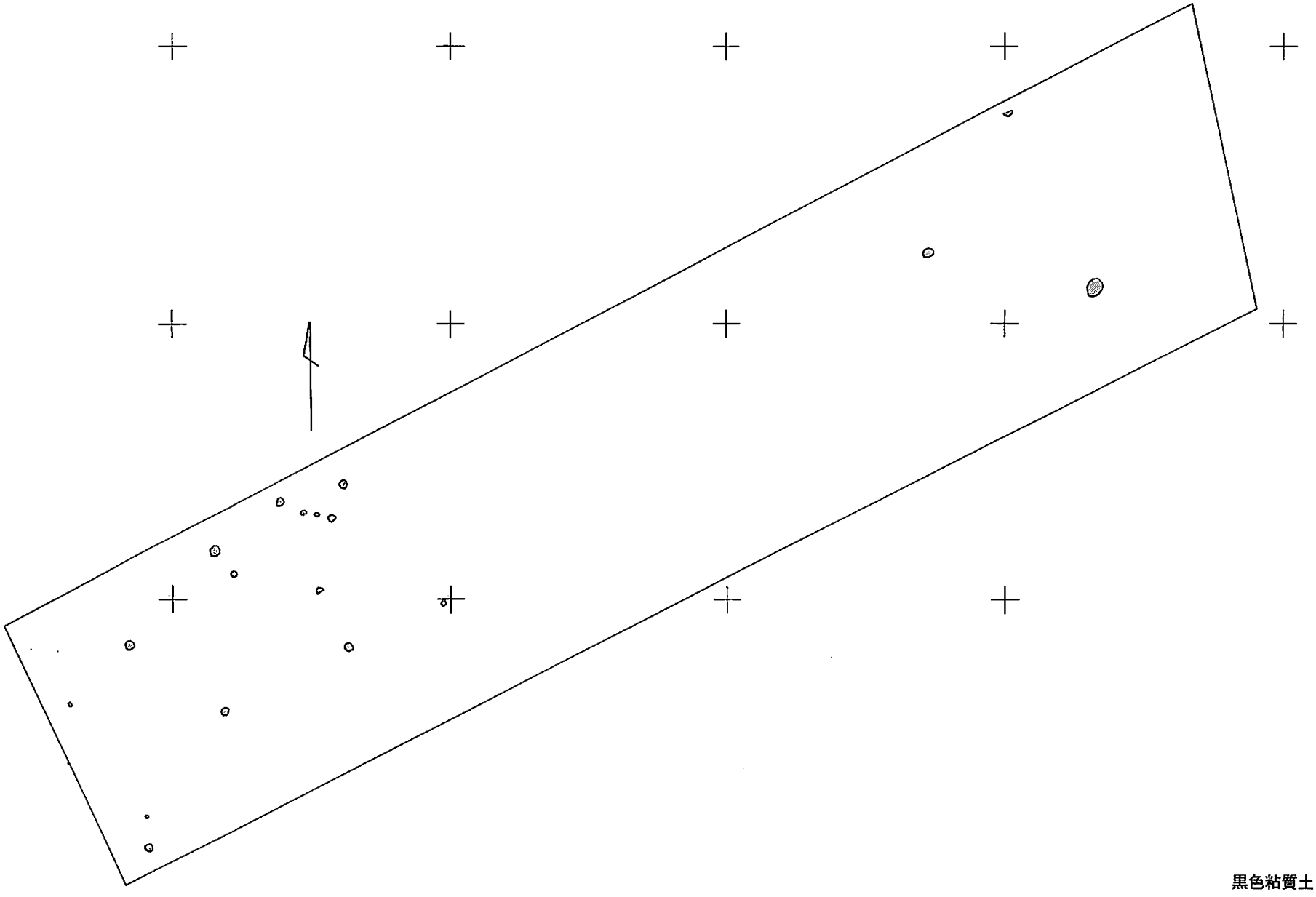


第19図　SK31出土遺物（S＝1／2・1／3）

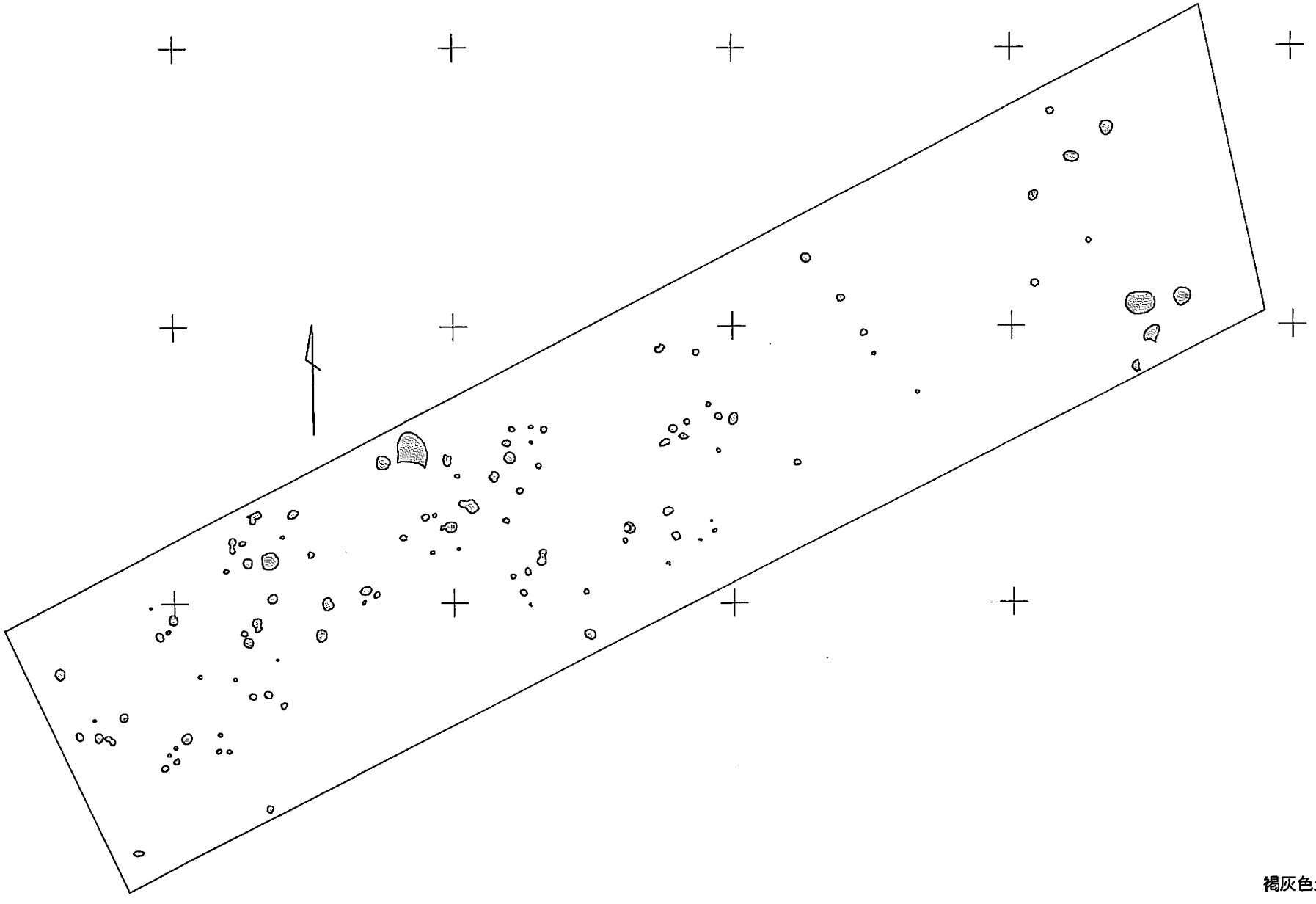


黒褐色粘質土

第20図　B地区 Pit 群覆土別配置図①（S＝1/200）



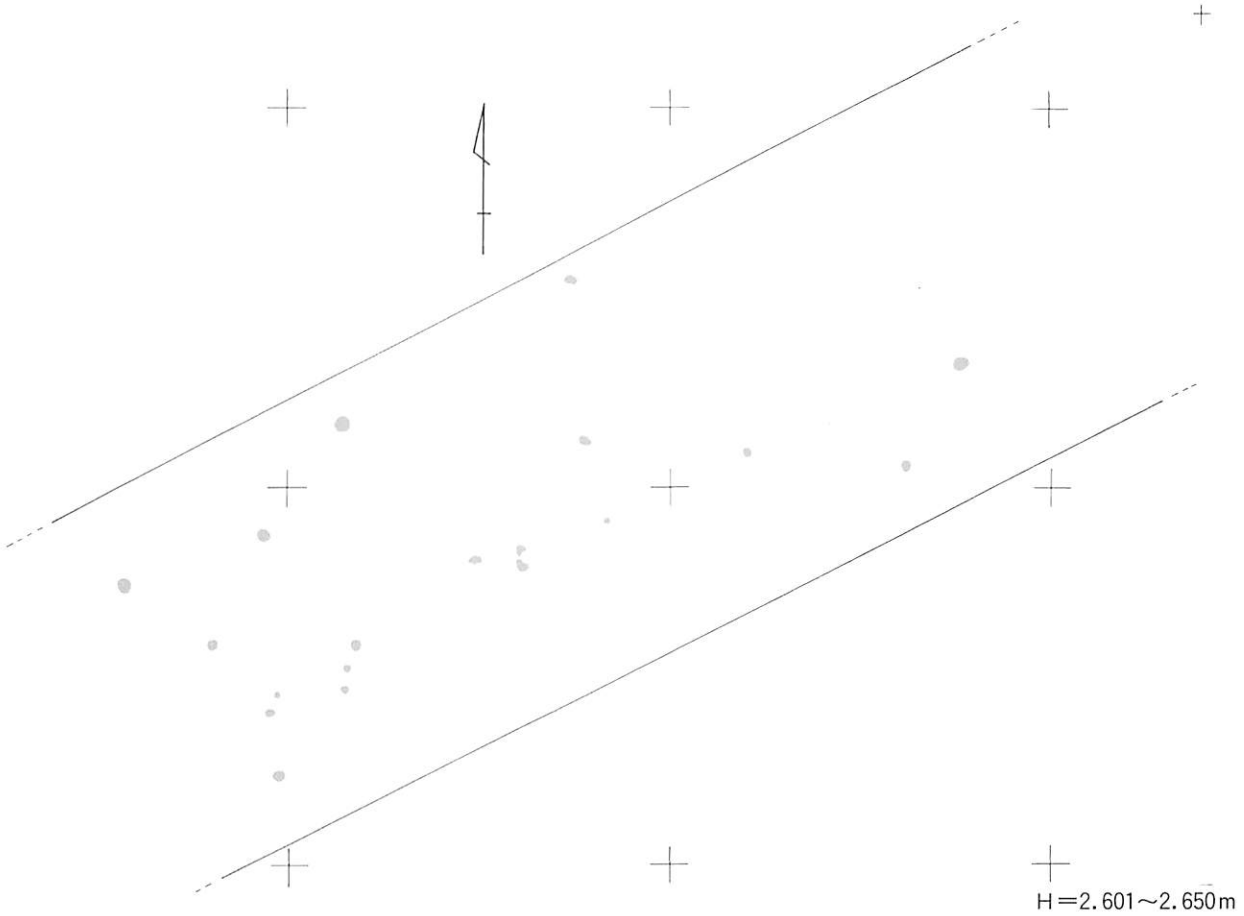
第21図　B地区 Pit 群覆土別配置図②（S＝1/200）



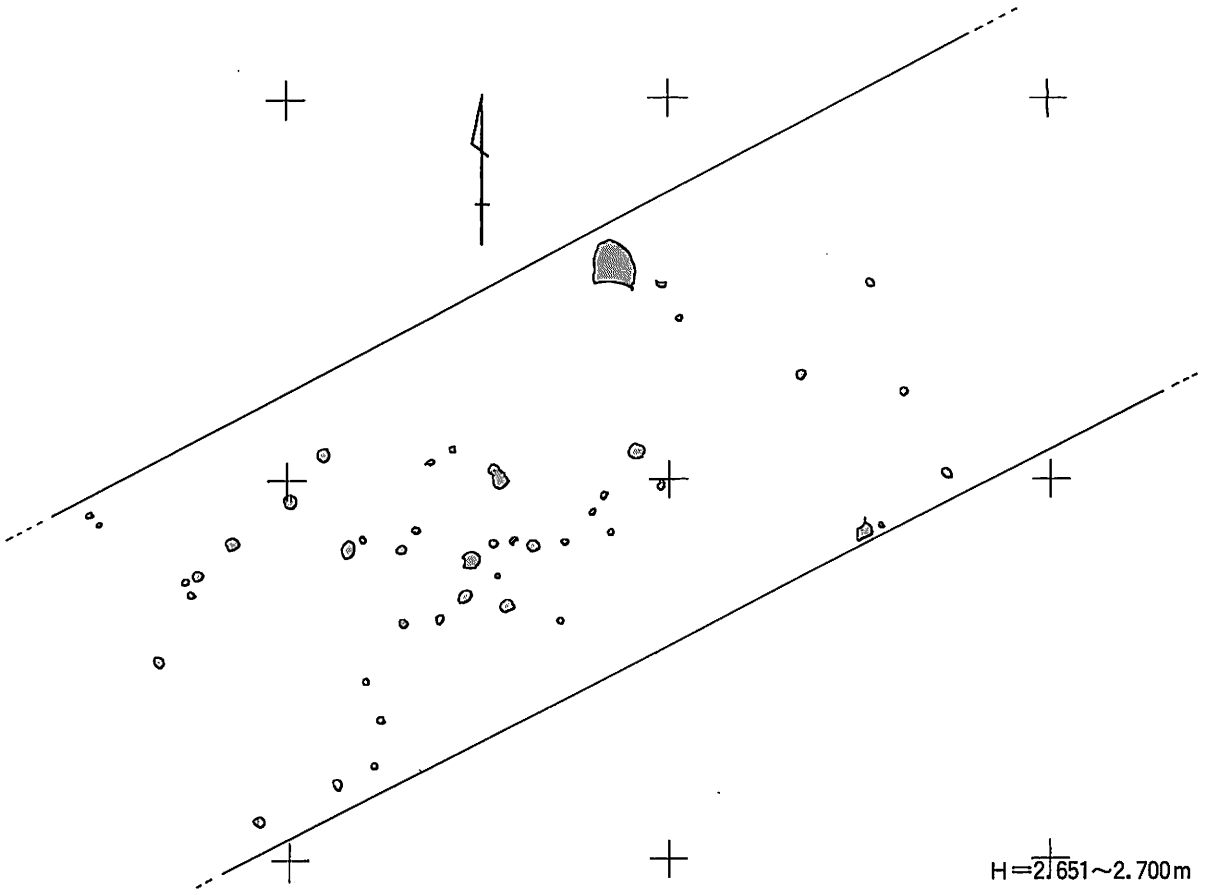
褐灰色土

第22図　B地区 Pit 群覆土別配置図③（S＝1/200）

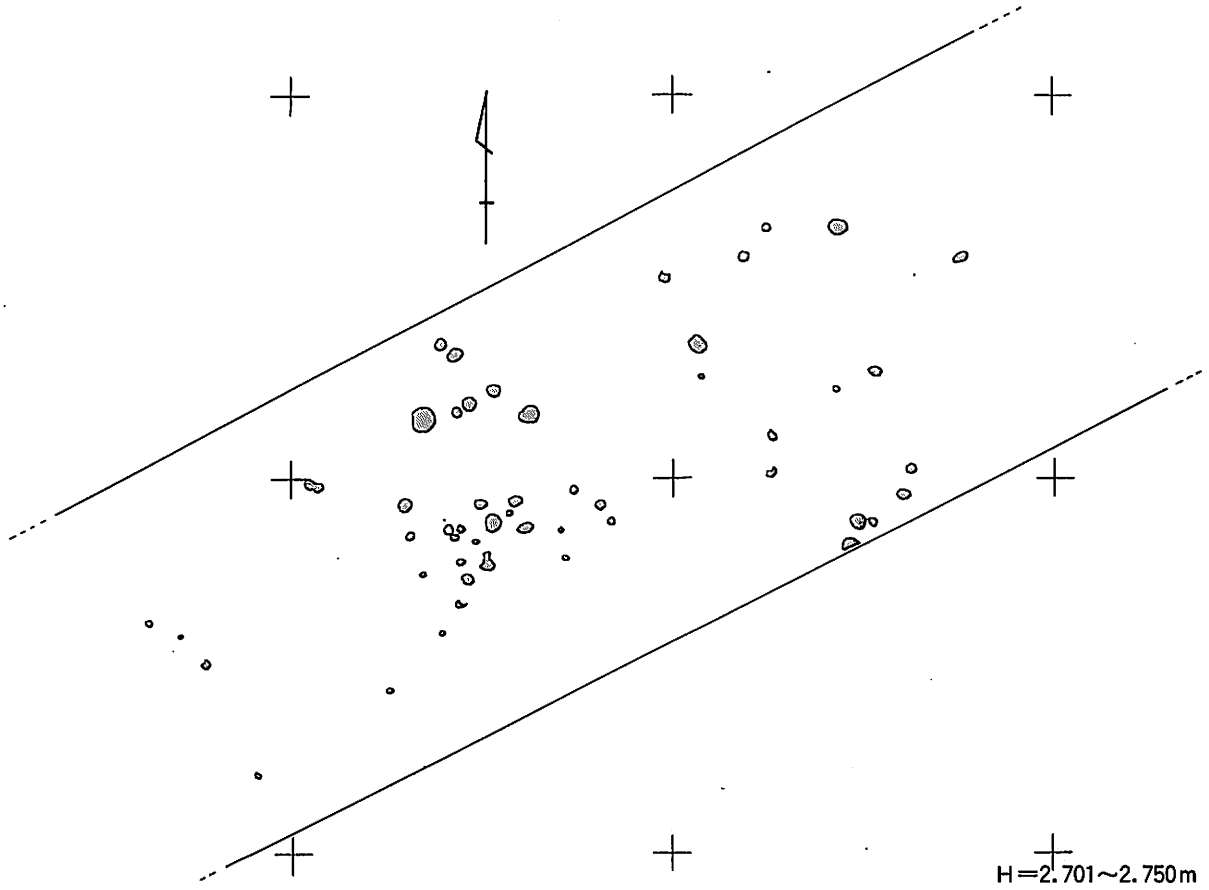
B区西半部 Pit 群



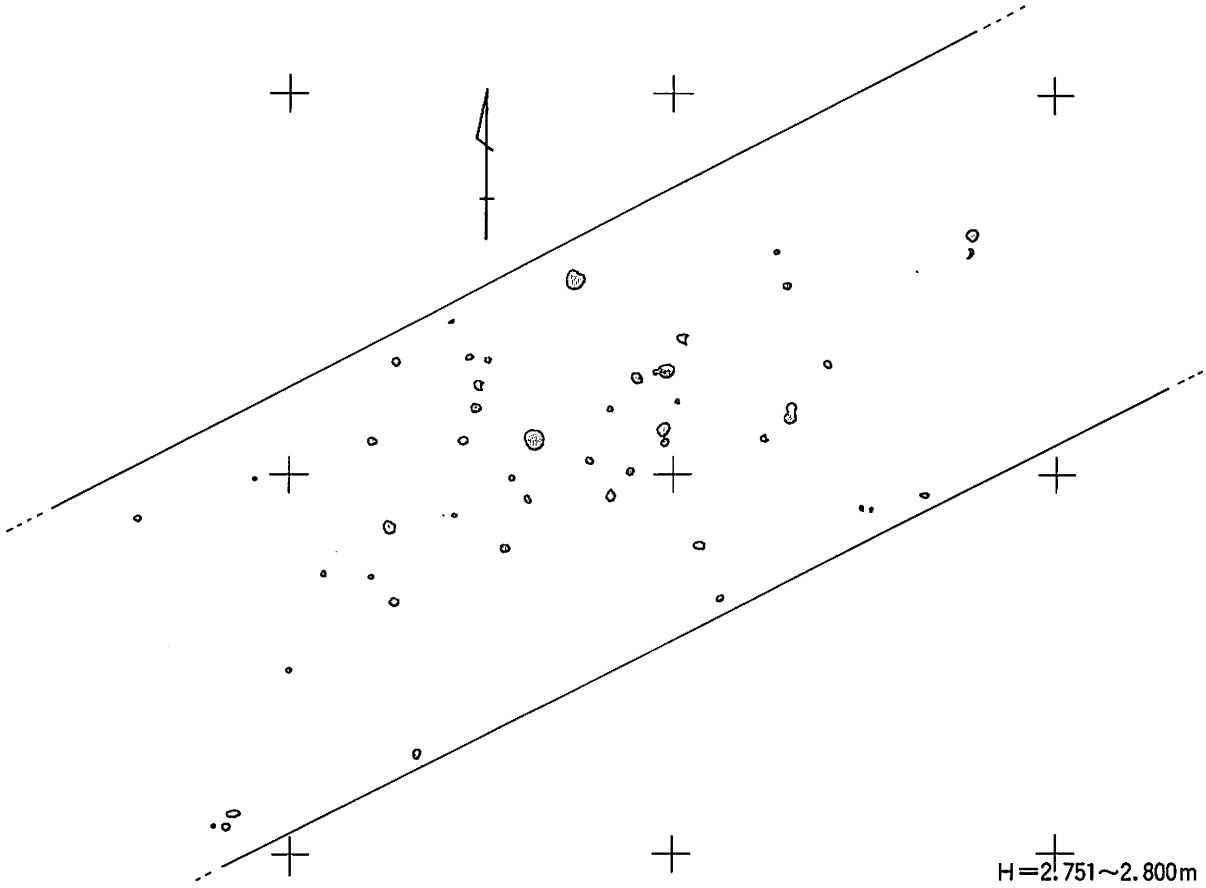
第23図　B地区ピット群床面標高別配置図①（S＝1/200）



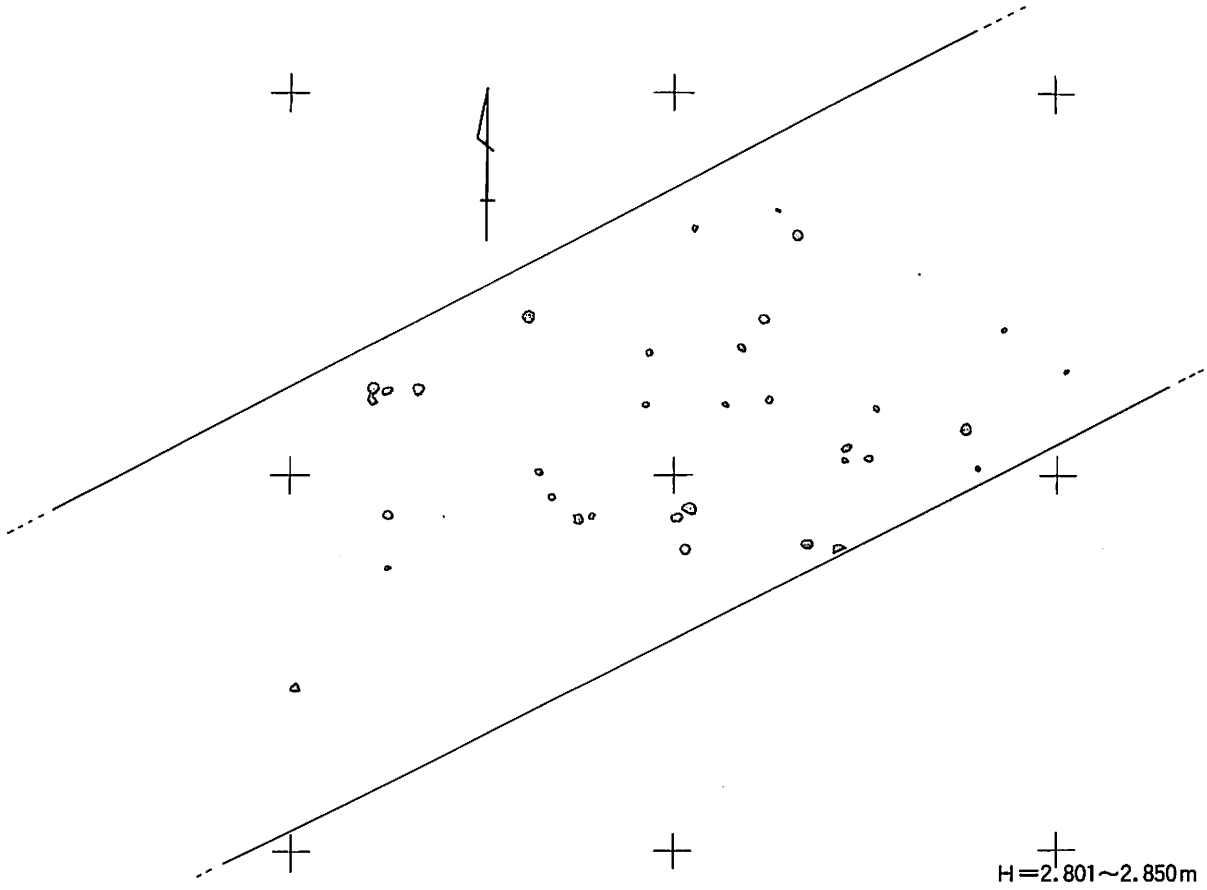
第24図　B地区ピット群床面標高別配置図②（S＝1/200）



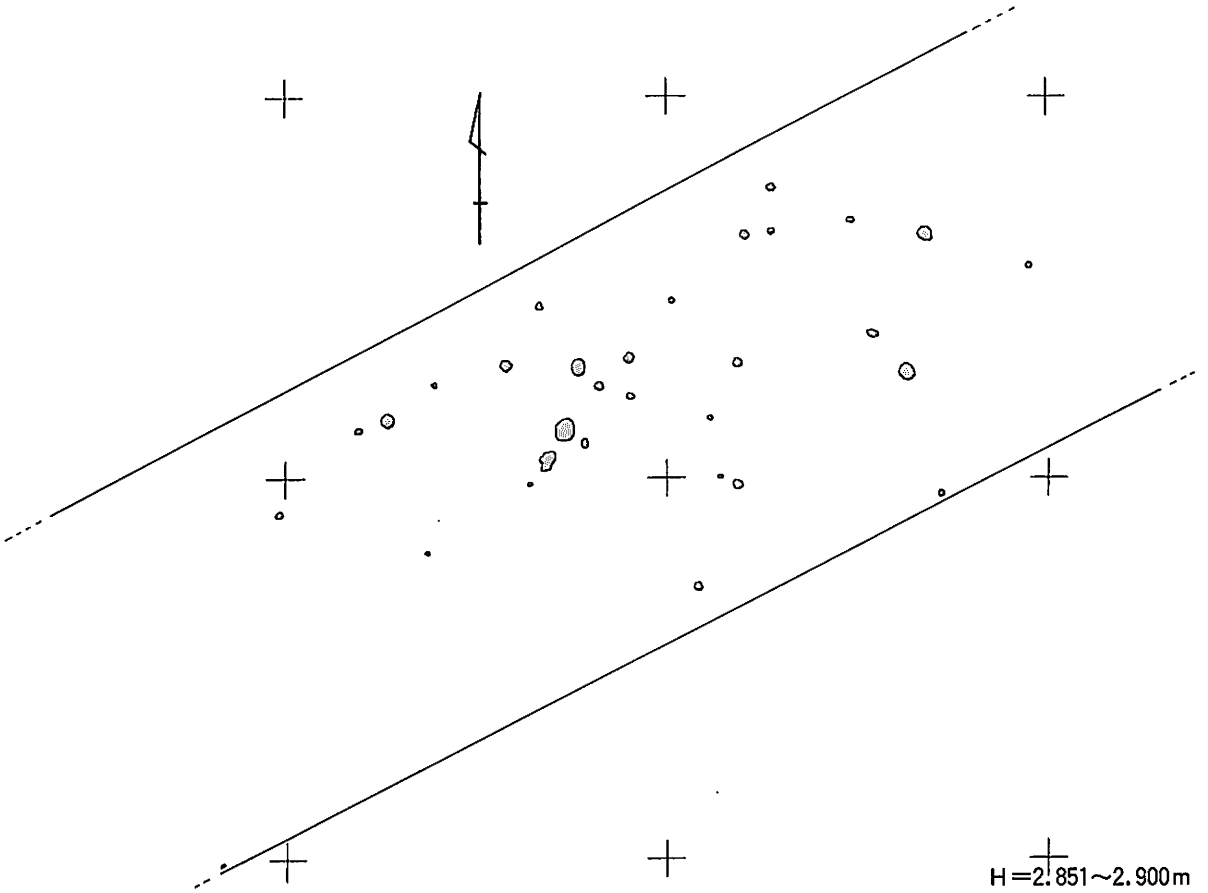
第25図　B地区ピット群床面標高別配置図③（S＝1/200）



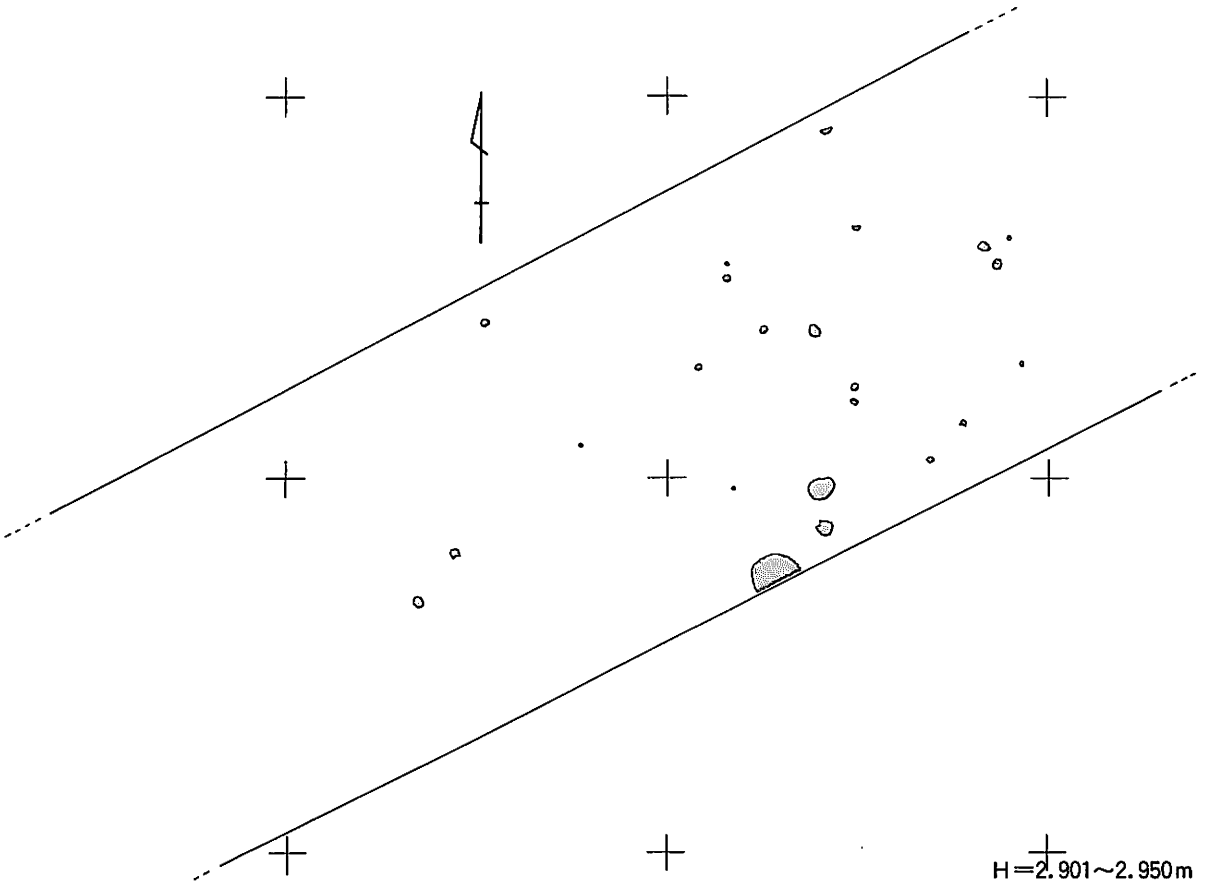
第26図　B地区ピット群床面標高別配置図④（S＝1/200）



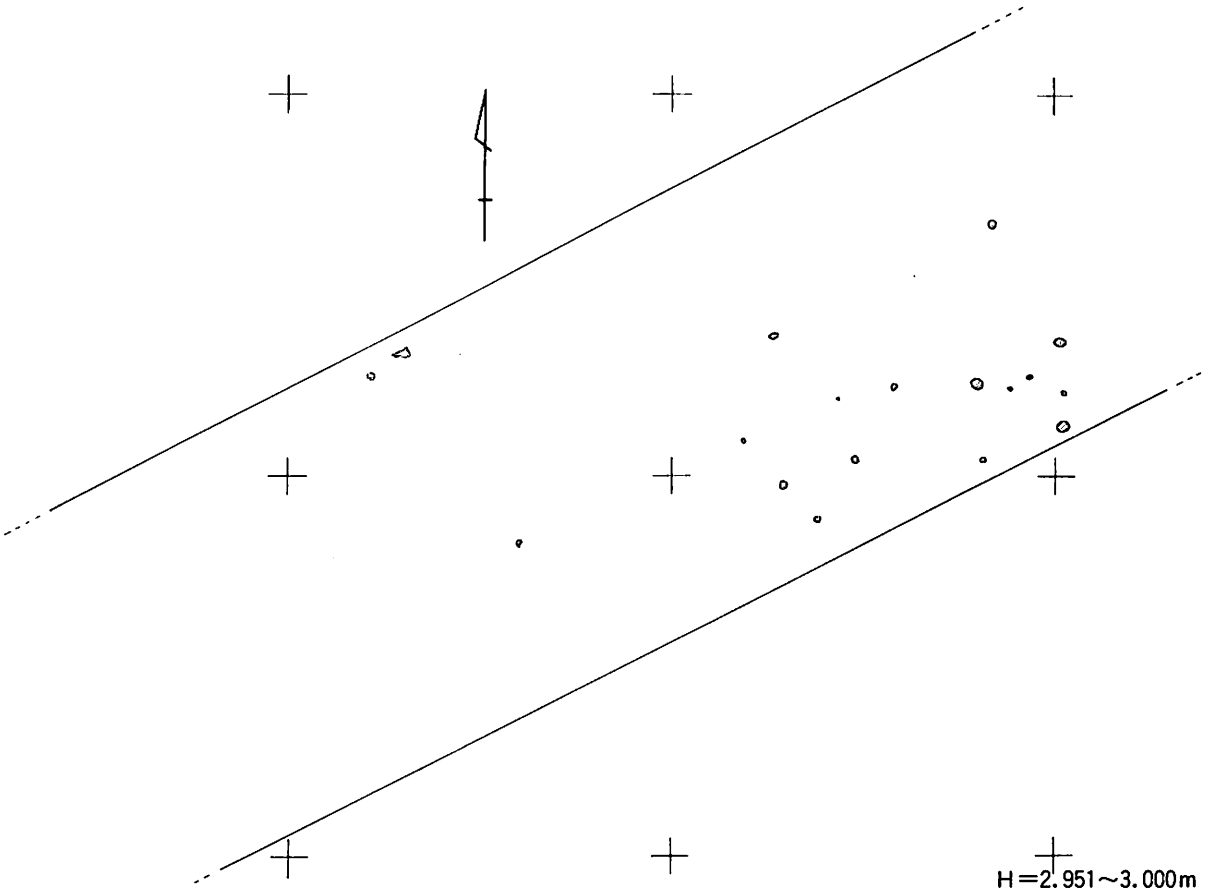
第27図　B地区ピット群床面標高別配置図⑤（S＝1/200）



第28図　B地区ピット群床面標高別配置図⑥（S＝1/200）



第29図　B地区ピット群床面標高別配置図⑦（S＝1/200）



第30図　B地区ピット群床面標高別配置図⑧（S＝1/200）

ある。48は安山岩の縦長剥片で一部に自然面が残る。49は安山岩のスクレイパーである。50は砂石製の砥石である。51、52は安山岩の扁平打製石斧である。53、54は口縁部および胴部付近に刻目をもつ深鉢。55には刻目はみられない。56は口縁部に刻目を持つ甕である。57～62は刻目を持つ深鉢である。63～77は甕の胴部付近で63、64、68、71、72のように内外面にユビオサエが残るものが見られる。78～80は壺の底部付近である。81は甕の口縁部から胴部である。口縁部はやや外反し、外面には3本の沈線が施される。口縁部直下には直径1cmほどの焼成後に施された、穿孔が2つ確認できる。また、外面にはハケメ痕が顕著にみられる。須玖Ⅰ式段階の資料であろう。

その他の土坑出土遺物（第18図）

82～85は黒曜石製石鏃。82はSK1出土で基部を欠損する。83、84はSK7出土で84は先端部を欠損する。85は未製品であろう。86は深鉢の底部で外面に条痕が残る。85、86ともにSK12出土である。SK14からは87～91が出土した。87、90は深鉢の胴部付近で刻目を有す突帯が巡る。88は深鉢の口縁部で摩滅が見られるものの、口縁部外面には刻目は施されていたと考えられる。89は甕の口縁部。形状から城ノ越段階であろう。91は安山岩製の扁平打製石斧。上部を欠損する。92～94はSK16出土。92は甕の口縁部。93は壺、または甕の底部で上げ底である。94は甕の底部で外面に縦方向のハケメが残り、やや上げ底を呈す。95、96はSK17出土。95は深鉢の胴部付近。刻目をもつ突帯が巡る。96は黒曜石製石鏃で基部を欠損する。97は口縁部。形状から高坏であろう。98は深鉢の口縁部。やや外反する。99は甕の底部。97～99はSK19出土。100、101はともに安山岩製の扁平打製石斧で100は裏面

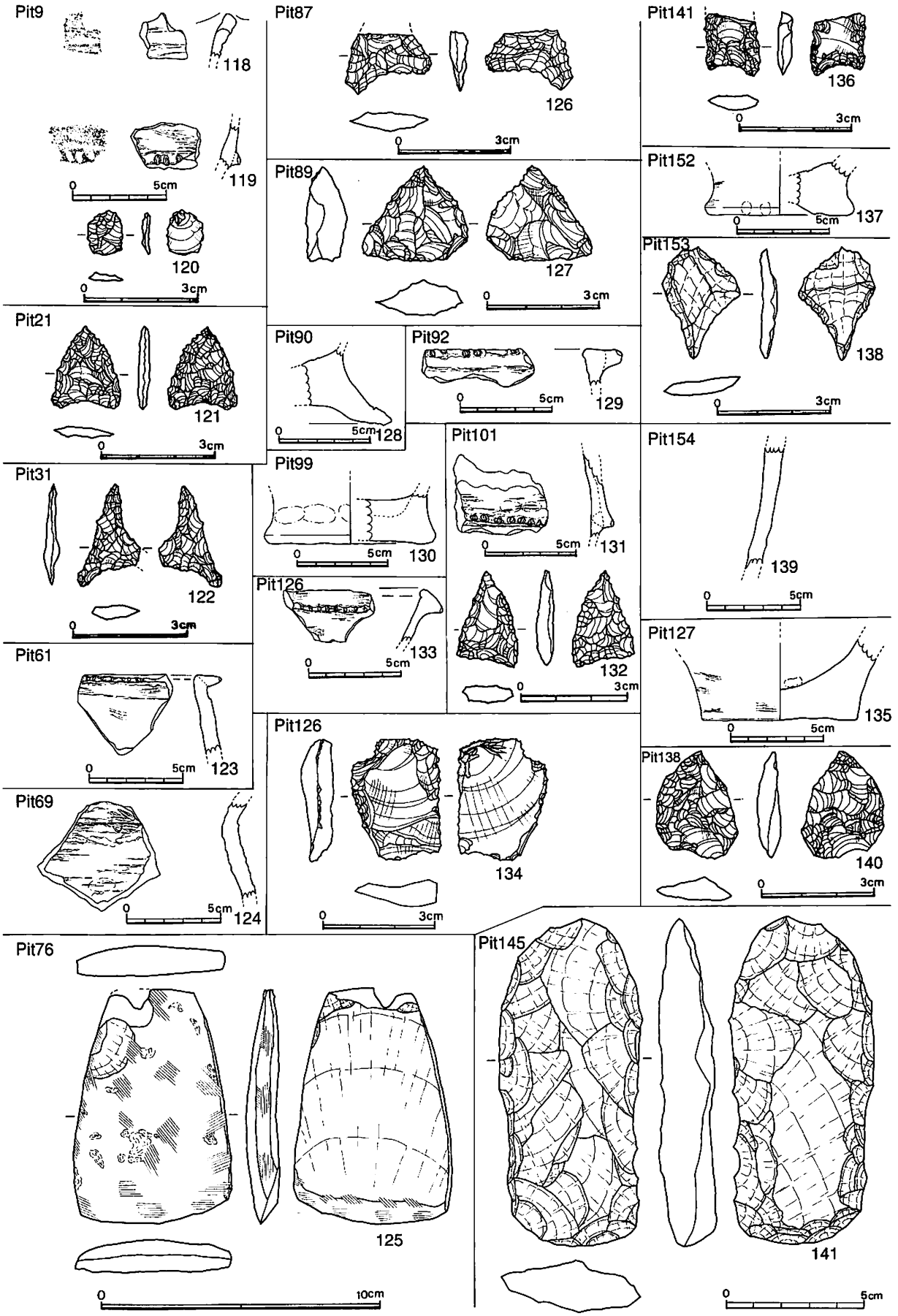
を、101は上部を欠損している。SK24出土。102は甕の断面三角形の口縁部。城ノ越段階である。103は甕の胴部付近で、断面三角形の突帯を有す。ともにSK26出土。104～107はSK28出土。104、107は扁平打製石斧である。104は安山岩製で上半部を欠損する。両面には自然面が顕著に残り、側面からの剥離成形により中央部がくびれている。105も安山岩製で、上半部を一部欠損するもののほぼ完形を呈す。106、107は甕の底部。106は平底で、107はやや上げ底である。108、109は黒曜石製石鏃で、108は基部を片方欠損する。SK29出土。109はSK31出土。110は壺の底部で外面にユビオサエが残る。SK33出土。

SK31出土遺物（第19図）

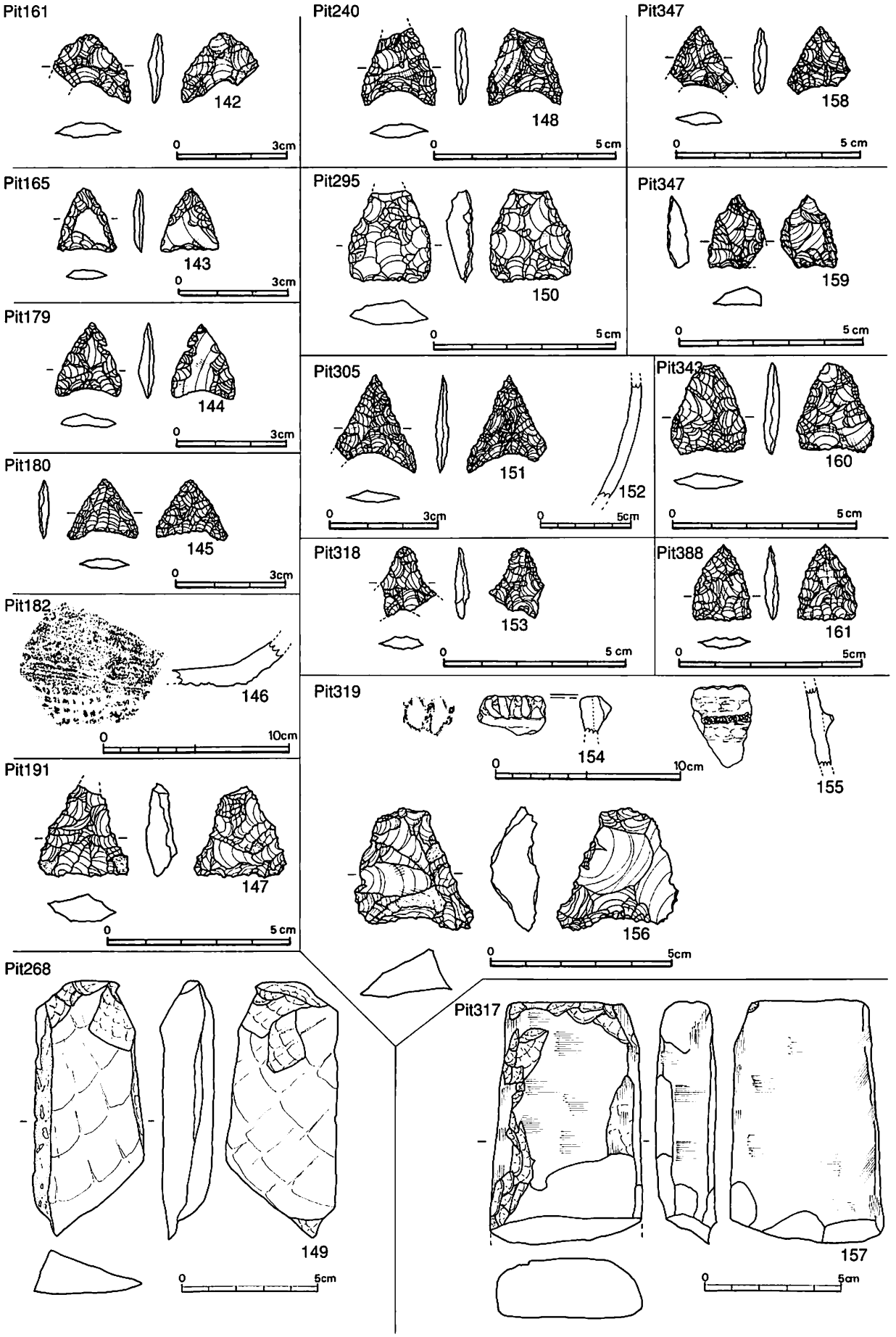
111は深鉢の口縁部で、刻目を有す突帯が2条巡る。内面にはユビオサエが顕著にみられる。112は甕で、口縁部にわずかな刻目が施される。113、114は壺の底部片である。115、116は壺の胴部付近である。116の外面にはわずかにミガキ痕が残る。117は装飾を持つ石製品である。上部を欠損している。石材は不明であるが、欠損箇所を肉眼で観察する限り、板状に剥離する特色を持つ。結晶片岩などとは異なり、泥岩に類似する成分で構成されたものであろう。製作技法は、石材を丁寧に研磨したのち、約1㎜ほどの沈線文様がを描かれている。文様帯は表、裏面ともに、9本で1つの単位を意識しており、現存状況では3単位ほど確認できる。両側面には沈線が1本ずつ施されている。表に見える3個体の文様帯の境目付近には、側面にある1本の沈線に平行する形で各1本ずつ約6㎜の長さの沈線が見られる。また先端部と思われる部分は両面とも剥落している。文様帯は、東日本系土器にみられる文様に類似する[注11]。

Pit出土遺物（第31～33図162～166）

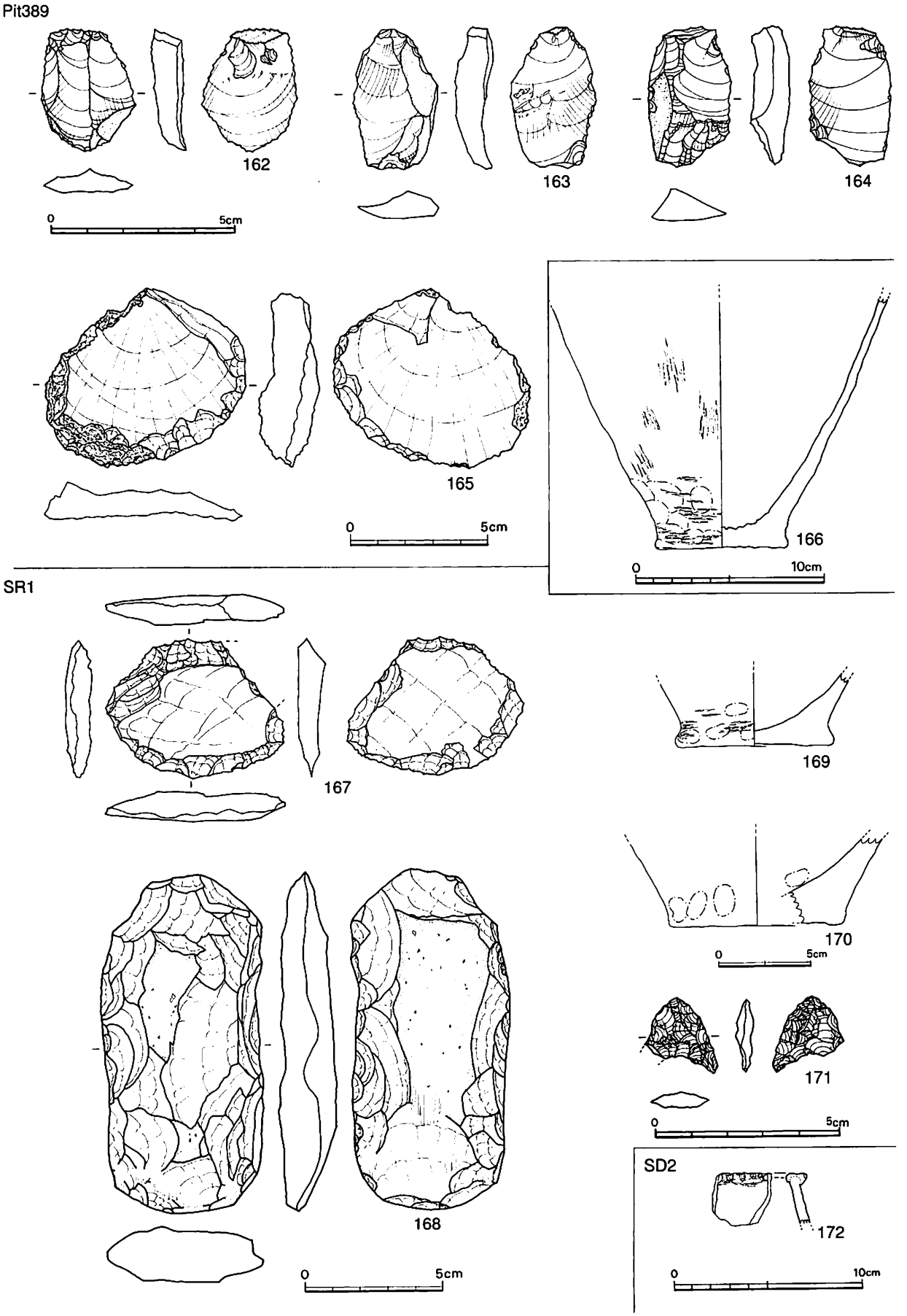
118～120はPit 9出土。118は浅鉢の口縁部で波状を呈す。119は深鉢胴部で刻目突帯が巡る。120は黒曜石の剥片である。121、122は黒曜石製の石鏃。121はPit21、122はPit31出土である。123は甕の口縁部で刻目を施す。Pit123出土。124は粗製深鉢の口縁部付近である。Pit123出土。125は磨製石斧。裏面は剥落するものの、非常に扁平な資料である。石材は頁岩である。Pit77出土。126、127は黒曜石製の石鏃。126は先端部を欠損する。Pit87出土。127は未製品。Pit89出土。128は甕の底部である。Pit90出土。129は甕の刻目を施す口縁部。Pit92出土。130は甕の底部。Pit99から出土。131、132はPit 101から出土。131は深鉢の胴部。132は黒曜石製の石鏃である。133は断面三角形の口縁部に刻目をもつ甕。134は黒曜石の剥片。Pit134出土。135は甕の底部。外面にはハケメが残る。Pit127出土。136は黒曜石の石鏃。先端部を欠損する。Pit141出土。137は甕の底部。Pit152出土。138は安山岩製の錐である。Pit153出土。139は壺、もしくは甕の胴部である。Pit139出土。140は黒曜石製の石鏃。未製品であろう。Pit138出土。141は安山岩製の扁平打製石斧。Pit145出土。142～145は黒曜石製の石鏃。4点とも全長2㎝未満と非常に小型の資料である。142は脚部の片方を欠損する。Pit161出土。143は表に自然面、裏面には主要剥離面が見られる。Pit165出土。144はPit180出土。145はPit180出土。146は底部に網目の残る組織痕土器である。Pit182出土。147、148は黒曜石の石鏃でともに先端部を欠損する。147はPit191、148はPit240から出土。149は安山岩の縦長剥片。Pit268出土。150、151は黒曜石製の石鏃である。150は基部に抉りをもたないもので、先端部を欠損する。Pit295出土。152は甕の胴部付近。Pit305出土。153は黒曜石製の石鏃。脚部を欠損する。Pit315出土。154、155は刻目を有す深鉢。154は口縁部で棒状の工具を用いて、刻目を施す。155は胴部付近。156は黒曜石製。石鏃の未製品であろう。Pit319出土である。157は磨製石斧で中央部付近で欠損する。石材は安山岩である。Pit317出



第31図　Pit 出土遺物①（S＝2/3・1/2・1/3）



第32図　Pit 出土遺物②（S＝2/3・1/2・1/3）



第33図　Pit 出土遺物③SR 1 ・ 2 出土遺物（S＝2/3 ・ 1/2 ・ 1/3）

土。158～161は黒曜石製石鏃である。158、159はともに脚部を欠損する。160、161は基部に抉りを持たないタイプである。順にPit158、159、160、161出土。162～164は黒曜石の縦長剥片である。165は安山岩製のスクレイパーである。166は甕の底部～胴部。ユビオサエとハケメが残る。Pit389出土。

SR 1 出土遺物（第33図167～171）

167は安山岩製のスクレイパー。168は安山岩製の扁平打製石斧である。刃部には使用による摩滅痕が残る。169は甕の底部。外面にはユビオサエ、ハケメが施される。170は壺の底部。内外面ともにユビオサエが残る。171は黒曜石製の石鏃で、脚部を片方欠損する。

SD 2 出土遺物（第33図172）

甕の口縁部で、粘土帯を貼り付け刻目を施す。

第4節　Ⅸ層出土遺物（第34～43図）

ここでは包含層であるⅨ層出土遺物に関して述べる。層内からは須玖式段階を中心に、黒川式段階の遺物までが出土している。時期的には弥生時代中期に該当するようである。出土遺物は土器11,943点、石器は18,958点であり、総数30,901点である。遺物には全体的に摩滅が入るため、水の作用等の二次的な堆積層と考えられる。

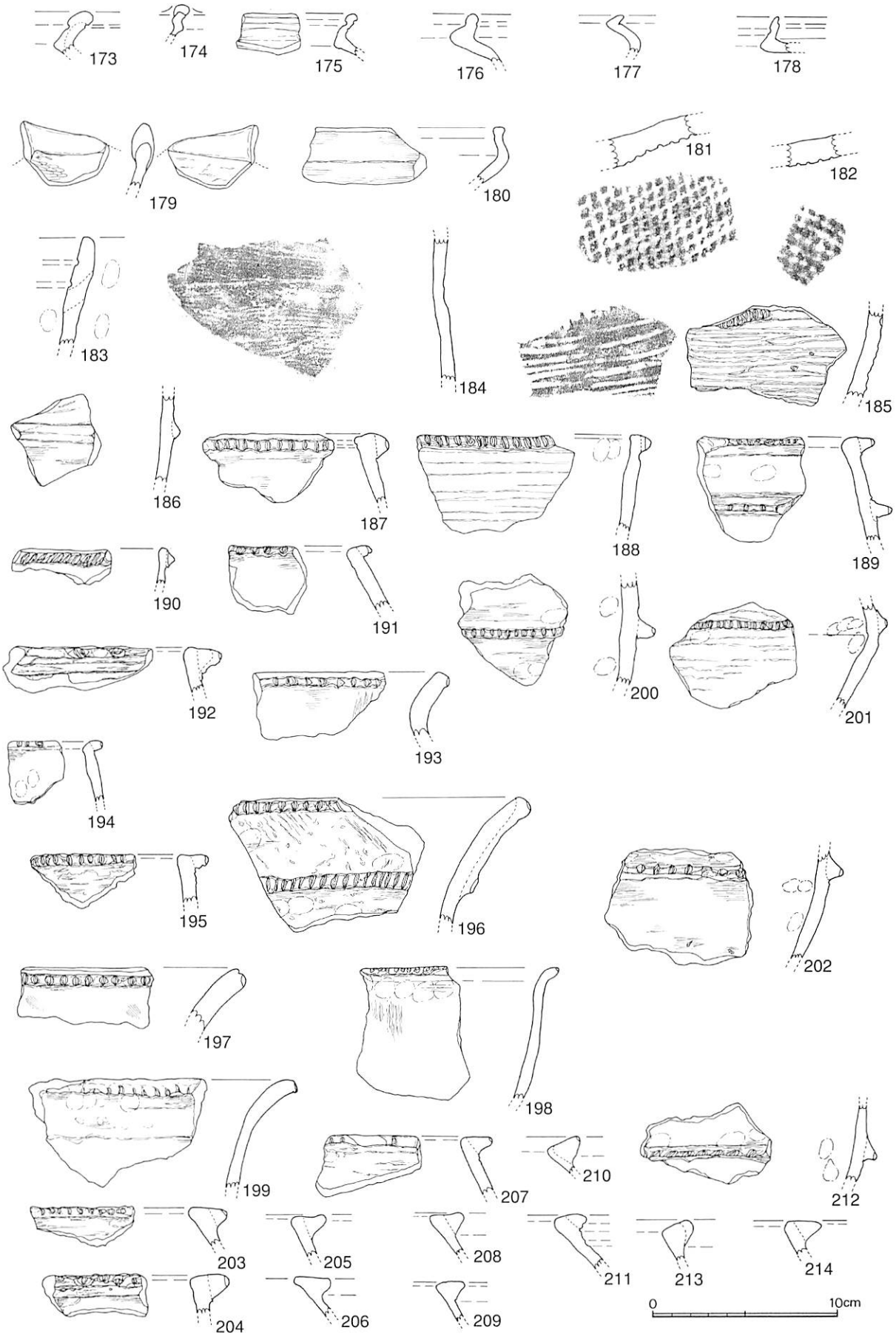
土器・土製品

173～180は浅鉢の口縁部付近である。173は玉縁状の口縁部を有し、内外面ともに明確な沈線が入る。174は玉縁状の口縁は、波状を呈す。175は内面に1本の沈線、外面には2本沈線がみられる。176は内面になだらかな段を、外面には1本の沈線を有す。177は内外面ともに沈線はみられない。179は波状口縁を有す。調整にミガキ痕がみられるのは、173～179までである。180の外面の肩部はなだらかに傾斜する。調整は内外面ともにナデである。181、182は組織痕土器。183、184は粗製深鉢である。185は外面に条痕を施し、刻目を有す突帯を1条巡らす。186は断面三角形の無刻目の突帯を有す。187～195は口縁部に刻目突帯を有す。196～199は口縁部が大きく外反する。200～202、201は胴部付近である。203～211、213～219、227、228は断面三角形の口縁部をもつ甕である。203、204は外面に刻目を施す。220～226、229～232は壺の口縁部である。

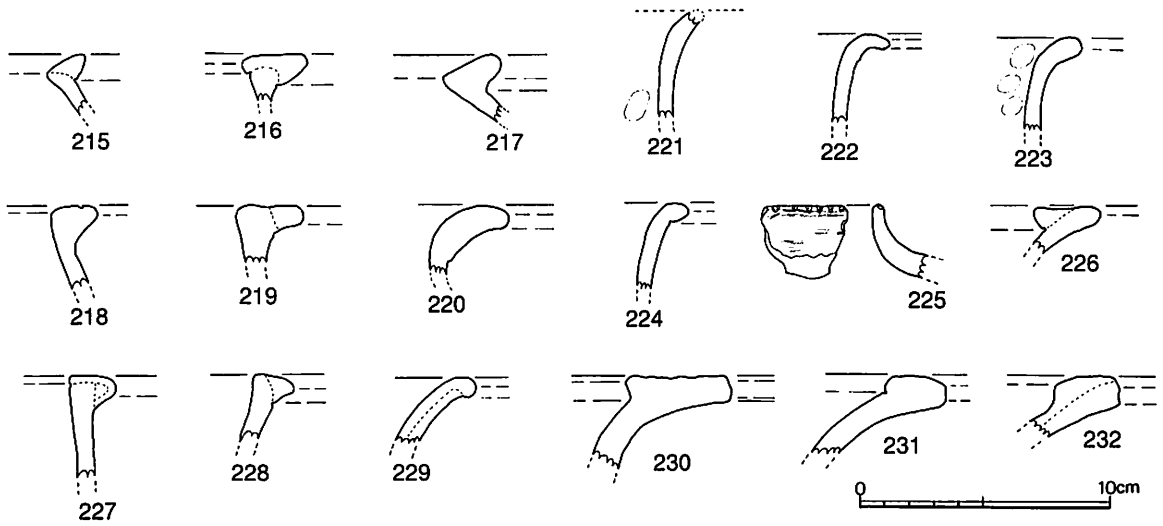
223は有孔円盤状土製品で、中央部から大きく欠損している。胎土には大粒の石英が多く混入される。周縁部は丁寧に成形され丸みを帯びる。234～255は深鉢の底部である。234～239は上げ底、240～255は平底である。上げ底の資料には237のように突帯を巡らすものが見られる。また、平底の252は中央部に約1㎝の穿孔を施す。256～262は壺の底部である。263～266は壺の底部で、264のように外面にハケメが残るものも見られる。

石器・石製品

267～270は石核である。267、269は黒曜石である。268、270は安山岩である。271～277は剥片である。剥片は276の黒曜石の横長剥片を除き、すべて縦長剥片である。石材は271、272、275、277は安山岩、273、274は黒曜石である。278、279は両面加工石器である。石材は安山岩で両側面からの剥離調整が顕著にみられる。280～309は石鏃である。280～287は基部に抉りをもたないタイプである。288～308は基部に抉りをもつものである。306は未製品あろう。310は摺切りの石庖丁。石材は安山岩である。復元幅は約15㎝を測る。全面に丁寧な磨きを施している。311～314はスクレイパーである。311は石材に玄武岩を使用し、全面を丁寧に磨いている。315はつまみを持つ石匙である。石材は安山岩。



第34図　Ⅸ層出土遺物①（S＝1／3）



第35図　Ⅸ層出土遺物②（S＝1／3）

316は磨石。石材は花崗岩のようである。317は叩石である。石材は不明であるが、半透明の白色を呈すことから石英の可能性もある。318～324は扁平打製石斧で、石材はすべて安山岩である。325～329は磨製石斧である。325、326は刃部を中央付近にもつ蛤刃である。石材は共に安山岩である。327は乳房状を呈す。両側面には打撃による剥離痕が残る。石材は安山岩である。328は片刃磨製石斧である。石材は玄武岩である。330、331は石ノミである。330は全面に磨き調整が施されている。石材は不明である。331の石材は安山岩で、もとより細長い石材を選び、刃部のみを造りだしている。332～335は結晶片岩製石器である。332、333は欠損しているものの、バチ状を呈するものであろう[注12]。334、335は円盤状を呈す。

第5節　その他の層位出土遺物（第44、45図）

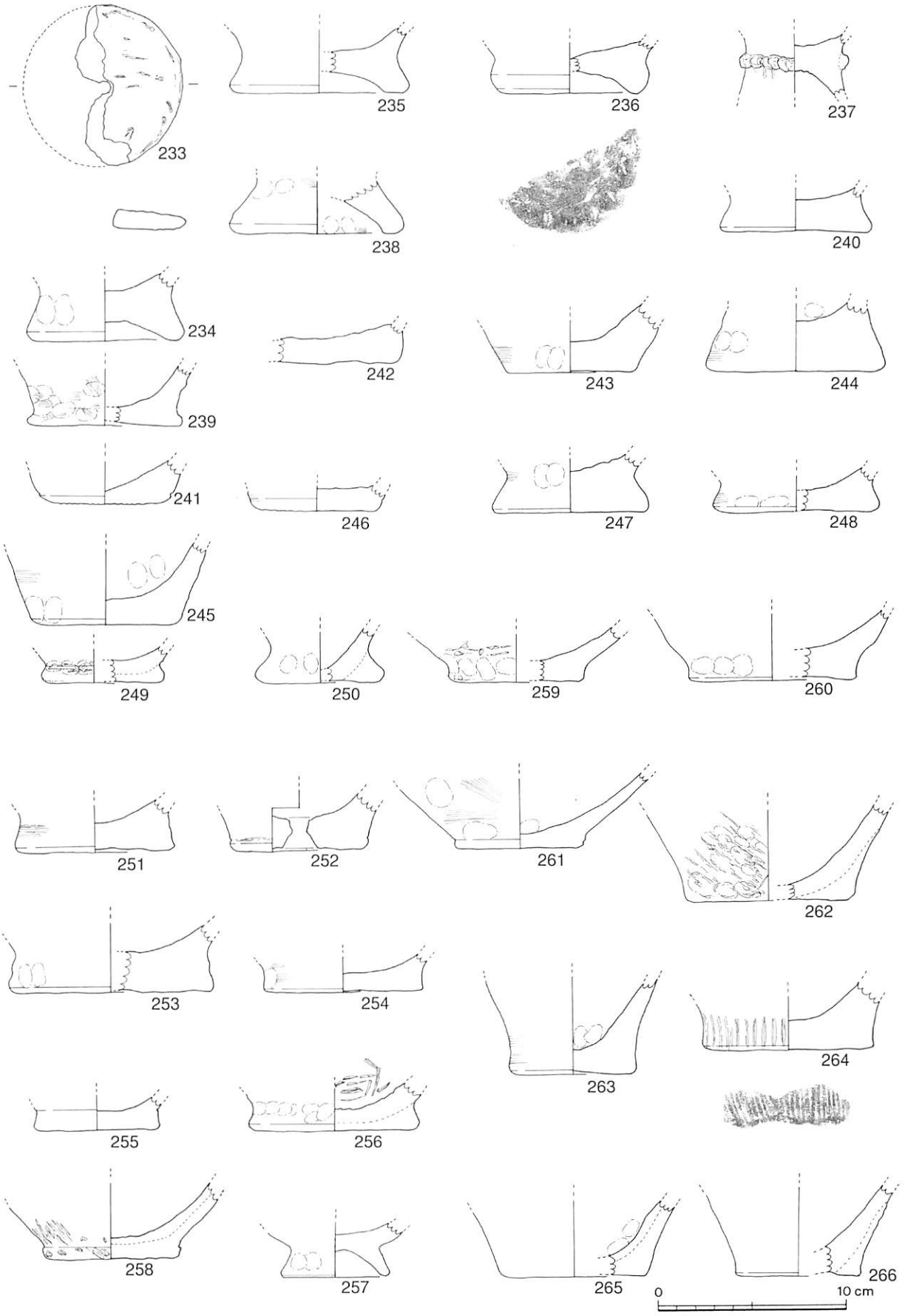
土器・陶磁器

336は土師器坏である。口径は約12cm、器高さは4cmである。底部にはヘラを用いた切り離し痕が残る。337は土師器高台付坏である。体部分を欠損している。338は土師器坏の底部である。339～353は管状土錘である。344、347、352は欠損しており、その他は完形である。354は須恵器の坏蓋である。355は瓦質のすり鉢の胴部である。356、357は白磁皿の底部である。356の見込みには櫛掻文が見られることから、同安窯系の製品であろう。358は白磁碗の口縁部である。

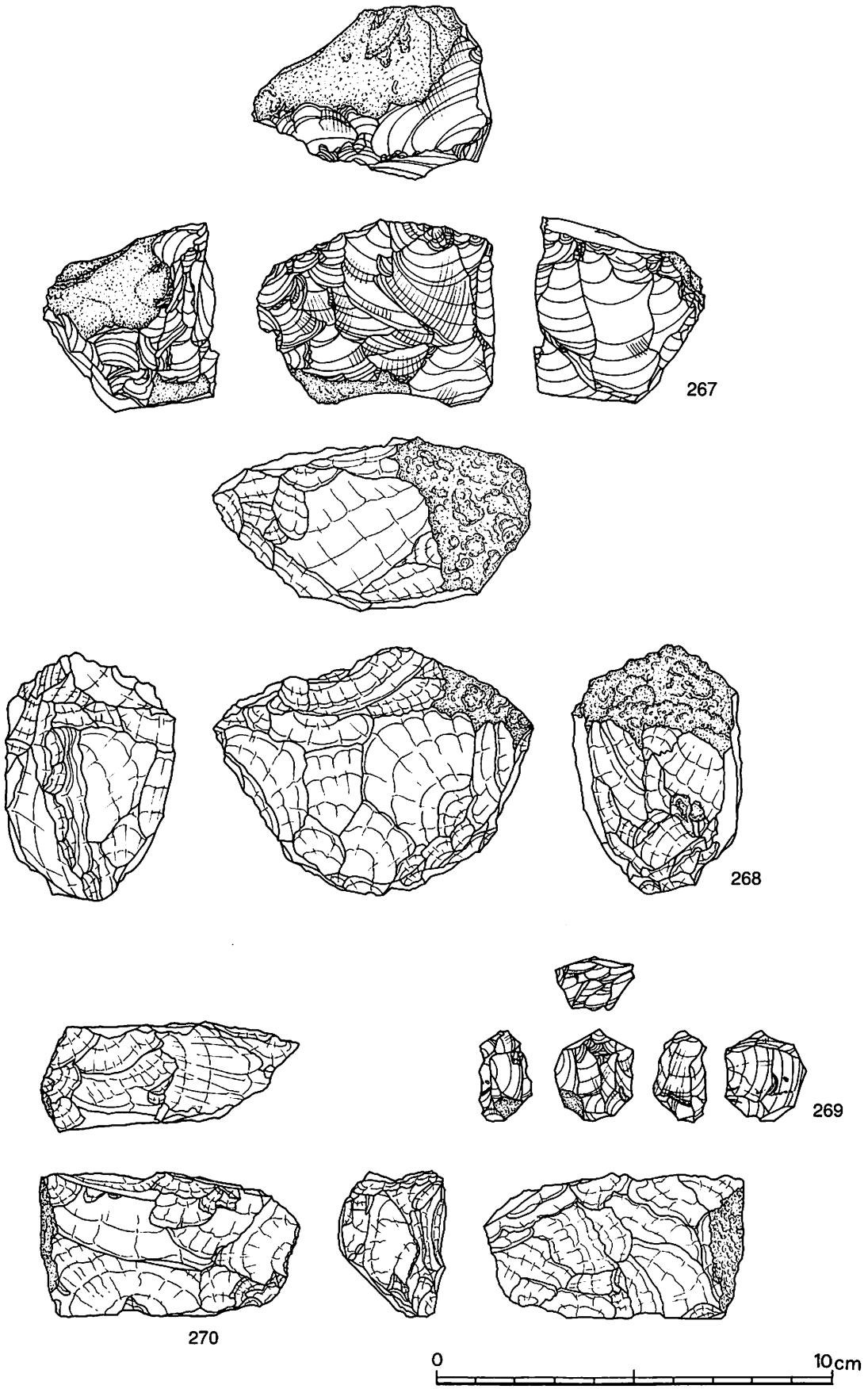
木製品

A地区内の自然流路の際では、並行するような状態で杭列が検出された。杭の検出面は一部X層のものも見られるが、ほとんどが地山面であるⅫ層である。ここでは、加工痕が明確に残るものを図化し掲載した。

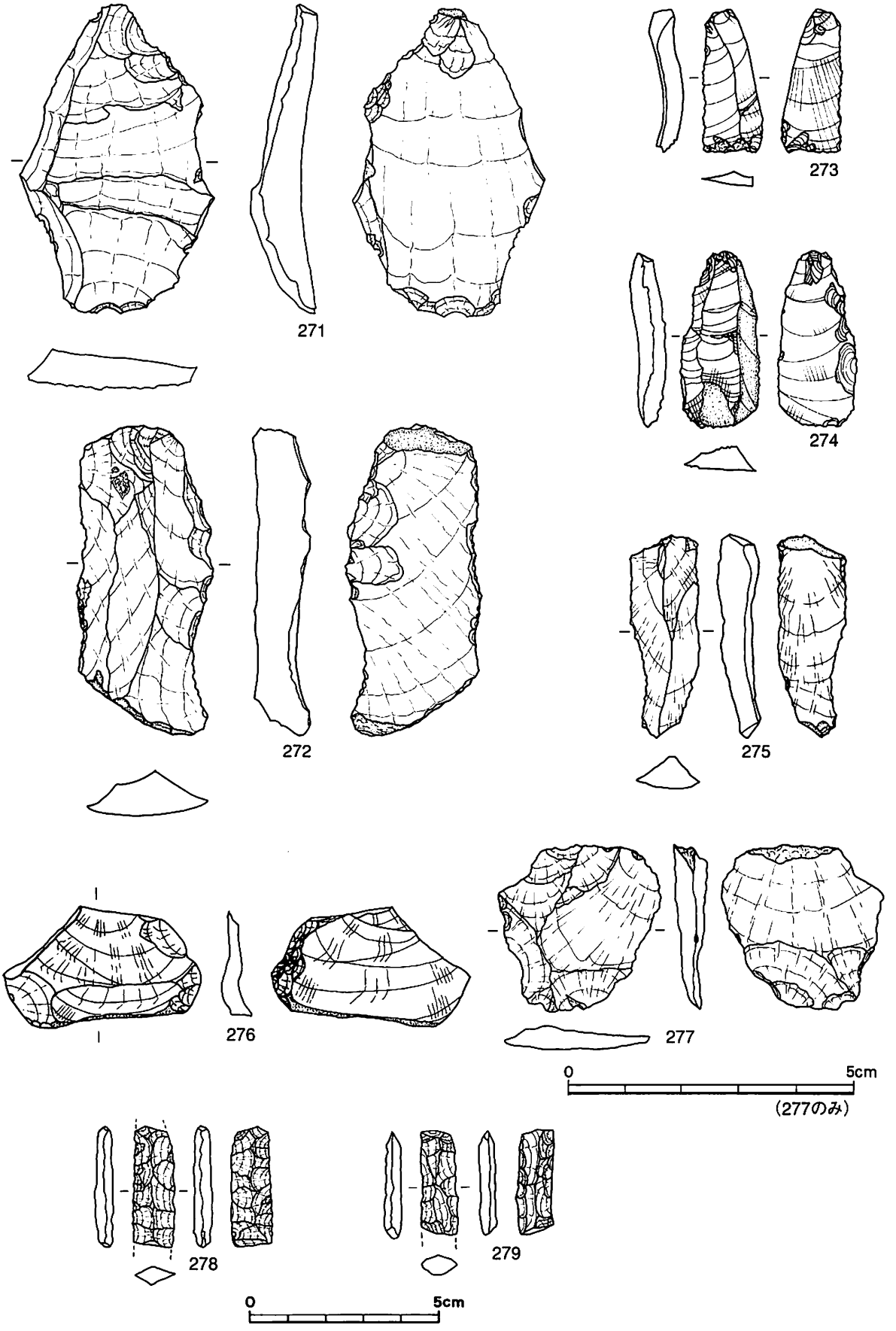
359～363は木杭である。先端部を3面カットしている。杭の中には361のように一部に樹皮を残すものや、360のように全体的に腐食が激しいものが見られる。364は用途不明の木製品である。断面四角形を呈し、中央部付近にはホゾ状の加工が見られる。365は板状木製品。欠損が著しく、全体の規格は不明であるが、杭列に伴うものと考えられる。



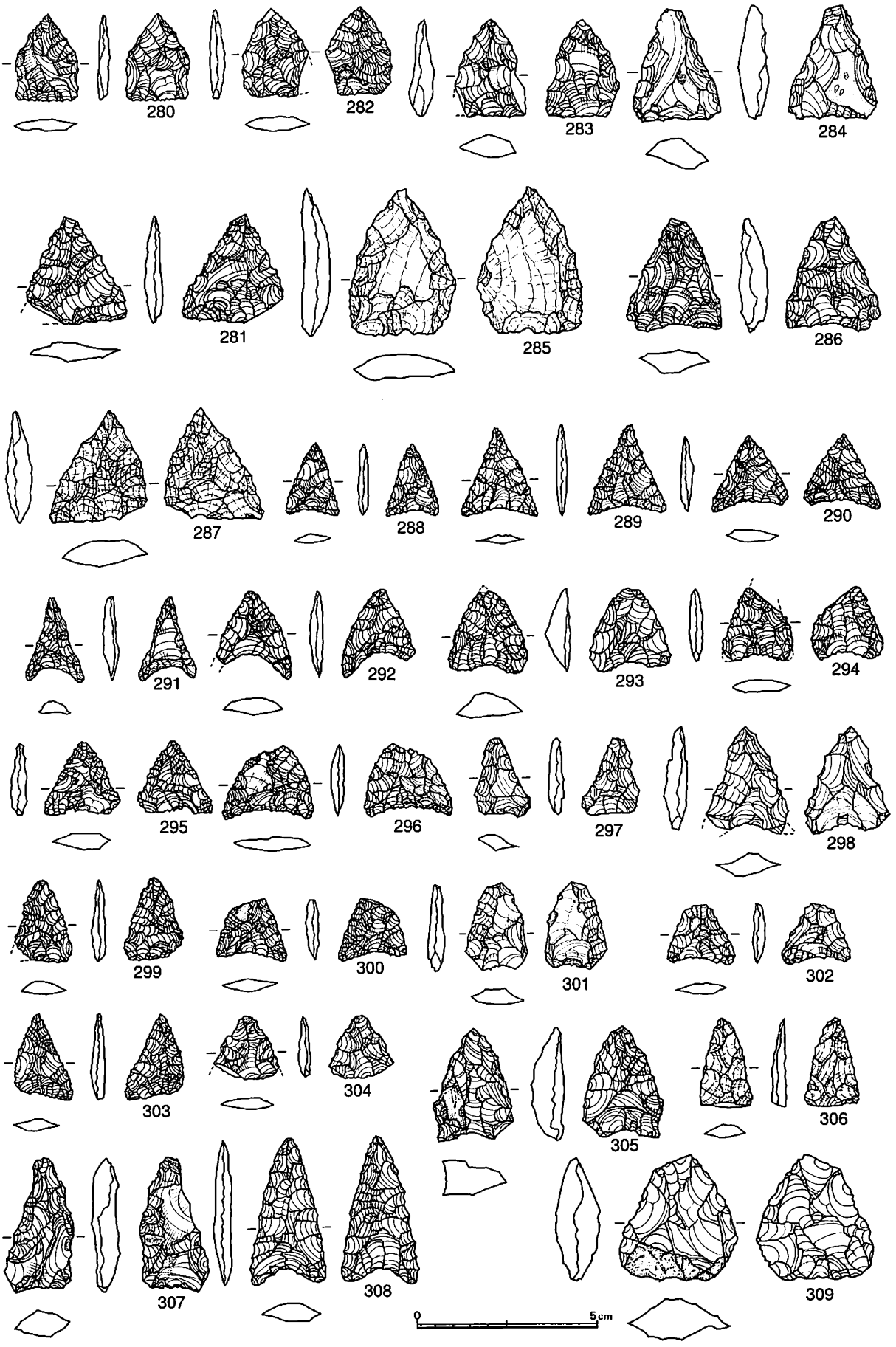
第36図　Ⅸ層出土遺物③（S＝1／3）



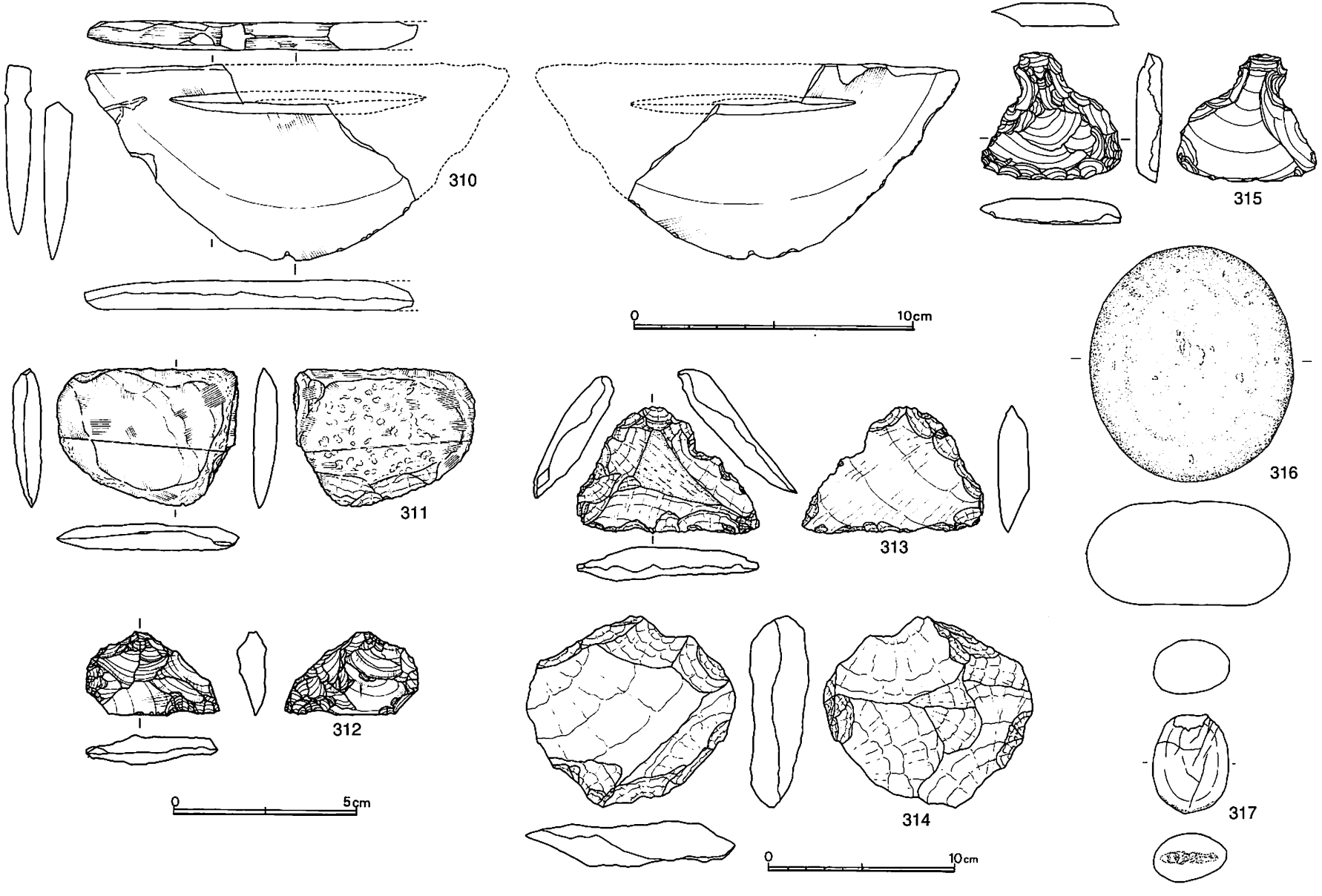
第37図　Ⅸ層出土遺物④（S＝2／3）



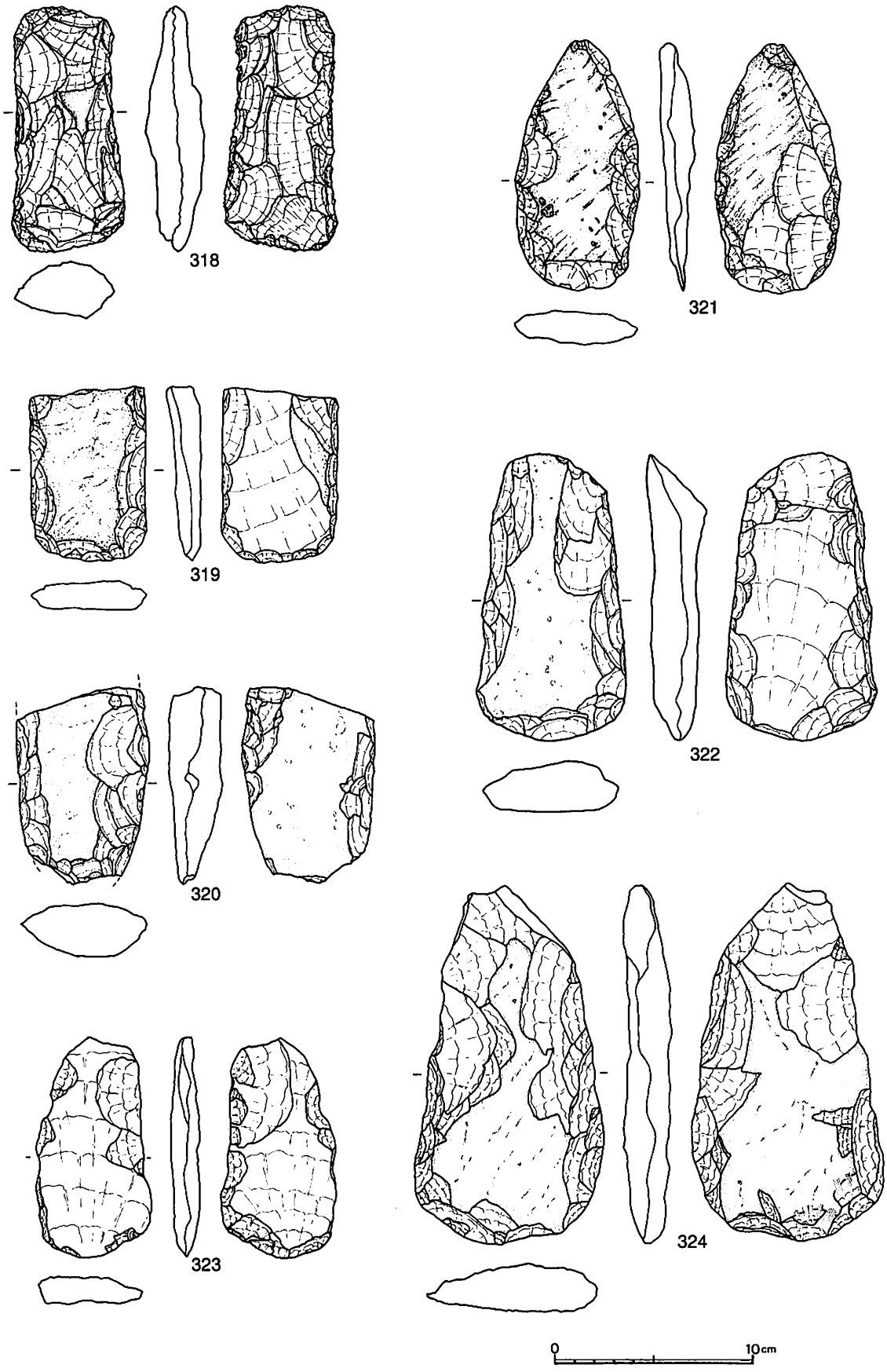
第38図　Ⅸ層出土遺物⑤（S＝2／3）



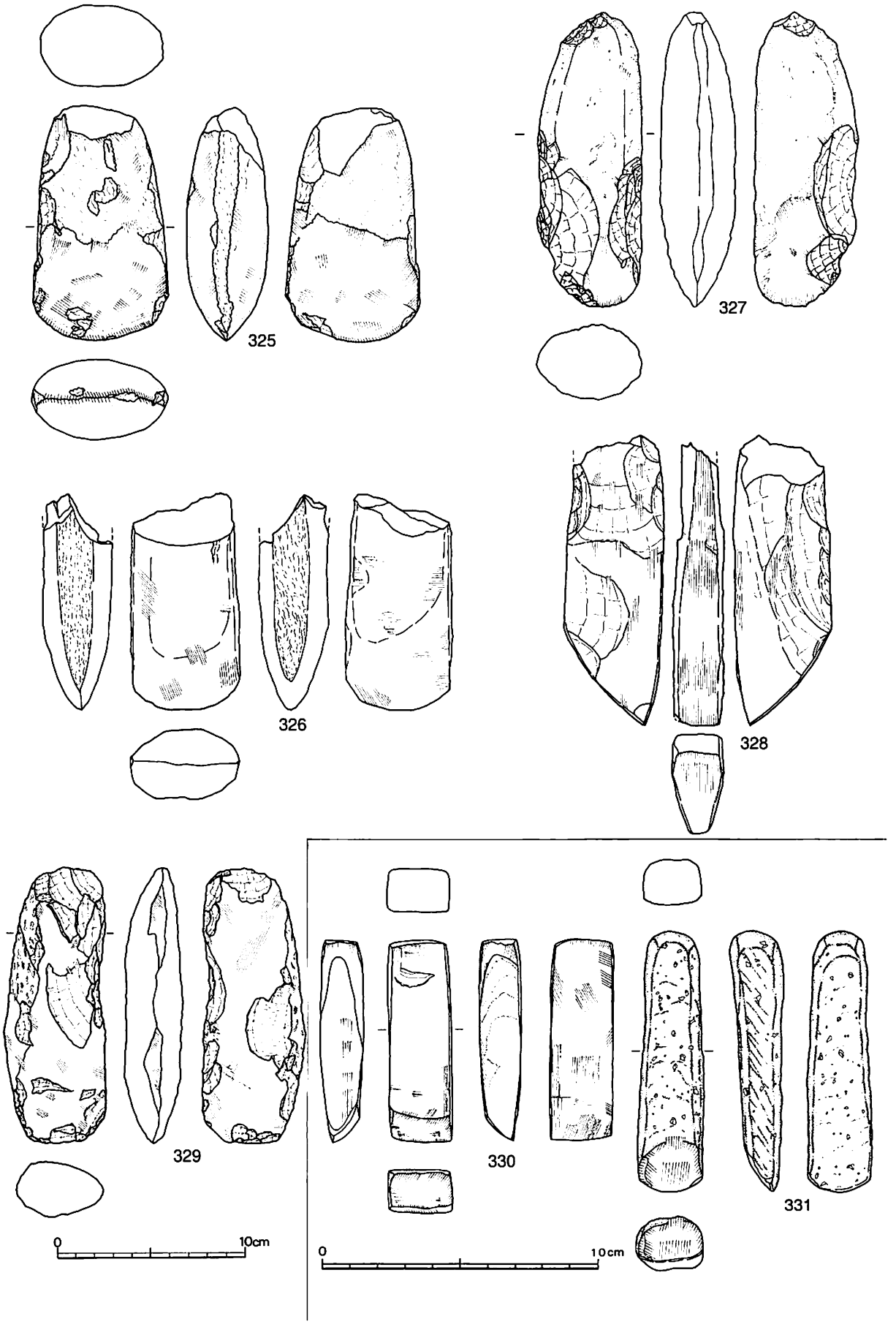
第39図　Ⅸ層出土遺物⑥（S＝2／3）



第40図　Ⅸ層出土遺物⑦（S＝2/3・1/2・1/3）

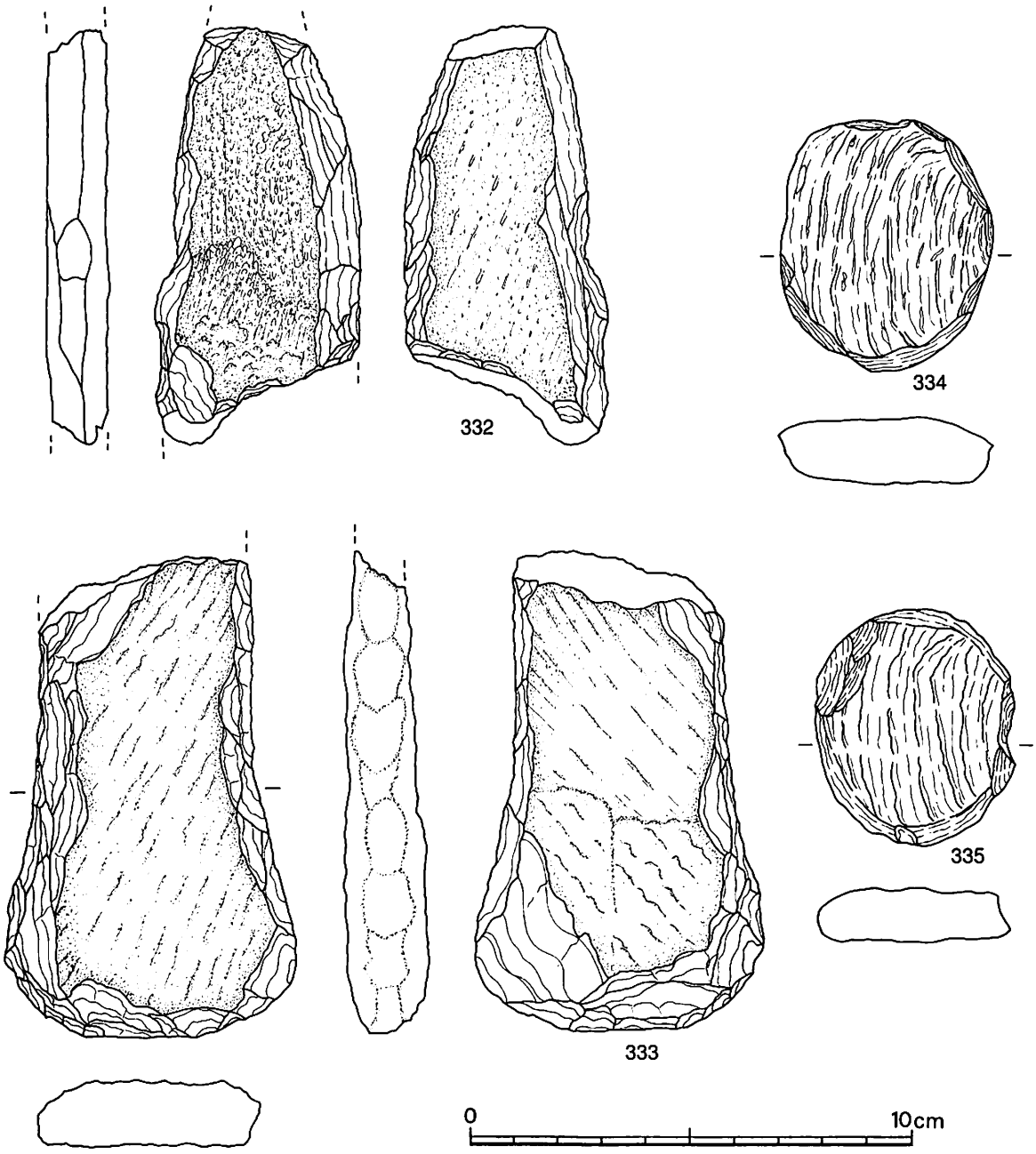


第41図　Ⅸ層出土遺物⑧（S＝1／3）



第42図　Ⅸ層出土遺物⑨（S＝1／2・1／3）

【註】
1　長崎県生物学会・長崎県高体連登山部　1989『ふるさとの自然観察ガイド―諫早・多良岳周辺―』（昭和63年版）長崎県生物学会
2　河野忠博　1985『大村の民話と伝説　上巻』大村史談会
3　長崎県大村市　2008『平成20年度版　おおむらの統計』
4　長崎県教育委員会編　2000　長崎県文化財調査報告書　第154集『長崎街道―長崎県　歴史の道（長崎街道）調査事業報告書―』長崎県教育委員会
5　大野安生・松川憲毅　大村市文化財調査報告書第24集『黒丸遺跡ほか発掘調査概報 Vol. 2 ―1997～1999―』長崎県大村市教育委員会
6　小田富士雄　1970「長崎県大村市・黄金山古墳調査報告」『九州考古学　39・40』九州考古学会
7　稲富裕和・橋本幸男ほか　1987　大村市文化財調査報告書第12集『富の原―大村市富の原１・２丁目に所在する遺跡群の範囲確認調査―』長崎県大村市教育委員会

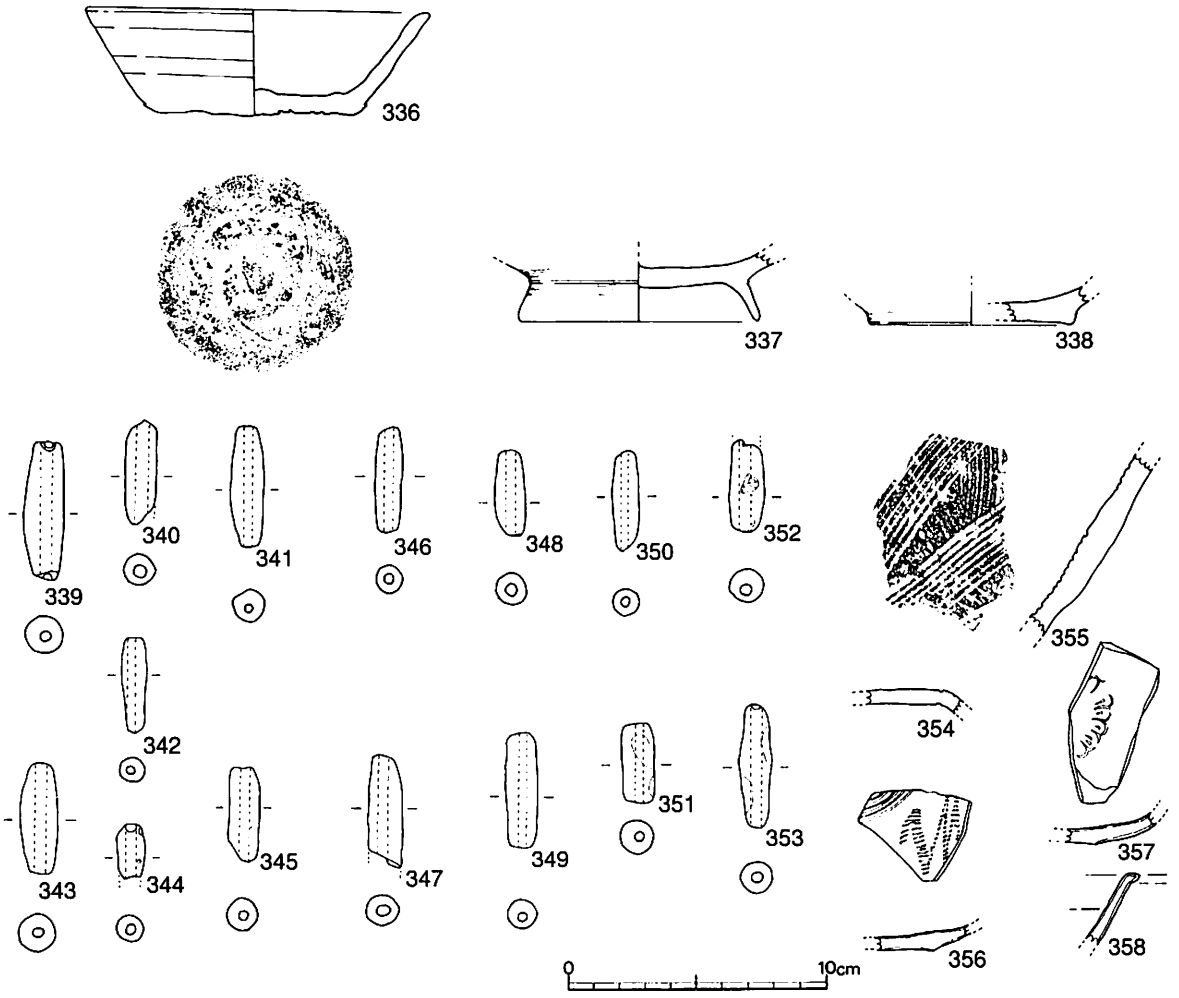


第43図　Ⅸ層出土遺物⑩（S＝2/3）

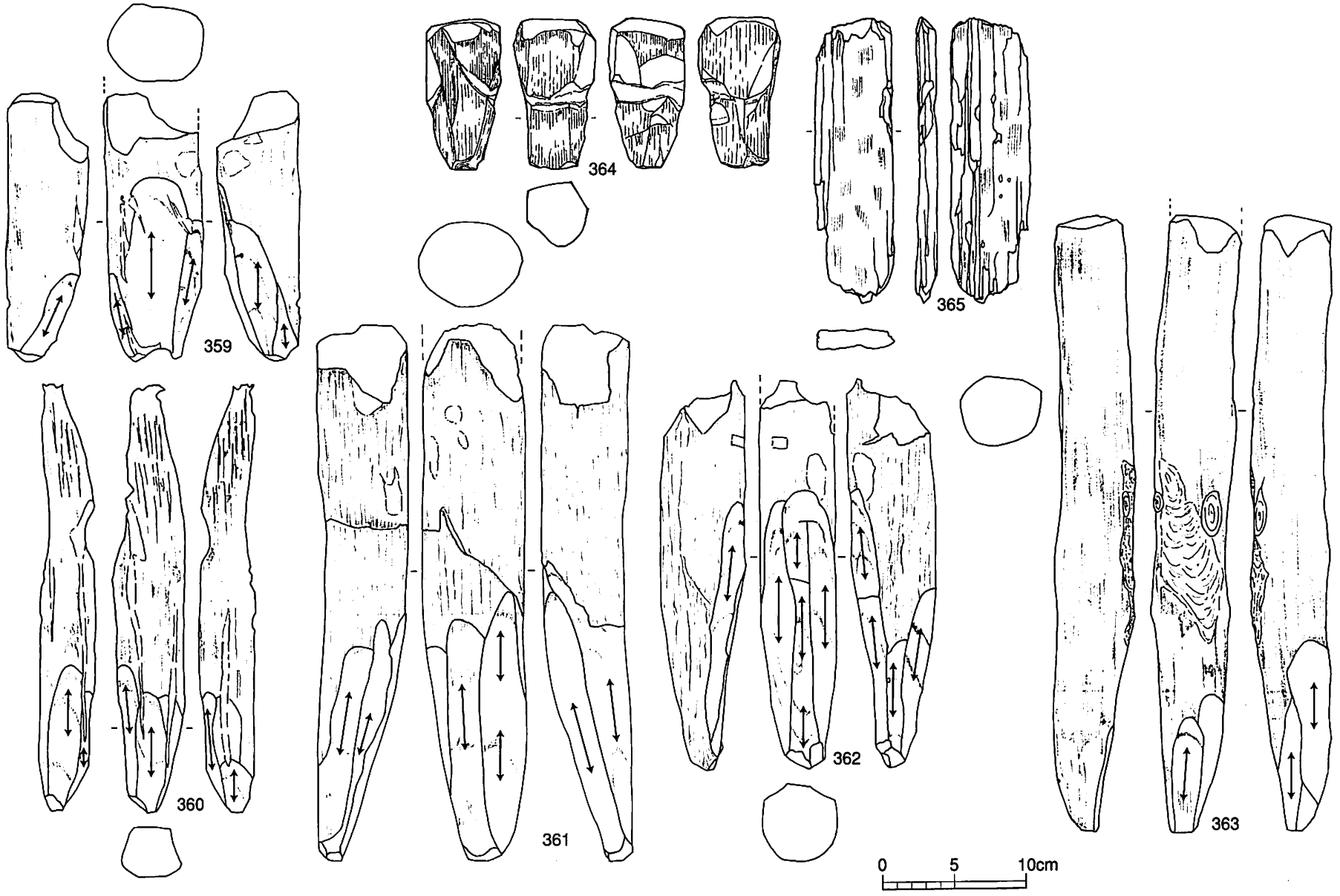
8　橋本幸男・村井俊郎　1992『寿古遺跡―県営圃場整備事業福重地区にかかる遺跡発掘調査概報』大村市文化財保護協会
9　礫には掘形が見られなかった。また、個々の石の並びにも規格製が見られなかったため、範囲をおさえ、掘り下げた。
10　宮崎貴夫氏、中尾篤志氏に御教示頂いた。
11　渡邊康行氏、大野城市教育委員会の林淳也氏、佐世保市教育委員会　柳田裕三氏に実見頂き、ご指導を頂いた。
12　黒丸遺跡で出土した完形品の報告事例は、長崎県教育委員会2009『黒丸遺跡Ⅲ』にある。
13　活水大学教授　細井浩志氏にご教示頂いた。

【引用・参考文献】

発掘調査報告書
長崎県教育委員会・長崎大学医学部解剖第二教室　1967　長崎県文化財調査報告書第５集　人類学考古学研究報告第１号『深堀遺跡』長崎県教育委員会・長崎大学医学部解剖第二教室
百人委員会　1974　百人委員会埋蔵文化財報告第３集『重要遺跡の発見から崩壊までの記録－縄文晩期原山埋葬遺跡－』百人委員会
古田正隆　1977　百人委員会埋蔵文化財報告書第７集『礫石原（くれいしばる）遺跡－縄文晩期農耕生産文化の姿相－』百人委員会
稲富裕和　1980『黒丸遺跡－長崎県大村市黒丸町所在黒丸遺跡の調査報告－』大村市黒丸遺跡調査会
高野晋司　1981　国指定史跡原山支石墓群『環境整備事業報告書』北有馬町教育委員会
橋口達也　1985　今宿バイパス関係埋蔵文化財調査報告第11集『石崎曲り田遺跡Ⅲ』福岡県教育委員会
稲富裕和・橋本幸夫　1987　大村市文化財調査報告書第12集『富の原』長崎県大村市教育委員会
町田利幸・浦田和彦　1988　島原市文化財調査報告書第４集『礫石原遺跡』島原市教育委員会



第44図　その他の層位出土遺物①（Ｓ＝１／３）



第45図　その他の層位出土遺物②（S＝1／4）

副島和明・町田利幸　1991　長崎県文化財調査報告書第100集『礫石原遺跡－県道愛野～島原線改良工事に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書－』長崎県教育委員会
久村貞男　1996　平成５年度佐世保市埋蔵文化財発掘調査報告書『四反田遺跡発掘調査報告書』佐世保市教育委員会
町田利幸・古門雅高・高原愛　1996　長崎県文化財調査報告書第127集『黒丸遺跡Ⅰ』長崎県教育委員会
町田利幸・荒木伸也　1997　長崎県文化財調査報告書第132集『黒丸遺跡Ⅱ』長崎県教育委員会
大野安生・安部憲毅　1997　大村市文化財調査報告書第20集『黒丸遺跡ほか発掘調査概報 Vol.1』大村市教育委員会
大野安生・安部憲毅　2000　大村市文化財調査報告書第24集『黒丸遺跡ほか発掘調査概報 Vol.2』大村市教育委員会
大野安生・松川憲毅ほか　2003　大村市文化財調査報告書第25集『黒丸遺跡ほか発掘調査概報 Vol.3』大村市教育委員会
大野安生・松川憲毅ほか　2004　大村市文化財調査報告書第27集『黒丸遺跡ほか発掘調査概報 Vol.4』大村市教育委員会
大野安生・松川憲毅　2005　大村市文化財調査報告書第28集『黒丸遺跡ほか発掘調査概報 Vol.5』大村市教育委員会
福田一志・中尾篤志　2005　原の辻遺跡調査事務所調査報告書第30集『原の辻遺跡総集編Ⅰ』長崎県教育委員会
本多和典・渡邊康行ほか　2006　深江町文化財調査報告書第２集『権現脇遺跡』長崎県深江町教育委員会
中尾篤志・山崎純男・片多雅樹　2006　長崎県文化財調査報告書第189集『肥賀太郎遺跡』長崎県教育委員会
平田賢明　2009　長崎県文化財調査報告書第201集『黒丸遺跡Ⅲ』長崎県教育委員会
専門書・研究論文など
小野正敏　1982「15～16世紀の染付碗，皿の分類と年代」『貿易陶磁研究№２』日本貿易陶磁研究会
弥生土器研究会　1984　研究会資料「弥生土器研究会－長崎県の弥生時代初頭前後の土器の検討－」弥生土器研究会
大川清・鈴木公雄・工楽善通　1996『日本土器事典』雄山閣出版株式会社
舟山良一・松本敏三・池田榮史　1996『須恵器集成図録第５巻西日本編』雄山閣出版社
清田純一　1998「縄文後・晩期土器考」『肥後考古11号』
片岡宏二　1999『弥生時代　渡来人と土器・青銅器』雄山閣出版
大野安生　2001「黒丸遺跡沖田地区出土土器の検討－黒川式から山ノ寺式までの編年試案－」『西海考古第４号』西海考古同人会

第３表　遺構観察表①

遺構No	調査区	検出面	覆土色	床面標高【cm】	長軸【cm】	短軸【cm】	年代	備考
Pit 1	A	X	C	195	40	30	弥生時代前期	
Pit 2	A	X	A	150	15	15	弥生時代前期	
Pit 3	A	X	A	243	30	20	弥生時代前期	
Pit 4	A	X	A	201	10	10	弥生時代前期	
Pit 5	A	X	A	197	35	25	弥生時代前期	
Pit 6	A	X	A	195	15	15	弥生時代前期	
Pit 7	A	X	A	198	15	15	弥生時代前期	
Pit 8	A	X	A	205	15	15	弥生時代前期	
Pit 9	A	X	A	202	30	20	弥生時代前期	
Pit10	A	X	A	210	35	30	弥生時代前期	
Pit11	A	X	C	230	50	35	弥生時代前期	
Pit12	A	X	C	225	50	40	弥生時代前期	
Pit13	A	X	A	239	75	45	弥生時代前期	
Pit14	A	X	A	235	30	15	弥生時代前期	
Pit15	A	X	A	232	35	25	弥生時代前期	
Pit16	A	X	A	245	10	10	弥生時代前期	
Pit17	A	X	A	255	35	35	弥生時代前期	
Pit18	A	X	A	252	10	10	弥生時代前期	
Pit19	A	X	C	253	20	15	弥生時代前期	
Pit20	A	X	A	253	10	10	弥生時代前期	
Pit21	A	X	C	232	70	50	弥生時代前期	
Pit22	A	X	C	234	35	25	弥生時代前期	
Pit23	A	X	−	245	35	35	弥生時代前期	
Pit24	A	X	C	251	35	25	弥生時代前期	
Pit25	A	X	C	247	25	25	弥生時代前期	
Pit26	A	X	C	262	45	45	弥生時代前期	
Pit27	A	X	C	259	25	25	弥生時代前期	
Pit28	A	X	C	257	25	25	弥生時代前期	
Pit29	A	X	C	258	15	15	弥生時代前期	
Pit30	A	X	C	254	10	10	弥生時代前期	
Pit31	A	X	C	265	30	10	弥生時代前期	
Pit32	A	X	C	253	25	10	弥生時代前期	
Pit33	A	X	C	259	15	15	弥生時代前期	
Pit34	A	X	C	260	15	10	弥生時代前期	
Pit35	A	X	C	267	20	20	弥生時代前期	
Pit36	A	X	C	267	15	15	弥生時代前期	
Pit37	A	X	C	267	15	15	弥生時代前期	
Pit38	A	X	A	238	25	20	弥生時代前期	
Pit39	A	X	A	262	25	25	弥生時代前期	
Pit40	A	X	A	264	15	15	弥生時代前期	
Pit41	A	X	A	228	20	15	弥生時代前期	
Pit42	A	X	C	257	25	25	弥生時代前期	
Pit43	A	X	A	270	30	30	弥生時代前期	
Pit44	A	X	C	264	50	40	弥生時代前期	
Pit45	A	X	C	255	70	45	弥生時代前期	
Pit46	A	X	A	274	35	30	弥生時代前期	
Pit47	A	X	A	264	40	30	弥生時代前期	
Pit48	A	X	C	271	25	15	弥生時代前期	
Pit49	A	X	A	265	20	20	弥生時代前期	
Pit50	A	X	A	253	30	25	弥生時代前期	
Pit51	A	X	C	258	35	20	弥生時代前期	
Pit52	A	X	C	274	15	15	弥生時代前期	
Pit53	A	X	C	277	25	20	弥生時代前期	
Pit54	A	X	C	277	25	20	弥生時代前期	
Pit55	A	X	C	276	40	30	弥生時代前期	
Pit56	A	X	A	267	20	20	弥生時代前期	
Pit57	A	X	A	266	15	15	弥生時代前期	
Pit58	A	X	A	163	25	25	弥生時代前期	
Pit59	A	X	A	265	25	20	弥生時代前期	
Pit60	A	X	A	266	30	25	弥生時代前期	
Pit61	A	X	A	261	25	25	弥生時代前期	
Pit62	A	X	A	260	25	15	弥生時代前期	
Pit63	A	X	A	266	25	15	弥生時代前期	
Pit64	A	X	A	253	15	15	弥生時代前期	
Pit65	A	X	A	252	20	15	弥生時代前期	
Pit66	A	X	A	254	20	20	弥生時代前期	
Pit67	A	X	A	258	40	40	弥生時代前期	
Pit68	A	X	C	245	55	40	弥生時代前期	
Pit69	A	V	A	267	55	45	古代	
Pit70	A	X	A	262	20	20	弥生時代前期	
Pit71	A	X	A	273	25	25	弥生時代前期	
Pit72	A	X	C	256	25	20	弥生時代前期	
Pit73	A	X	A	253	15	15	弥生時代前期	
Pit74	A	X	A	264	20	15	弥生時代前期	
Pit75	A	X	−	269	15	10	弥生時代前期	
Pit76	A	X	A	272	20	15	弥生時代前期	
Pit77	A	X	A	274	15	15	弥生時代前期	
Pit78	A	X	−	294	30	30	弥生時代前期	
Pit79	A	X	−	270	15	15	弥生時代前期	
Pit80	A	X	C	279	20	15	弥生時代前期	
Pit81	A	X	A	268	15	15	弥生時代前期	
Pit82	A	X	A	268	20	15	弥生時代前期	
Pit83	A	X	C	266	20	20	弥生時代前期	
Pit84	−	−	−	−	−	−	−	欠番
Pit85	A	X	−	−	50	25	弥生時代前期	
Pit86	B	X	A	279	40	35	弥生時代前期	
Pit87	−	−	−	−	−	−	−	欠番
Pit88	B	X	B	296	30	30	弥生時代前期	SK13をきる
Pit89	B	X	A	301	80	50	弥生時代前期	
Pit90	B	X	A	302	50	40	弥生時代前期	
Pit91	B	X	A	289	10	10	弥生時代前期	
Pit92	−	−	−	−	−	−	−	欠番
Pit93	B	X	−	301	15	10	弥生時代前期	
Pit94	−	−	−	−	−	−	−	欠番
Pit95	B	X	C	243	30	25	弥生時代前期	
Pit96	B	X	C	280	25	25	弥生時代前期	
Pit97	B	X	C	286	20	15	弥生時代前期	
Pit98	B	X	C	293	30	25	弥生時代前期	
Pit99	B	X	C	289	50	30	弥生時代前期	
Pit100	B	X	C	274	45	25	弥生時代前期	
Pit101	−	−	−	−	−	−	−	欠番
Pit102	B	X	C	280	35	35	弥生時代前期	

第４表　遺構観察表②

遺構No	調査区	検出面	覆土色	床面標高【cm】	長軸【cm】	短軸【cm】	年代	備考
Pit103	B	X	C	293	30	20	弥生時代前期	
Pit104	B	X	C	296	20	20	弥生時代前期	
Pit105	B	X	A	286	45	35	弥生時代前期	
Pit106	B	X	A	298	35	30	弥生時代前期	
Pit107	B	X	C	300	15	10	弥生時代前期	
Pit108	B	X	C	283	15	15	弥生時代前期	
Pit109	B	X	C	292	10	10	弥生時代前期	
Pit110	B	X	C	297	15	10	弥生時代前期	
Pit111	B	X	A	284	30	25	弥生時代前期	
Pit112	B	X	C	291	15	15	弥生時代前期	
Pit113	B	X	C	298	35	30	弥生時代前期	
Pit114	B	X	C	262	40	35	弥生時代前期	
Pit115	B	X	A	284	10	10	弥生時代前期	
Pit116	B	X	C	290	45	40	弥生時代前期	
Pit117	B	X	C	270	20	20	弥生時代前期	
Pit118	B	X	A	265	25	20	弥生時代前期	
Pit119	B	X	−	274	20	20	弥生時代前期	
Pit120	−	−	−	−	−	−	−	欠番
Pit121	B	X	C	282	25	25	弥生時代前期	
Pit122	B	X	C	290	10	10	弥生時代前期	
Pit123	B	X	C	280	10	10	弥生時代前期	
Pit124	B	X	C	286	25	20	弥生時代前期	
Pit125	B	X	C	280	20	20	弥生時代前期	
Pit126	B	X	C	259	45	45	弥生時代前期	
Pit127	B	X	C	270	25	10	弥生時代前期	
Pit128	B	X	C	279	30	25	弥生時代前期	
Pit129	B	X	C	285	25	25	弥生時代前期	
Pit130	B	X	C	273	30	25	弥生時代前期	
Pit131	B	X	C	292	50	50	弥生時代前期	
Pit132	−	−	−	−	−	−	−	欠番
Pit133	B	X	C	299	20	20	弥生時代前期	
Pit134	B	X	A	289	35	30	弥生時代前期	
Pit135	B	X	C	303	60	50	弥生時代前期	
Pit136	B	X	A	292	20	20	弥生時代前期	
Pit137	B	X	C	292	40	35	弥生時代前期	
Pit138	B	X	A	288	25	25	弥生時代前期	
Pit139	B	X	A	282	30	30	弥生時代前期	
Pit140	B	X	B	290	40	35	弥生時代前期	
Pit141	B	X	A	293	20	15	弥生時代前期	
Pit142	B	X	A	299	20	20	弥生時代前期	
Pit143	B	X	A	290	55	45	弥生時代前期	
Pit144	−	−	−	−	−	−	−	欠番
Pit145	−	−	−	−	−	−	−	欠番
Pit146	B	X	−	298	15	15	弥生時代前期	
Pit147	B	X	C	279	30	25	弥生時代前期	
Pit148	B	X	C	276	35	30	弥生時代前期	
Pit149	B	X	C	274	30	20	弥生時代前期	
Pit150	−	−	−	−	−	−	−	欠番
Pit151	B	X	C	287	30	30	弥生時代前期	
Pit152	B	X	C	276	15	10	弥生時代前期	
Pit153	B	X	A	279	35	30	弥生時代前期	
Pit154	B	X	C	284	15	10	弥生時代前期	
Pit155	B	X	C	286	25	20	弥生時代前期	
Pit156	B	X	A	260	40	35	弥生時代前期	
Pit157	B	X	C	287	40	30	弥生時代前期	
Pit158	B	X	C	286	30	20	弥生時代前期	
Pit159	B	X	A	273	35	30	弥生時代前期	
Pit160	B	X	B	289	30	30	弥生時代前期	
Pit161	B	X	A	274	50	45	弥生時代前期	
Pit162	−	−	−	−	−	−	−	欠番
Pit163	B	X	B	272	35	30	弥生時代前期	
Pit164	B	X	A	285	30	25	弥生時代前期	
Pit165	B	X	C	273	65	65	弥生時代前期	
Pit166	B	X	C	258	40	35	弥生時代前期	
Pit167	B	X	A	258	45	40	弥生時代前期	
Pit168	B	X	A	215	40	35	弥生時代前期	
Pit169	B	X	C	273	35	35	弥生時代前期	
Pit170	B	X	C	284	25	20	弥生時代前期	
Pit171	B	X	B	263	40	40	弥生時代前期	
Pit172	B	X	B	280	25	25	弥生時代前期	
Pit173	B	X	A	267	35	30	弥生時代前期	
Pit174	B	X	A	274	30	25	弥生時代前期	
Pit175	B	X	B	266	35	35	弥生時代前期	
Pit176	B	X	A	268	30	30	弥生時代前期	
Pit177	B	X	C	271	10	10	弥生時代前期	
Pit178	B	X	C	247	35	30	弥生時代前期	
Pit179	B	X	B	269	35	30	弥生時代前期	
Pit180	B	X	A	267	35	30	弥生時代前期	
Pit181	B	X	A	274	25	15	弥生時代前期	
Pit182	B	X	−	−	20	20	弥生時代前期	
Pit183	B	X	A	282	10	10	弥生時代前期	
Pit184	B	X	C	280	15	15	弥生時代前期	
Pit185	B	X	C	265	20	15	弥生時代前期	
Pit186	B	X	B	269	30	30	弥生時代前期	
Pit187	B	X	C	280	40	20	弥生時代前期	
Pit188	B	X	A	279	25	25	弥生時代前期	
Pit189	B	X	A	277	10	10	弥生時代前期	
Pit190	B	X	A	277	40	30	弥生時代前期	
Pit191	B	X	C	270	110	100	弥生時代前期	
Pit192	B	X	C	289	15	15	弥生時代前期	
Pit193	B	X	A	193	20	15	弥生時代前期	
Pit194	B	X	C	278	50	50	弥生時代前期	
Pit195	B	X	A	261	25	20	弥生時代前期	
Pit196	B	X	A	286	15	15	弥生時代前期	
Pit197	B	X	A	286	45	30	弥生時代前期	
Pit198	B	X	C	279	25	20	弥生時代前期	
Pit199	B	X	A	277	30	30	弥生時代前期	
Pit200	B	X	C	298	40	30	弥生時代前期	
Pit201	B	X	B	277	20	15	弥生時代前期	
Pit202	B	X	C	275	45	30	弥生時代前期	
Pit203	B	X	A	276	15	10	弥生時代前期	
Pit204	B	X	B	279	25	20	弥生時代前期	

第5表　遺構観察表③

遺構No	調査区	検出面	覆土色	床面標高【cm】	長軸【cm】	短軸【cm】	年代	備考
Pit205	B	X	C	287	10	10	弥生時代前期	
Pit206	B	X	A	283	20	15	弥生時代前期	
Pit207	B	X	C	298	20	20	弥生時代前期	
Pit208	B	X	A	285	15	15	弥生時代前期	
Pit209	B	X	A	300	20	20	弥生時代前期	
Pit210	B	X	C	283	35	25	弥生時代前期	
Pit211	B	X	C	285	25	20	弥生時代前期	
Pit212	B	X	C	289	40	35	弥生時代前期	
Pit213	B	X	C	288	20	15	弥生時代前期	
Pit214	－	－	－	－	－	－	－	欠番
Pit215	B	X	A	266	20	15	弥生時代前期	
Pit216	B	X	C	267	40	35	弥生時代前期	
Pit217	B	X	C	289	20	15	弥生時代前期	
Pit218	B	X	C	263	35	30	弥生時代前期	
Pit219	B	X	C	280	40	35	弥生時代前期	
Pit220	B	X	A	267	20	20	弥生時代前期	
Pit221	B	X	C	276	15	15	弥生時代前期	
Pit222	B	X	－	292	30	25	弥生時代前期	
Pit223	B	X	A	280	20	15	弥生時代前期	
Pit224	B	X	C	265	40	35	弥生時代前期	
Pit225	B	X	B	273	20	15	弥生時代前期	
Pit226	B	X	A	266	15	15	弥生時代前期	
Pit227	B	X	A	267	20	15	弥生時代前期	
Pit228	B	X	C	261	30	30	弥生時代前期	
Pit229	B	X	C	266	35	25	弥生時代前期	
Pit230	B	X	C	259	25	20	弥生時代前期	
Pit231	B	X	C	273	25	20	弥生時代前期	
Pit232	B	X	A	268	15	10	弥生時代前期	
Pit233	B	X	A	269	20	15	弥生時代前期	
Pit234	B	X	C	279	40	35	弥生時代前期	
Pit235	－	－	－	－	－	－	－	欠番
Pit236	B	X	C	267	45	40	弥生時代前期	
Pit237	B	X	B	270	30	20	弥生時代前期	
Pit238	－	－	－	－	－	－	－	欠番
Pit239	B	X	A	269	15	15	弥生時代前期	
Pit240	B	X	C	279	10	10	弥生時代前期	
Pit241	B	X	C	277	25	25	弥生時代前期	
Pit242	－	－	－	－	－	－	－	欠番
Pit243	B	X	A	290	10	10	弥生時代前期	
Pit244	B	X	B	273	10	10	弥生時代前期	
Pit245	B	X	A	265	30	30	弥生時代前期	
Pit246	B	X	A	269	30	20	弥生時代前期	
Pit247	B	X	C	264	25	20	弥生時代前期	
Pit248	B	X	C	281	25	20	弥生時代前期	
Pit249	B	X	C	261	15	15	弥生時代前期	
Pit250	B	X	C	277	15	15	弥生時代前期	
Pit251	B	X	C	250	45	35	弥生時代前期	
Pit252	B	X	B	261	30	25	弥生時代前期	
Pit253	B	X	C	262	20	20	弥生時代前期	
Pit254	B	X	C	266	20	20	弥生時代前期	
Pit255	－	－	－	－	－	－	－	欠番
Pit256	B	X	A	266	20	20	弥生時代前期	
Pit257	B	X	A	266	20	20	弥生時代前期	
Pit258	B	X	C	279	30	25	弥生時代前期	
Pit259	B	X	A	273	15	15	弥生時代前期	
Pit260	B	X	A	269	25	20	弥生時代前期	
Pit261	B	X	C	291	30	25	弥生時代前期	
Pit262	B	X	C	276	25	25	弥生時代前期	
Pit263	B	X	C	286	10	10	弥生時代前期	
Pit264	B	X	A	291	25	20	弥生時代前期	
Pit265	B	X	A	275	30	25	弥生時代前期	
Pit266	B	X	A	269	40	30	弥生時代前期	
Pit267	B	X	A	272	25	10	弥生時代前期	
Pit268	B	X	C	270	30	20	弥生時代前期	
Pit269	B	X	A	271	10	10	弥生時代前期	
Pit270	B	X	－	－	15	15	弥生時代前期	
Pit271	B	X	－	－	15	15	弥生時代前期	
Pit272	B	X	C	302	25	25	弥生時代前期	
Pit273	B	X	C	292	50	40	弥生時代前期	
Pit274	B	X	A	284	35	30	弥生時代前期	
Pit275	B	X	C	294	70	60	弥生時代前期	
Pit276	B	X	C	302	110	90	弥生時代前期	
Pit277	B	X	C	307	40	30	弥生時代前期	
Pit278	B	X	B	292	70	60	弥生時代前期	
Pit279	B	X	C	299	30	25	弥生時代前期	
Pit280	B	X	A	267	25	20	弥生時代前期	
Pit281	－	－	－	－	－	－	－	欠番
Pit282	B	X	A	285	10	10	弥生時代前期	
Pit283	－	－	－	－	－	－	－	欠番
Pit284	B	X	－	290	30	20	弥生時代前期	
Pit285	B	X	C	294	15	15	弥生時代前期	
Pit286	－	－	－	－	－	－	－	欠番
Pit287	B	X	A	302	20	20	弥生時代前期	
Pit288	B	X	C	300	40	35	弥生時代前期	
Pit289	B	X	A	291	10	10	弥生時代前期	
Pit290	B	X	A	270	15	15	弥生時代前期	
Pit291	B	X	C	295	40	20	弥生時代前期	
Pit292	－	－	－	－	－	－	－	欠番
Pit293	B	X	－	292	30	25	弥生時代前期	
Pit294	B	X	A	308	55	35	弥生時代前期	
Pit295	B	X	－	295	15	15	弥生時代前期	
Pit296	B	X	－	293	25	25	弥生時代前期	
Pit297	B	X	C	289	30	25	弥生時代前期	
Pit298	B	X	C	282	30	30	弥生時代前期	
Pit299	B	X	C	288	15	15	弥生時代前期	
Pit300	B	X	－	287	30	30	弥生時代前期	
Pit301	B	X	－	300	15	15	弥生時代前期	
Pit302	B	X	C	－	25	25	弥生時代前期	
Pit303	－	－	－	－	－	－	－	欠番

第6表　遺構観察表④

遺構No	調査区	検出面	覆土色	床面標高【cm】	長軸【cm】	短軸【cm】	年代	備考
Pit304	－	－	－	－	－	－	－	欠番
Pit305	－	－	－	－	－	－	－	欠番
Pit306	－	－	－	－	－	－	－	欠番
Pit307	－	－	－	－	－	－	－	欠番
Pit308	－	－	－	－	－	－	－	欠番
Pit309	B	X	C	289	30	20	弥生時代前期	
Pit310	－	－	－	－	－	－	－	欠番
Pit311	B	X	－	278	10	10	弥生時代前期	
Pit312	B	X	C	285	40	30	弥生時代前期	
Pit313	B	X	A	290	60	50	弥生時代前期	
Pit314	－	－	－	－	－	－	－	欠番
Pit315	B	X	A	269	40	40	弥生時代前期	
Pit316	B	X	A	295	15	15	弥生時代前期	
Pit317	B	X	A	269	30	25	弥生時代前期	
Pit318	－	－	－	－	－	－	－	欠番
Pit319	－	－	－	－	－	－	－	欠番
Pit320	－	－	－	－	－	－	－	欠番
Pit321	－	－	－	－	－	－	－	欠番
Pit322	－	－	－	－	－	－	－	欠番
Pit323	B	X	C	271	30	25	弥生時代前期	
Pit324	B	X	C	273	45	40	弥生時代前期	
Pit325	B	X	C	278	10	10	弥生時代前期	
Pit326	B	X	B	281	35	30	弥生時代前期	
Pit327	－	－	－	－	－	－	－	欠番
Pit328	－	－	－	－	－	－	－	欠番
Pit329	－	－	－	－	－	－	－	欠番
Pit330	－	－	－	－	－	－	－	欠番
Pit331	B	X	A	273	40	35	弥生時代前期	
Pit332	－	－	－	－	－	－	－	欠番
Pit333	－	－	－	－	－	－	－	欠番
Pit334	－	－	－	－	－	－	－	欠番
Pit335	－	－	－	－	－	－	－	欠番
Pit336	－	－	－	－	－	－	－	欠番
Pit337	－	－	－	－	－	－	－	欠番
Pit338	B	X	A	277	25	20	弥生時代前期	
Pit339	B	X	A	274	30	25	弥生時代前期	
Pit340	－	－	－	－	－	－	－	欠番
Pit341	B	X	A	272	20	20	弥生時代前期	
Pit342	B	X	C	310	15	10	弥生時代前期	
Pit343	B	X	A	280	20	15	弥生時代前期	
Pit344	B	X	A	274	15	15	弥生時代前期	
Pit345	B	X	A	271	40	25	弥生時代前期	
Pit346	B	X	C	271	45	40	弥生時代前期	
Pit347	－	－	－	－	－	－	－	欠番
Pit348	－	－	－	－	－	－	－	欠番
Pit349	－	－	－	－	－	－	－	欠番
Pit350	－	－	－	－	－	－	－	欠番
Pit351	－	－	－	－	－	－	－	欠番
Pit352	－	－	－	－	－	－	－	欠番
Pit353	－	－	－	－	－	－	－	欠番
Pit354	B	X	A	267	50	35	弥生時代前期	
Pit355	－	－	－	－	－	－	－	欠番
Pit356	－	－	－	－	－	－	－	欠番
Pit357	－	－	－	－	－	－	－	欠番
Pit358	－	－	－	－	－	－	－	欠番
Pit359	－	－	－	－	－	－	－	欠番
Pit360	－	－	－	－	－	－	－	欠番
Pit361	－	－	－	－	－	－	－	欠番
Pit362	－	－	－	－	－	－	－	欠番
Pit363	－	－	－	－	－	－	－	欠番
Pit364	－	－	－	－	－	－	－	欠番
Pit365	－	－	－	－	－	－	－	欠番
Pit366	－	－	－	－	－	－	－	欠番
Pit367	－	－	－	－	－	－	－	欠番
Pit368	－	－	－	－	－	－	－	欠番
Pit369	－	－	－	－	－	－	－	欠番
Pit370	－	－	－	－	－	－	－	欠番
Pit371	－	－	－	－	－	－	－	欠番
Pit372	－	－	－	－	－	－	－	欠番
Pit373	B	X	－	267	20	20	弥生時代前期	
Pit374	－	－	－	－	－	－	－	欠番
Pit375	B	X	A	291	15	10	弥生時代前期	
Pit376	－	－	－	－	－	－	－	欠番
Pit377	－	－	－	－	－	－	－	欠番
Pit378	－	－	－	－	－	－	－	欠番
Pit379	B	X	A	274	15	10	弥生時代前期	
Pit380	B	X	B	269	25	20	弥生時代前期	
Pit381	B	X	C	256	30	25	弥生時代前期	
Pit382	B	X	A	295	120	75	弥生時代前期	
Pit383	B	X	A	274	50	25	弥生時代前期	
Pit384	B	X	A	267	50	45	弥生時代前期	
Pit385	B	X	C	273	45	35	弥生時代前期	
Pit386	B	X	－	272	25	20	弥生時代前期	
Pit387	B	X	A	268	10	10	弥生時代前期	
Pit388	B	X	C	264	15	20	弥生時代前期	
Pit389	B	X	A	265	15	10	弥生時代前期	
Pit390	B	X	A	269	20	15	弥生時代前期	
Pit391	B	X	A	273	30	25	弥生時代前期	
Pit392	B	X	A	267	20	15	弥生時代前期	
Pit393	B	X	A	284	20	15	弥生時代前期	
Pit394	B	X	A	265	40	25	弥生時代前期	
Pit395	B	X	A	296	20	15	弥生時代前期	
Pit396	B	X	A	275	20	20	弥生時代前期	
Pit397	B	X	C	292	10	10	弥生時代前期	
Pit398	B	X	C	290	15	15	弥生時代前期	
Pit399	B	X	C	294	20	20	弥生時代前期	
Pit400	B	X	C	305	20	15	弥生時代前期	
Pit401	B	X	C	302	80	60	弥生時代前期	
Pit402	B	X	C	294	15	15	弥生時代前期	

第７表　遺構観察表⑤

遺構No	調査区	検出面	覆土色	床面標高【cm】	長軸【cm】	短軸【cm】	年代	備考
Pit403	B	X	C	288	15	15	弥生時代前期	
Pit404	B	X	C	296	35	30	弥生時代前期	
Pit405	B	X	C	280	25	20	弥生時代前期	
Pit406	B	X	C	276	30	10	弥生時代前期	
Pit407	B	X	C	291	45	45	弥生時代前期	
Pit408	B	X	A	268	25	25	弥生時代前期	
Pit409	B	X	A	286	20	10	弥生時代前期	
Pit410	B	X	A	279	20	20	弥生時代前期	
Pit411	B	X	A	272	40	30	弥生時代前期	
Pit412	B	X	C	299	20	15	弥生時代前期	
Pit413	－	－	－	－	－	－		欠番
Pit414	B	X	C	271	30	25	弥生時代前期	
Pit415	B	X	C	281	20	15	弥生時代前期	
Pit416	B	X	C	279	15	10	弥生時代前期	
Pit417	B	X	C	280	15	15	弥生時代前期	
Pit418	B	X	C	284	30	20	弥生時代前期	
Pit419	B	X	C	279	20	20	弥生時代前期	
Pit420	B	X	C	294	40	40	弥生時代前期	
Pit421	B	X	C	296	15	15	弥生時代前期	
Pit422	B	X	C	295	70	55	弥生時代前期	
Pit423	B	X	C	294	35	25	弥生時代前期	
Pit424	B	X	C	296	30	20	弥生時代前期	
Pit425	B	X	C	282	10	10	弥生時代前期	
Pit426	B	X	C	275	20	20	弥生時代前期	
Pit427	B	X	C	295	20	15	弥生時代前期	
Pit428	B	X	C	285	20	20	弥生時代前期	
Pit429	B	X	C	276	20	15	弥生時代前期	
Pit430	B	X	A	282	30	20	弥生時代前期	
Pit431	B	X	C	284	30	25	弥生時代前期	
Pit432	B	X	C	293	10	10	弥生時代前期	
Pit433	B	X	C	293	20	15	弥生時代前期	
Pit434	B	X	C	281	25	20	弥生時代前期	
Pit435	B	X	C	286	30	25	弥生時代前期	
Pit436	B	X	C	283	20	15	弥生時代前期	
Pit437	B	X	C	281	20	10	弥生時代前期	
Pit438	B	X	C	289	15	10	弥生時代前期	
Pit439	B	X	C	171	50	40	弥生時代前期	
Pit440	B	X	A	279	20	15	弥生時代前期	
Pit441	B	X	A	290	20	20	弥生時代前期	
Pit442	B	X	A	280	30	20	弥生時代前期	
Pit443	B	X	A	202	20	15	弥生時代前期	
Pit444	B	X	C	284	15	15	弥生時代前期	
Pit445	B	X	C	266	20	15	弥生時代前期	
Pit446	B	X	C	257	30	25	弥生時代前期	
Pit447	B	X	A	281	40	30	弥生時代前期	
Pit448	B	X	A	283	30	25	弥生時代前期	
Pit449	B	X	A	282	30	25	弥生時代前期	
Pit450	B	X	A	278	25	20	弥生時代前期	
Pit451	B	X	C	286	20	15	弥生時代前期	
Pit452	B	X	A	279	25	20	弥生時代前期	
Pit453	B	X	A	276	15	15	弥生時代前期	
Pit454	B	X	A	279	35	25	弥生時代前期	
Pit455	B	X	A	274	20	20	弥生時代前期	
Pit456	B	X	A	269	20	15	弥生時代前期	
Pit457	B	X	A	265	30	25	弥生時代前期	
Pit458	B	X	A	281	30	20	弥生時代前期	
Pit459	B	X	A	278	15	15	弥生時代前期	
Pit460	B	X	A	267	15	15	弥生時代前期	
Pit461	B	X	A	268	20	20	弥生時代前期	
Pit462	B	X	C	290	25	15	弥生時代前期	
Pit463	B	X	A	281	20	15	弥生時代前期	
Pit464	B	X	A	304	30	20	弥生時代前期	
Pit465	B	X	A	280	55	50	弥生時代前期	
Pit466	B	X	C	285	20	15	弥生時代前期	
Pit467	B	X	C	287	10	10	弥生時代前期	
Pit468	B	X	A	263	20	20	弥生時代前期	
Pit469	B	X	C	272	35	25	弥生時代前期	
Pit470	B	X	A	279	20	20	弥生時代前期	
Pit471	B	X	B	268	20	10	弥生時代前期	
Pit472	B	X	A	279	25	20	弥生時代前期	
Pit473	B	X	A	267	25	20	弥生時代前期	
Pit474	B	X	A	272	35	30	弥生時代前期	
Pit475	B	X	A	264	35	25	弥生時代前期	
Pit476	B	X	A	273	15	10	弥生時代前期	
Pit477	B	X	A	268	45	40	弥生時代前期	
Pit478	B	X	A	277	15	10	弥生時代前期	
Pit479	B	X	A	275	20	15	弥生時代前期	
Pit480	B	X	A	275	25	20	弥生時代前期	
Pit481	B	X	A	269	20	20	弥生時代前期	
Pit482	B	X	A	271	25	20	弥生時代前期	
Pit483	B	X	A	269	30	25	弥生時代前期	
Pit484	B	X	A	284	60	55	弥生時代前期	
Pit485	B	X	C	293	20	10	弥生時代前期	
Pit486	B	X	C	290	15	15	弥生時代前期	
Pit487	B	X	C	273	50	35	弥生時代前期	
Pit488	－	－	－	－	－	－	－	欠番
Pit489	－	－	－	－	－	－	－	欠番
Pit490	B	X	－	292	40	30	弥生時代前期	
Pit491	B	X	－	286	40	30	弥生時代前期	
Pit492	B	X	－	284	60	30	弥生時代前期	
Pit493	B	X	－	306	50	40	弥生時代前期	
Pit494	B	X	－	307	10	10	弥生時代前期	
Pit495	B	X	－	287	60	40	弥生時代前期	
Pit496	B	X	－	305	30	20	弥生時代前期	
Pit497	B	X	－	277	70	40	弥生時代前期	
Pit498	－	－	－	－	－	－	－	欠番
Pit499	－	－	－	－	－	－	－	欠番
Pit500	B	X	－	298	60	60	弥生時代前期	
Pit501	B	X	－	302	40	40	弥生時代前期	
Pit502	B	X	－	299	80	55	弥生時代前期	
Pit503	B	X	－	298	45	35	弥生時代前期	
Pit504	B	X	－	300	40	40	弥生時代前期	

第８表　遺構観察表⑥

遺構No	調査区	検出面	覆土色	床面標高【cm】	長軸【cm】	短軸【cm】	年代	備考
Pit505	B	X	－	278	10	10	弥生時代前期	
Pit506	B	X	－	297	20	20	弥生時代前期	
Pit507	B	X	－	289	20	15	弥生時代前期	
Pit508	B	X	－	291	15	15	弥生時代前期	
Pit509	－	－	－	－	－	－	－	欠番
Pit510	B	X	－	285	15	15	弥生時代前期	
Pit511	B	X	－	286	10	10	弥生時代前期	
Pit512	B	X	－	293	25	20	弥生時代前期	
Pit513	B	X	－	286	10	10	弥生時代前期	
Pit514	B	X	－	289	15	10	弥生時代前期	
Pit515	B	X	－	295	15	10	弥生時代前期	
Pit516	B	X	－	285	15	15	弥生時代前期	
Pit517	－	－	－	－	－	－	－	欠番
Pit518	－	－	－	－	－	－	－	欠番
Pit519	B	X	－	292	20	15	弥生時代前期	
Pit520	B	X	－	273	15	10	弥生時代前期	
Pit521	B	X	－	296	10	10	弥生時代前期	
Pit522	B	X	－	295	35	15	弥生時代前期	
Pit523	B	X	－	290	20	20	弥生時代前期	
Pit524	B	X	－	300	25	20	弥生時代前期	
Pit525	－	－	－	－	－	－	－	欠番
Pit526	B	X	－	275	30	15	弥生時代前期	
Pit527	B	X	－	296	15	15	弥生時代前期	
Pit528	B	X	－	291	10	10	弥生時代前期	
Pit529	B	X	－	288	10	10	弥生時代前期	
Pit530	B	X	－	295	20	20	弥生時代前期	
Pit531	B	X	－	274	15	15	弥生時代前期	
Pit532	B	X	－	288	25	15	弥生時代前期	
Pit533	B	X	－	295	10	10	弥生時代前期	
Pit534	B	X	－	277	20	20	弥生時代前期	
Pit535	B	X	－	272	10	10	弥生時代前期	
Pit536	B	X	－	268	10	10	弥生時代前期	
Pit537	B	X	－	272	15	10	弥生時代前期	
Pit538	B	X	－	292	25	20	弥生時代前期	
Pit539	B	X	－	275	10	10	弥生時代前期	
Pit540	－	－	－	－	－	－		欠番
Pit541	B	X	－	290	10	10	弥生時代前期	
Pit542	－	－	－	－	－	－	－	欠番
Pit543	B	X	C	294	30	25	弥生時代前期	
Pit544	－	－	－	－	－	－	－	欠番
Pit545	－	－	－	－	－	－	－	欠番
Pit546	－	－	－	－	－	－	－	欠番
Pit547	B	X	C	271	30	25	弥生時代前期	
Pit548	B	X	B	275	25	10	弥生時代前期	
Pit549	B	X	C	282	30	20	弥生時代前期	
SK 1	A	X	A	258	120	100	弥生時代前期	
SK 2	A	X	－		230	210	弥生時代前期	
SK 3	A	V	C	216	55	50	古代	
SK 4	A	X	－	273	100	90	弥生時代前期	
SK 5	A	X	－	280	100	40	弥生時代前期	
SK 6	A	X	A	275	70	65	弥生時代前期	
SK 7	A	X	－	251	100	75	弥生時代前期	
SK 8	A	V	A	205	45	40	古代	
SK 9	A	V	A	210	60	40	古代	
SK10	A	X	－	－	150	45	弥生時代前期	
SK11	B	X	C	294	170	55	弥生時代前期	
SK12	B	X	C	303	200	70	弥生時代前期	
SK13	B	X	C	305	100	75	弥生時代前期	
SK14	B	X	A	303	95	65	弥生時代前期	
SK15	B	X	A	287	160	110	弥生時代前期	
SK16	B	X	C	302	235	200	弥生時代前期	
SK17	B	X	A	289	250	170	弥生時代前期	
SK18	B	X	C	295	100	65	弥生時代前期	
SK19	B	X	A	287	130	110	弥生時代前期	
SK20	B	X	A	273	180	130	弥生時代前期	
SK21	－	－	－	－	－	－	－	欠番
SK22	－	－	－	－	－	－	－	欠番
SK23	B	X	C	295	65	65	弥生時代前期	
SK24	－	－	－	－	－	－	－	欠番
SK25	B	X	C	303	95	90	弥生時代前期	
SK26	B	X	C	400	165	100	弥生時代前期	
SK27	B	X	C	287	155	50	弥生時代前期	
SK28	B	X	B	295	110	70	弥生時代前期	
SK29	－	－	－	－	－	－	－	欠番
SK30	B	X	－	304	150	70	弥生時代前期	
SK31	B	X	C	269	250	140	弥生時代前期	
SK32	B	X	A	276	70	50	弥生時代前期	
SK33	－	－	－	－	－	－	－	欠番
SK34	－	－	－	－	－	－	－	欠番
SK35	B	X	－	286	190	80	弥生時代前期	
SK36	－	－	－	－	－	－	－	欠番
SK37	－	－	－	－	－	－	－	欠番
SK38	B	X	－	274	110	110	弥生時代前期	
SK39	－	－	－	－	－	－	－	欠番
SD 1	B	X	－				弥生時代前期	
SD 2	B	X	－				弥生時代前期	

第９表　遺物観察表①

図	番号	調査区	グリッド	層位 遺構名	器種	部位	胎土	調整 外面	調整 内面	備考
8	1	A		SK３	須恵器・坏蓋	—	—	—	—	
	2	A		SK３	須恵器・坏蓋	—	—	—	—	
	3	A		SK３	須恵器・坏身	—	—	—	—	
	4	A		SK３	須恵器・坏身	—	—	—	—	
	5	A		SK３	土師器・坏身	—	—	—	—	
	6	A		SK３	土師器・坏身	—	—	—	—	
	7	A		SK３	土師器・坏身	—	—	—	—	刻書（七月）
	8	A		Pit69	土師器・坏身	—	—	—	—	
	9	A		SK８	須恵器・坏身	—	—	—	—	
	10	A		SK９	須恵器・坏身	—	—	—	—	
11	11	A		SK２	深鉢	口縁	結晶片岩・白色砂粒	条痕		
	12	A		SK２	深鉢	口縁	結晶片岩・白色砂粒	条痕		

図	番号	調査区	グリッド	層位 遺構名	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	重量 (g)	備考
11	13	A		SK２	扁平打製石斧	安山岩	9.2	6.3	158.77	

図	番号	調査区	グリッド	層位 遺構名	器種	部位	胎土	調整 外面	調整 内面	備考
11	14	A		SK４	深鉢	口縁	白色砂粒	ナデ	ナデ	
	15	A		SK４	深鉢	口縁	白色砂粒	ナデ	ナデ	
	16	A		SK４	深鉢	頸部	白赤砂粒			
	17	A		SK４	深鉢	口縁	白赤砂粒	ナデ		
	18	A		SK４	深鉢	胴部	白赤砂粒	ナデ		
	19	A		SK４	深鉢	胴部	白赤砂粒・石英			
	20	A		SK４	深鉢	胴部	石英			
	21	A		SK４	深鉢	胴部	石英			
	22	A		SK４	深鉢	胴部	石英			
	23	A		SK４	深鉢	胴部	石英			
	24	A		SK４	深鉢	胴部	石英			
	25	A		SK４	深鉢	胴部	石英・金雲母			
	26	A		SK４	深鉢	胴部	石英			
	27	A		SK４	深鉢	胴部	石英			
	28	A		SK４	深鉢	底部	石英・雲母			
15	29	B		SK15	深鉢	口縁	石英・雲母	ナデ	ミガキ	朝鮮系擬無文土器
	30	B		SK15	深鉢	口縁		ナデ		
	31	B		SK15	深鉢	胴部	白色砂粒			
	32	B		SK15	深鉢	胴部	白色砂粒・雲母			
	33	B		SK15	深鉢	胴部	白石色砂粒			
	34	B		SK15	深鉢	口縁	白色砂粒・雲母			
	35	B		SK15	深鉢	胴部	白色砂粒・雲母			
	36	B		SK15	壺	底部	石英・雲母	ハケメ		外面：丹塗り

図	番号	調査区	グリッド	層位 遺構名	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	重量 (g)	備考
15	37	B		SK15	石核	安山岩	1.7	2.8	9.93	
	38	B		SK15	石核	黒曜石	2.2	2.9	11.22	
	39	B		SK15	石鏃	黒曜石	1.9	1.6	0.76	
	40	B		SK15	石鏃	黒曜石	3.45	2.4	5.82	
	41	B		SK15	石鏃	黒曜石	1.75	1.3	0.52	
	42	B		SK15	石鏃	黒曜石	2.9	1.9	2.27	

図	番号	調査区	グリッド	層位 遺構名	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	重量 (g)	備考
16	43	B		SK20	石鏃	黒曜石	3	2.2	1.6	
	44	B		SK20	石鏃	黒曜石	1.7	1.9	0.79	
	45	B		SK20	石鏃	黒曜石	2.15	2.05	1.01	
	46	B		SK20	石鏃	黒曜石	3	2.1	1.45	
	47	B		SK20	石鏃	安山岩	3.3	2.6	3.64	
	48	B		SK20	剥片	安山岩	7.8	5	48.56	
	49	B		SK20	スクレイパー	安山岩	5	5.4	45.49	
	50	B		SK20	砥石	砂石	12.5	8.4	389.32	
	51	B		SK20	扁平打製石斧	安山岩	13.7	7	293.66	
	52	B		SK20	扁平打製石斧	安山岩	11.2	5.6	147.92	

図	番号	調査区	グリッド	層位 遺構名	器種	部位	胎土	調整 外面	調整 内面	備考
17	53	B		SK20	深鉢	口縁	雲母	ナデ	ナデ	
	54	B		SK20	深鉢	口縁	石英・雲母・赤色砂粒	ナデ	オサエ→ナデ	
	55	B		SK20	深鉢	口縁	石英・雲母・白色砂粒	ナデ	ナデ	
	56	B		SK20	深鉢	口縁	雲母・白色砂粒	ナデ		
	57	B		SK20	深鉢	口縁	赤白砂粒・石英・雲母	ナデ	ナデ	
	58	B		SK20	深鉢	胴部	赤白砂粒・雲母			
	59	B		SK20	深鉢	胴部	赤白砂粒・雲母	ナデ	オサエ	
	60	B		SK20	深鉢	胴部	赤白砂粒・雲母・石英	ナデ	ナデ	
	61	B		SK20	深鉢	胴部	赤白砂粒・雲母・石英			
	62	B		SK20	深鉢	胴部	赤色砂粒・雲母			
	63	B		SK20	甕カ	胴部	金雲母・石英			
	64	B		SK20	甕カ	胴部	白色砂粒・雲母			
	65	B		SK20	甕カ	胴部	石英・雲母			
	66	B		SK20	壺カ	胴部	赤色砂粒・石英			外面：丹塗り
	67	B		SK20	甕	胴部	雲母	ハケメ		
	68	B		SK20	壺カ	胴部	赤色砂粒			
	69	B		SK20	甕カ	胴部	白色砂粒			
	70	B		SK20	壺カ	胴部	白赤砂粒・石英			
	71	B		SK20	壺カ	胴部	石英・雲母			
	72	B		SK20	甕カ	胴部	石英・雲母			
	73	B		SK20	甕カ	胴部	石英・雲母			
	74	B		SK20	壺カ	胴部	白赤砂粒・雲母・金雲母			
	75	B		SK20	壺カ	胴部	石英・雲母			
	76	B		SK20	甕カ	胴部	白色砂粒・石英・雲母			
	77	B		SK20	甕カ	胴部	白色砂粒・雲母・金雲母	ナデ		
	78	B		SK20	壺カ	底部	白色砂粒			外面：丹塗り
	79	B		SK20	壺カ	底部	砂粒			外面：丹塗り
	80	B		SK20	壺カ	底部	白色砂粒・雲母			外面：丹塗り・スス付着
	81	B		SK20	甕	口縁から胴部	赤色砂粒・石英・金雲母	ハケメ	ナデ	口縁直下：穿孔２つ

図	番号	調査区	グリッド	層位 遺構名	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	重量 (g)	備考
18	82	A		SK１	石鏃	黒曜石	1.6	1.5	0.61	
	83	A		SK７	石鏃	黒曜石	2.1	1.8	1.2	
	84	A		SK７	石鏃	黒曜石	2.2	2	1.81	
	85	B		SK12	石鏃	黒曜石	3	3	9.16	

図	番号	調査区	グリッド	層位 遺構名	器種	部位	胎土	調整 外面	調整 内面	備考
18	86	B		SK12	深鉢	底部	白色砂粒・雲母			
	87	B		SK14	深鉢	胴部	白色砂粒			
	88	B		SK14	甕	口縁	石英・雲母			
	89	B		SK14	甕	口縁	白石色砂粒・雲母			
	90	B		SK14	深鉢	胴部	赤色砂粒	ナデ		

図	番号	調査区	グリッド	層位 遺構名	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	重量 (g)	備考
18	91	B		SK14	扁平打製石斧	安山岩	6.7	5.2	92.5	

図	番号	調査区	グリッド	層位 遺構名	器種	部位	胎土	調整 外面	調整 内面	備考
18	92	B		SK16	甕	口縁	白色砂粒・石英・金雲母	ナデ		
	93	B		SK16	深鉢	底部	白色砂粒・雲母	ユビオサエ		
	94	B		SK16	甕	底部	白色砂粒・石英・金雲母	ハケメ		
	95	B		SK17	深鉢	胴部	白色砂粒・石英	ナデ	オサエ	

図	番号	調査区	グリッド	層位 遺構名	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	重量 (g)	備考
18	96	B		SK17	石鏃	黒曜石	2.8	1.5	1.44	

第10表　遺物観察表②

図	番号	調査区	グリッド	層位 遺構名	器種	部位	胎土	調整 外面	調整 内面	備考
18	97	B		SK19	壺	口縁	赤色砂粒			
	98	B		SK19	壺	口縁	雲母			
	99	B		SK19	甕	底部	石英・雲母			
図	番号	調査区	グリッド	層位 遺構名	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	重量 (g)	備考
18	100	B		SK24	扁平打製石斧	安山岩	8.3	5.7	78.1	
	101	B		SK24	扁平打製石斧	安山岩	9	6.3	126.97	
図	番号	調査区	グリッド	層位 遺構名	器種	部位	胎土	調整 外面	調整 内面	備考
18	102	B		SK26	甕	口縁	石英・雲母	ナデ	ナデ	
	103	B		SK26	甕	胴部	石英・雲母・金雲母	ナデ	ナデ	外面に断面三角形突帯
図	番号	調査区	グリッド	層位 遺構名	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	重量 (g)	備考
18	104	B		SK28	扁平打製石斧	安山岩	9.1	6.2	108.7	
	105	B		SK28	扁平打製石斧	安山岩	11.1	6.5	186.82	
図	番号	調査区	グリッド	層位 遺構名	器種	部位	胎土	調整 外面	調整 内面	備考
18	106	B		SK28	甕	底部	白色砂粒・雲母	オサエ→ナデ	ナデ	
	107	B		SK28	深鉢	底部	白色砂粒・結晶片岩	条痕		
図	番号	調査区	グリッド	層位 遺構名	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	重量 (g)	備考
18	108	B		SK29	石鏃	黒曜石	2	1.55	0.69	
	109	B		SK31	石鏃	黒曜石	2.2	1.7	0.87	
図	番号	調査区	グリッド	層位 遺構名	器種	部位	胎土	調整 外面	調整 内面	備考
18	110	B		SK33	甕	底部	石英・金雲母	ユビオサエ		
19	111	B		SK31	甕	口縁	赤色砂粒・雲母	ナデ	ユビオサエ	
	112	B		SK31	甕	口縁	白赤砂粒・石英・雲母	ナデ	ナデ	
	113	B		SK31	壺	底部	赤白砂粒・石英・雲母			
	114	B		SK31	甕	底部	白色砂粒・石英・金雲母	ナデ	ナデ	
	115	B		SK31	甕カ	胴部	白色砂粒・雲母	ナデ		
	116	B		SK31	甕	底部	白色砂粒	ハケメ		
図	番号	調査区	グリッド	層位 遺構名	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	重量 (g)	備考
19	117	B		SK31	装飾のある石製品	—	9	2.5	66.95	
図	番号	調査区	グリッド	層位 遺構名	器種	部位	胎土	調整 外面	調整 内面	備考
31	118	A		Pit 9	深鉢	口縁	結晶片岩	条痕		波状口縁
	119	A		Pit 9	深鉢	胴部	白色砂粒・雲母	ナデ		
図	番号	調査区	グリッド	層位 遺構名	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	重量 (g)	備考
31	120	A		Pit 9	剥片	黒曜石	1.2	0.9	0.24	
	121	A		Pit21	石鏃	黒曜石	2.2	1.8	1	
	122	A		Pit31	石鏃	黒曜石	2.7	1.7	0.8	
図	番号	調査区	グリッド	層位 遺構名	器種	部位	胎土	調整 外面	調整 内面	備考
31	123	A		Pit61	甕	口縁	白色砂粒・雲母	ナデ		
	124	A		Pit69	深鉢	頸部	白色砂粒・雲母	条痕	ナデ	
図	番号	調査区	グリッド	層位 遺構名	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	重量 (g)	備考
31	125	A		Pit76	磨製石斧	頁岩	8.4	5.6	84.54	
	126	B		Pit87	石鏃	黒曜石	1.6	2.3	1.18	
	127	B		Pit89	石鏃	黒曜石	2.5	2.5	5.34	
図	番号	調査区	グリッド	層位 遺構名	器種	部位	胎土	調整 外面	調整 内面	備考
31	128	B		Pit90	深鉢	底部	白色砂粒・雲母			
	129	B		Pit92	甕	口縁	白色砂粒・石英			
	130	B		Pit99	深鉢	底部	白色砂粒			
	131	B		Pit101	深鉢	胴部	白色砂粒・石英・金雲母	ナデ	ナデ	
図	番号	調査区	グリッド	層位 遺構名	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	重量 (g)	備考
31	132	B		Pit101	石鏃	黒曜石	2.6	1.6	1.43	
図	番号	調査区	グリッド	層位 遺構名	器種	部位	胎土	調整 外面	調整 内面	備考
31	133	B		Pit126	甕	口縁	白色砂粒・石英・金雲母			
図	番号	調査区	グリッド	層位 遺構名	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	重量 (g)	備考
31	134	B		Pit126	剥片	黒曜石	3.3	2.4	5.88	
図	番号	調査区	グリッド	層位 遺構名	器種	部位	胎土	調整 外面	調整 内面	備考
31	135	B		Pit127	壺	底部	石英			
図	番号	調査区	グリッド	層位 遺構名	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	重量 (g)	備考
31	136	B		Pit141	加工痕のある石器	黒曜石	1.7	1.5	1.1	
図	番号	調査区	グリッド	層位 遺構名	器種	部位	胎土	調整 外面	調整 内面	備考
31	137	B		Pit152	深鉢	底部	白色砂粒			
図	番号	調査区	グリッド	層位 遺構名	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	重量 (g)	備考
31	138	B		Pit153	石錐	安山岩	2.9	2.1	1.93	
図	番号	調査区	グリッド	層位 遺構名	器種	部位	胎土	調整 外面	調整 内面	備考
31	139	B		Pit154	壺カ	胴部	白色砂粒・石英・金雲母			
図	番号	調査区	グリッド	層位 遺構名	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	重量 (g)	備考
31	140	B		Pit138	石鏃	黒曜石	2.9	2.2	3.43	
	141	B		Pit145	扁平打製石斧	安山岩	11.7	5.2	153.12	
図	番号	調査区	グリッド	層位 遺構名	器種	部位	胎土	調整 外面	調整 内面	備考
32	142	B		Pit161	石鏃	黒曜石	1.85	2.05	0.94	
	143	B		Pit165	石鏃	黒曜石	1.75	1.6	0.61	
	144	B		Pit179	石鏃	黒曜石	2	1.75	0.78	
	145	B		Pit180	石鏃	黒曜石	1.6	1.9	0.63	
図	番号	調査区	グリッド	層位 遺構名	器種	部位	胎土	調整 外面	調整 内面	備考
32	146	B		Pit183	組織痕土器	底部	白色砂粒・雲母			
図	番号	調査区	グリッド	層位 遺構名	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	重量 (g)	備考
32	147	B		Pit191	石鏃	黒曜石	2.4	2.5	2.97	
	148	B		Pit240	石鏃	黒曜石	2.05	2.05	1.28	
	149	B		Pit268	剥片	安山岩	9.2	4	62.61	
	150	B		Pit295	石鏃	黒曜石	2.5	2.2	3.5	
	151	B		Pit305	石鏃	黒曜石	2.7	2.2	0.98	
図	番号	調査区	グリッド	層位 遺構名	器種	部位	胎土	調整 外面	調整 内面	備考
32	152	B		Pit305	甕カ	胴部	石英・金雲母			
図	番号	調査区	グリッド	層位 遺構名	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	重量 (g)	備考
32	153	B		Pit318	石鏃	黒曜石	1.7	1.6	0.6	
図	番号	調査区	グリッド	層位 遺構名	器種	部位	胎土	調整 外面	調整 内面	備考
32	154	B		Pit319	深鉢	口縁	白色砂粒・石英			
	155	B		Pit319	深鉢	胴部	石英	ナデ		

第11表　遺物観察表③

図	番号	調査区	グリッド	層位 遺構名	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	重量 (g)	備考
32	156	B		Pit319	石鏃	黒曜石	3.3	3.3	8.83	
	157	B		Pit317	磨製石斧	安山岩	8.7	5.5	206.32	
図	番号	調査区	グリッド	層位 遺構名	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	重量 (g)	備考
32	158	B		Pit347	石鏃	黒曜石	1.8	1.7	0.7	
	159	B		Pit347	石鏃	黒曜石	1.9	1.5	1.27	
	160	B		Pit343	石鏃	黒曜石	2.4	2	1.63	
	161	B		Pit388	石鏃	黒曜石	2	1.5	0.82	
33	162	B		Pit389	剥片	黒曜石	3.2	2.5	0.6	
	163	B		Pit389	剥片	黒曜石	3.7	2.3	1	
	164	B		Pit389	剥片	黒曜石	3.7	2.2	1.1	
	165	B		Pit389	スクレイパー	黒曜石	6.4	7.2	65.21	
図	番号	調査区	グリッド	層位 遺構名	器種	部位	胎土	調整 外面	調整 内面	備考
33	166	A		Pit 1 - P	甕	胴部から底部	白色砂粒・石英・金雲母	ナデ		
図	番号	調査区	グリッド	層位 遺構名	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	重量 (g)	備考
33	167	A		SR 1	スクレイパー	安山岩	6.4	4.9	31.62	
	168	A		SR 1	扁平打製石斧	安山岩	12.1	5.7	196.75	
図	番号	調査区	グリッド	層位 遺構名	器種	部位	胎土	調整 外面	調整 内面	備考
33	169	A		SR 1	壺	底部	白色砂粒・石英	ユビオサエ→ナデ		
	170	A		SR 1	甕	底部	白色砂粒・石英・雲母	ユビオサエ	ユビオサエ	
図	番号	調査区	グリッド	層位 遺構名	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	重量 (g)	備考
33	171	A		SR 1	石鏃	黒曜石	2.05	1.9	1.02	
図	番号	調査区	グリッド	層位 遺構名	器種	部位	胎土	調整 外面	調整 内面	備考
33	172	B		SD 2	深鉢	口縁	白色砂粒・石英			
34	173	B	C 7	Ⅸ	浅鉢	口縁	白色砂粒			
	174		—	Ⅸ	浅鉢	口縁	白色砂粒			波状口縁
	175	A	E 3	Ⅸ	浅鉢	口縁	白色砂粒・雲母			
	176	A	F 1	Ⅸ	浅鉢	口縁	白色砂粒・雲母			
	177	B	B 8	Ⅸ	浅鉢	口縁	白色砂粒・雲母			
	178	A	F 2	Ⅸ	浅鉢	口縁	白色砂粒・雲母	ミガキ	ミガキ	
	179	A	D 4	Ⅸ	浅鉢	口縁	白色砂粒・雲母			波状口縁
	180	A	E 3	Ⅸ	浅鉢	口縁	白色砂粒	ナデ	ナデ	
	181	A	E 3	Ⅸ	組織痕土器	底部	白色砂粒・雲母			
	182	A	E 3	Ⅸ	組織痕土器	底部	白色砂粒・雲母			
	183	B	C 8	Ⅸ	深鉢	口縁	白色砂粒・雲母・金雲母	オサエ	ナデ	
	184	A	F 1	Ⅸ	深鉢	胴部	白色砂粒・雲母	条痕	ナデ	
	185	B	—	Ⅸ	深鉢	胴部	白色砂粒・雲母・石英	条痕	ナデ	
	186	B	—	Ⅸ	深鉢	胴部	白色砂粒・雲母・角閃石	ナデ		無刻目突帯文土器カ
	187	B	C 8	Ⅸ	深鉢	口縁	白色砂粒・雲母	ナデ		
	188	A	E 3	Ⅸ	深鉢	口縁	白色砂粒・雲母・石英	ナデ	ユビオサエ	
	189	B	B 8	Ⅸ	深鉢	口縁	赤白色砂粒	ナデ		
	190	B	C 7	Ⅸ	深鉢	口縁	石英			
	191	B	C 7	Ⅸ	深鉢	口縁	白色砂粒			
	192	B	B 9	Ⅸ	深鉢	口縁	白色砂粒・金雲母			
	193	B	C 8	Ⅸ	深鉢	口縁	白色砂粒・石英・雲母	ナデ		
	194	B	C 8	Ⅸ	深鉢	口縁	白色砂粒・雲母			
	195	B	B 8	Ⅸ	深鉢	口縁	赤白色砂粒・石英	ナデ		
	196	B	C 7	Ⅸ	深鉢	口縁	白色砂粒・石英・金雲母			
	197	A	F 2	Ⅸ	深鉢	口縁	白色砂粒・雲母			
	198		—	Ⅸ	甕	口縁	白色砂粒・雲母	ユビオサエ→ナデ		
	199	A	E 4	Ⅸ	深鉢	口縁	白色砂粒・金雲母・石英			
	200	B	—	Ⅸ	深鉢	胴部	白色砂粒・雲母	ナデ		
	201	A	D 4	Ⅸ	深鉢	胴部	白色砂粒・金雲母		ユビオサエ	
	202		—	Ⅸ	深鉢	胴部	石英・雲母		ユビオサエ	
	203	B	C 7	Ⅸ	甕	口縁	石英			
	204	B	B 8	Ⅸ	甕	口縁	白色砂粒・石英・雲母			
	205	B	C 7	Ⅸ	甕	口縁	白色砂粒・金雲母			
	206	B	C 7	Ⅸ	甕	口縁	白色砂粒・石英			
	207	B	D 6	Ⅸ	甕	口縁	白色砂粒・石英			
	208	B	C 7	Ⅸ	甕	口縁	白色砂粒・石英・金雲母			
	209	B	C 8	Ⅸ	甕	口縁	白色砂粒・金雲母			
	210	B	C 8	Ⅸ	甕	口縁	白色砂粒			
	211	B	B 8	Ⅸ	甕	口縁	白色砂粒・雲母			
	212	B	C 7	Ⅸ	深鉢	胴部	白色砂粒・雲母・石英			
	213	B	C 7	Ⅸ	甕	口縁	白色砂粒・雲母			
	214	B	C 7	Ⅸ	甕	口縁	白色砂粒・雲母			
35	215	B	C 7	Ⅸ	甕	口縁	石英			
	216	B	C 7	Ⅸ	甕	口縁	石英・金雲母			
	217	A	E 3	Ⅸ	甕	口縁	白色砂粒・石英			
	218	B	—	Ⅸ	甕	口縁	白色砂粒・石英			
	219	B	C 7	Ⅸ	甕	口縁	白色砂粒・石英・雲母			
	220	A	E 5	Ⅸ	甕	口縁	白色砂粒・石英	ナデ	ナデ	
	221	B	—	Ⅸ	壺	口縁	白色砂粒・雲母			
	222	A	E 3	Ⅸ	壺	口縁	白色砂粒・石英			
	223	B	C 7	Ⅸ	壺	口縁	白色砂粒・金雲母			
	224	A	E 3	Ⅸ	壺	口縁	白色砂粒・雲母			
	225	B	D 6	Ⅸ	壺	口縁	白色砂粒・雲母			
	226	B	C 6	Ⅸ	壺	口縁	白色砂粒・金雲母・石英			
	227	B	C 7	Ⅸ	甕	口縁	白色砂粒・雲母	ナデ	ナデ	
	228	B	C 7	Ⅸ	甕	口縁	白色砂粒			
	229	B	C 7	Ⅸ	壺	口縁	白色砂粒・金雲母	ナデ	ナデ	
	230	A	F 2	Ⅸ	壺	口縁	白色砂粒・石英・金雲母	ナデ		
	231	B	C 8	Ⅸ	壺	口縁	白色砂粒・石英・金雲母	ナデ	ナデ	
	232	B	D 6	Ⅸ	壺	口縁	白色砂粒・石英	ナデ	ナデ	
図	番号	調査区	グリッド	層位 遺構名	器種	部位	胎土	調整 外面	調整 内面	備考
36	233	B	D 6	Ⅸ	紡錘車	—	—			
図	番号	調査区	グリッド	層位 遺構名	器種	部位	胎土	調整 外面	調整 内面	備考
36	234	B	C 7	Ⅸ	深鉢	底部	白色砂粒・石英・雲母	ユビオサエ		
	235	A	E 3	Ⅸ	深鉢	底部	白色砂粒・雲母			
	236	A	E 3	Ⅸ	深鉢	底部	白色砂粒・石英・雲母			
	237	A	—	Ⅸ	深鉢	底部	白色砂粒・石英・雲母			
	238	A	F 1	Ⅸ	甕	底部	白色砂粒・石英			
	239	A	D 4	Ⅸ	甕	底部	白色砂粒・石英			
	240	B	C 7	Ⅸ	甕	底部	白色砂粒・石英・雲母			
	241		—	Ⅸ	甕	底部	白色砂粒・石英・雲母			
	242	B	C 7	Ⅸ	甕	底部	白赤色砂粒・石英			
	243	B	C 7	Ⅸ	甕	底部	白色砂粒・石英・雲母			
	244	A	D 5	Ⅸ	深鉢	底部	白色砂粒・石英・雲母			
	245	A	E 3	Ⅸ	甕	底部	白色砂粒・雲母			
	246	A	E 3	Ⅸ	甕	底部	白色砂粒・石英			
	247		—	Ⅸ	深鉢	底部	白色砂粒・雲母			
	248	B	—	Ⅸ	深鉢	底部	白色砂粒・雲母			
	249	A	D 4	Ⅸ	深鉢	底部	白色砂粒・石英・雲母			
	250	B	C 7	Ⅸ	深鉢	底部	白色砂粒・雲母			
	251		—	Ⅸ	深鉢	底部	白色砂粒・雲母			
	252	B	C 8	Ⅸ	深鉢	底部	白色砂粒・石英・雲母			
	253	B	C 6	Ⅸ	深鉢	底部	白色砂粒・石英・雲母			
	254	A	E 3	Ⅸ	深鉢	底部	白色砂粒・雲母			
	255	B	C 7	Ⅸ	深鉢	底部	白色砂粒・雲母			

第12表　遺物観察表④

	256	A	F2	Ⅸ	深鉢	底部	白色砂粒・雲母			
	257	B	—	Ⅸ	深鉢	底部	白色砂粒・雲母			
	258	A	—	Ⅸ	壺	底部	白色砂粒・石英			
	259	B	B9	Ⅸ	壺	底部	白色砂粒・石英・雲母			
	260	B	C7	Ⅸ	壺	底部	白色砂粒・雲母			
	261	A	E4	Ⅸ	壺	底部	白色砂粒・雲母	ナデ		
	262	B	B9	Ⅸ	壺	底部	白色砂粒・石英・雲母			
	263	B	C7	Ⅸ	甕	底部	白色砂粒・石英・雲母・金雲			
	264	B	C8	Ⅸ	甕	底部	白色砂粒・石英	ハケメ		
	265	B	C7	Ⅸ	甕	底部	白色砂粒・石英			
	266	B	—	Ⅸ	甕	底部	白色砂粒・石英			
図	番号	調査区	グリッド	層位 遺構名	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	重量 (g)	備考
37	267		—	Ⅸ	石核	黒曜石	4.7	6	113.58	
	268	B	C7	Ⅸ	石核	黒曜石	6.2	8.1	217.27	
	269	A	—	Ⅸ	石核	安山岩	2.3	2	5.34	
	270		—	Ⅸ	石核	安山岩	3.6	6.5	77.88	
38	271		—	Ⅸ	剥片	安山岩	9.2	5.1	45.99	
	272		—	Ⅸ	剥片	安山岩	8.2	3.6	35.73	
	273		—	Ⅸ	剥片	安山岩	3.8	1.6	3.11	
	274		—	Ⅸ	剥片	安山岩	4.7	2.1	7.2	
	275	B	C9	Ⅸ	剥片	安山岩	5.4	1.8	8.09	
	276		—	Ⅸ	剥片	黒曜石	3.2	5.2	16.07	
	277		—	Ⅸ	剥片	安山岩	5.9	5.7	34.8	
	278	A	D4	Ⅸ	加工痕のある石器	安山岩	3.2	1.1	2.09	
	279	A	F2	Ⅸ	加工痕のある石器	安山岩	2.8	1	1.43	
39	280	B	C6	Ⅸ	石鏃	黒曜石	2.3	1.7	1	
	281	B	C6	Ⅸ	石鏃	黒曜石	2.8	2.7	2.5	
	282	B	D6	Ⅸ	石鏃	黒曜石	2.4	1.8	1.55	
	283	A	E5	Ⅸ	石鏃	黒曜石	2.6	2	2.74	
	284	B	C9	Ⅸ	石鏃	黒曜石	3	2.3	4.23	
	285	A	E3	Ⅸ	石鏃	安山岩	3.9	2.85	8.35	
	286	B	C6	Ⅸ	石鏃	黒曜石	3	2.5	3.71	
	287	B	—	Ⅸ	石鏃	安山岩	3	2.6	4.23	
	288	A	D5	Ⅸ	石鏃	黒曜石	1.9	1.4	0.62	
	289	A	E4	Ⅸ	石鏃	黒曜石	2.4	2.1	0.83	
	290	A	E4	Ⅸ	石鏃	黒曜石	2	2	0.83	
	291	B	C7	Ⅸ	石鏃	黒曜石	2.3	1.6	0.62	
	292	A	D5	Ⅸ	石鏃	黒曜石	2.3	2	1.03	
	293	B	C7	Ⅸ	石鏃	黒曜石	2.2	2.1	2.19	
	294	A	E3	Ⅸ	石鏃	黒曜石	1.9	1.9	1.18	
	295	B	C8	Ⅸ	石鏃	黒曜石	1.9	2	1.07	
	296	A	E4	Ⅸ	石鏃	黒曜石	1.9	2.4	1.28	
	297	A	E4	Ⅸ	石鏃	黒曜石	2	1.5	0.9	
	298	B	C6	Ⅸ	石鏃	黒曜石	2.9	2.2	2.21	
	299	A	E3	Ⅸ	石鏃	黒曜石	2.2	1.55	0.94	
	300	B	—	Ⅸ	石鏃	黒曜石	1.7	1.8	0.88	
	301	B	C8	Ⅸ	石鏃	黒曜石	2.3	1.7	1.48	
	302	A	E3	Ⅸ	石鏃	黒曜石	1.6	1.8	0.78	
	303	B	C6	Ⅸ	石鏃	黒曜石	2.3	1.6	0.84	
	304	A	E5	Ⅸ	石鏃	黒曜石	1.6	1.7	0.75	
	305	B	C8	Ⅸ	石鏃	黒曜石	3	2.2	4.34	
	306	A	D5	Ⅸ	石鏃	黒曜石	1.9	1.4	0.62	
	307	B	C8	Ⅸ	石鏃	黒曜石	3.6	1.9	3.96	
	308	B	C7	Ⅸ	石鏃	黒曜石	3.9	2	3.2	
	309		—	Ⅸ	石鏃	黒曜石	3.3	3.2	9.04	
40	310	B	C9	Ⅸ	石版丁	安山岩	6.8	11.7	82.3	
	311		—	Ⅸ	スクレイパー	玄武岩	4.9	6.4	38.97	
	312		—	Ⅸ	スクレイパー	黒曜石	2.2	3.5	4.73	
	313	B	B9	Ⅸ	スクレイパー	安山岩	4.5	6.5	30.74	
	314	A	E2	Ⅸ	スクレイパー	安山岩	6.7	7.5	94.74	
	315	A	D5	Ⅸ	石匙	安山岩	4.4	4.9	20.99	
	316	B	B9	Ⅸ	磨石	花こう岩	12.5	10.7	1150	
	317	A	D5	Ⅸ	磨石	石英カ	5.2	3.9	84.78	
41	318	B	B9	Ⅸ	扁平打製石斧	安山岩	12.2	5.7	203.12	
	319	A	E5	Ⅸ	扁平打製石斧	安山岩	8.5	5.8	119.29	
	320	A	E5	Ⅸ	扁平打製石斧	安山岩	9.7	6.6	243.53	
	321	A	F2	Ⅸ	扁平打製石斧	安山岩	12.5	6.1	143.49	
	322	B	C7	Ⅸ	扁平打製石斧	安山岩	14.3	7.5	377.6	
	323	B	B8	Ⅸ	扁平打製石斧	安山岩	11	5.7	104.9	
	324	B	C7	Ⅸ	扁平打製石斧	安山岩	17.8	10.5	540	
42	325		—	Ⅸ	磨製石斧	安山岩	12.5	7.2	570	
	326		—	Ⅸ	磨製石斧	安山岩	11.6	5.8	378.47	
	327	B	D6	Ⅸ	磨製石斧	安山岩	15.7	5.5	540	
	328	A	E4	Ⅸ	磨製石斧	玄武岩	15.65	5.3	345.88	
	329	B	C7	Ⅸ	磨製石斧	安山岩	14.7	5.5	371.2	
	330	B	C7	Ⅸ	石ノミ	—	7.2	2.3	52.18	
	331	B	B8	Ⅸ	石ノミ	安山岩	9.3	2.4	58.45	
43	332		—	Ⅸ	不明石器	結晶片岩	9.4	4.6	85.43	
	333	A	D4	Ⅸ	不明石器	結晶片岩	10.6	6.5	176.76	
	334	A	F4	Ⅸ	円盤状石器	結晶片岩	5.6	4.7	58.61	
	335	A	F1	Ⅸ	円盤状石器	結晶片岩	5.3	4.5	45.35	
図	番号	調査区	グリッド	層位 遺構名	器種	部位	胎土	調整 外面	調整 内面	備考
44	336	A	E3	V	土師器・坏身	ほぼ完形	—	—	—	
	337	A	E5	Ⅸ	土師器・坏身	底部	—	—	—	
	338	B	C8	Ⅸ	土師器・坏身	底部	—	—	—	
	339	B	—	Ⅳ	土錘	—	—	灰褐色(7.5YR5/2)	—	
	340	A	E2	Ⅸ	土錘	—	—	灰黄色(2.5Y7/2)	—	
	341	A	F3	V	土錘	—	—	橙色(7.5YR6/6)	—	
	342	A	F1	V	土錘	—	—	にぶい赤褐色(2.5YR5/4)	—	
	343	A	E3	Ⅳ	土錘	—	—	橙色(7.5YR6/6)	—	
	344	A	E2	Ⅸ	土錘	—	—	橙色(2.5YR6/6)	—	
	345	A	F2	V	土錘	—	—	にぶい黄橙色(10YR7/2)	—	
	346	A	F1	V	土錘	—	—	にぶい橙色(2.5YR6/4)	—	
	347	A	F1	V	土錘	—	—	橙色(2.5YR6/6)	—	
	348	A	F2	V	土錘	—	—	明赤褐色(5YR5/6)	—	
	349	A	F2	V	土錘	—	—	橙色(7.5YR7/6)	—	
	350	A	F2	V	土錘	—	—	にぶい褐色(7.5YR5/3)	—	
	351	A	F1	V	土錘	—	—	明褐灰色(7.5YR7/2)	—	
	352	A	F2	V	土錘	—	—	橙色(7.5YR6/6)	—	
	353	A	E1	Ⅳ	土錘	—	—	にぶい橙色(5YR7/3)	—	
	354	A	F1	V	須恵器・坏蓋	—	—	—	—	
	355	A	F1	V	瓦質すり鉢	胴部	—	—	—	
	356	A	F3	V	白磁皿	底部	—	—	—	
	357	A	F1	V	同安窯系青磁皿	底部	—	—	—	
	358	A	F3	V	白磁碗	口縁	—	—	—	
図	番号	調査区	グリッド	層位 遺構名	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	重量 (g)	備考
45	359	A		Ⅻ	木杭	—	19	7.2	—	3面をカット
	360	A		Ⅻ	木杭	—	31	5	—	3面をカット
	361	A		Ⅻ	木杭	—	39	7	—	3面をカット
	362	A		Ⅻ	木杭	—	28	6.5	—	3面をカット
	363	A		Ⅹ Ⅱ	木杭	—	44	5.5	—	3面をカット
	364	A		Ⅹ Ⅱ	不明	—	10.6	6	—	中央部付近に溝状の加工痕が巡る
	365	A		Ⅹ Ⅱ	杭	—	21	6	—	

4章　総　　括

ここでは、今回の調査の要点を項目ごとにまとめる。

1．遺構

弥生時代前期

当該期の遺構として柱穴（Pit）約500基、土坑（SK）約40基、溝状遺構（SD）が2基検出された。B地区の東半部にみられたおよそ南北方向に走る溝状遺構を境に東側が礫層、西側は締まりが強く、礫などを含まない安定した堆積の粘質土層と大きく分かれている。礫層である東側は遺構も少なく、明確なものも少ない。対象的に西側には柱穴、土坑などが集中することがわかった。このことから、溝状遺構は居住区とそうでない地区を分ける区画的な意味合いで掘られたものであることが考えられる。検出した柱穴は平均で直径約28cmと比較的小さい。遺構内に柱痕が残るものは見られなかった。柱穴内の覆土は色調から大きく分けて3種確認できた。覆土の色調の違いによる調査区内での分布を検討し、さらにB地区において柱穴が集中する箇所においては、床面標高別の遺構配置の検討を行ったが、並び等に規則性がみられるものは見つからなかった。土坑に関しては、SK4、15、20、31のように比較的まとまった量に遺物が入るものがみられた。またSK20から出土した復元できる甕（第17図81）を除き、土坑内から出土する遺物の大半が接合できない小片であることから、今回検出した土坑は廃棄土坑として構築されたものと考えて良いであろう。

古代

A地区で検出した土坑SK3・8・9は、旧自然流路の際に掘り込まれたものであることがわかった。土坑内からは8世紀後半～9世紀前半に位置できる須恵器、土師器の坏身、蓋が出土した。中には、刻書「七月」と読める資料が見られた。旧歴の七月は現在の八月にあたることや、土坑は水際に掘り込まれていることから、盂蘭盆会に関わりのある遺構の可能性が考えられる[註13]。また土坑に隣接する柱穴（Pit69）からも、同年代の土師器の坏身が出土している。

検出した古代の4基の遺構は、上部が現代の耕作土により削平されている。このことから、本来はこれらの他にも当該期に年代を持つ遺構が存在した可能性も考えられる。それらの遺構のうち、比較的に掘り込みが深かった4基の遺構が残存していたのであろう。また、黒丸遺跡において明確な古代の遺構が検出されたのは、今回の調査が初例である。黒丸遺跡周辺は古代の彼杵郡家が比定されており、今後注目すべき遺構である。

2．遺物

土器

Ⅸ層中からは縄文時代晩期に位置づけされる黒川式から、弥生時代中期に位置づけされる須玖Ⅱ式までが出土している。Ⅹ層上面および、掘りこまれた遺構内の覆土からは、縄文時代晩期の資料も若干混じるものの、板付Ⅱ式並行段階の資料が主体を占める。今回の調査で出土した土器のうち、注目すべき資料は朝鮮系擬無文土器と考えられる資料（第15図29）であろう。口縁部に、断面円形の粘土帯を貼り付けて形成されており、いわゆる「粘土紐甕」の特徴を持ち、形状から韓国青銅器時代後期前半に位置できるようである。黒丸遺跡においては過去の調査で壺棺の副葬品として、朝鮮系擬無文土器とされる長頸壺が出土しており（長崎県教育委員会1996）、今回の資料と併せて2例目の出土と

なる。現在のところ長崎県において韓国青銅器時代後期前半に位置される朝鮮系無文土器ないし、朝鮮系擬無文土器の出土は、壱岐市の天ヶ原遺跡、原の辻遺跡、平戸市田平町の里田原遺跡、佐世保市の四反田遺跡、北松浦郡小佐々町の古田遺跡、西海市の天久保遺跡など島興部や北部に限られており（片岡宏二1999)、県中央部以南では黒丸遺跡に出土を見るのみである。後述する石庖丁と併せて、本遺跡における農耕文化を考えるうえで重要な資料といえる。

石器

石器は扁平打製石斧をはじめ、磨製石斧、石鏃、スクレイパーなどが出土した。その中でも注目すべき資料に関して若干の検討を述べたい。

①装飾のある石製品

石製品は土坑であるSK31から板付Ⅱ式平行段階の土器と共に出土した。全長9㎝、最大幅2.5㎝、重量66.95ｇを測る。断面はやや楕円に近い円形を呈す。上部と思われる箇所は欠損しており、下部も一部剥離している。石材は結晶片岩か泥岩で、文様を施す前に全面を丁寧に研磨している。文様帯は陰線で、９本で１つの文様を構成しており、表裏ほぼ対象に施されている。両側面には各１本の陰線が見られる。本県では、このような文様帯を施した資料の出土事例は見られず、東日本系の影響を受けた資料の可能性が考えられる。

②石庖丁

310は全体の約半分を欠損するものの、復元幅約15㎝を測る。擦り切りを持つタイプのもので、石材には安山岩を使用している。全面に丁寧な研磨を施し、一部刃部に欠損が見られるが、使用によるものなのかは判別できない。出土層位はⅨ層で、層中にはわずかに縄文時代晩期に位置する黒川式段階の資料も混入するが、遺物の主体は須久Ⅱ段階が占めることから、弥生時代中期に年代を持つ包含層と考えられる。これまでに石庖丁は、黒丸遺跡では今回の出土を含め６点が出土している。中でも擦り切りを持つタイプは、朝鮮半島の影響を残した古い時期に位置づけられている。

前回の調査（長崎県教育委員会2009）で弥生時代早期の層から出土した打製の横刃型石器は、今回の調査で確認された弥生時代中期に年代を持つⅨ層、および弥生時代前期の遺構内からは出土しなかった。このことから、黒丸遺跡における穂積具の形態は、弥生時代早期の段階では打製の横刃型石器が使用されており、弥生時代前期頃に入ると消滅するようである。弥生時代前期の段階で横刃型石器が消滅する背景には、石庖丁の日常的使用の定着化が推測できる。

図　版

体験発掘の様子

A地区完掘（東から）

B地区完掘

第8図

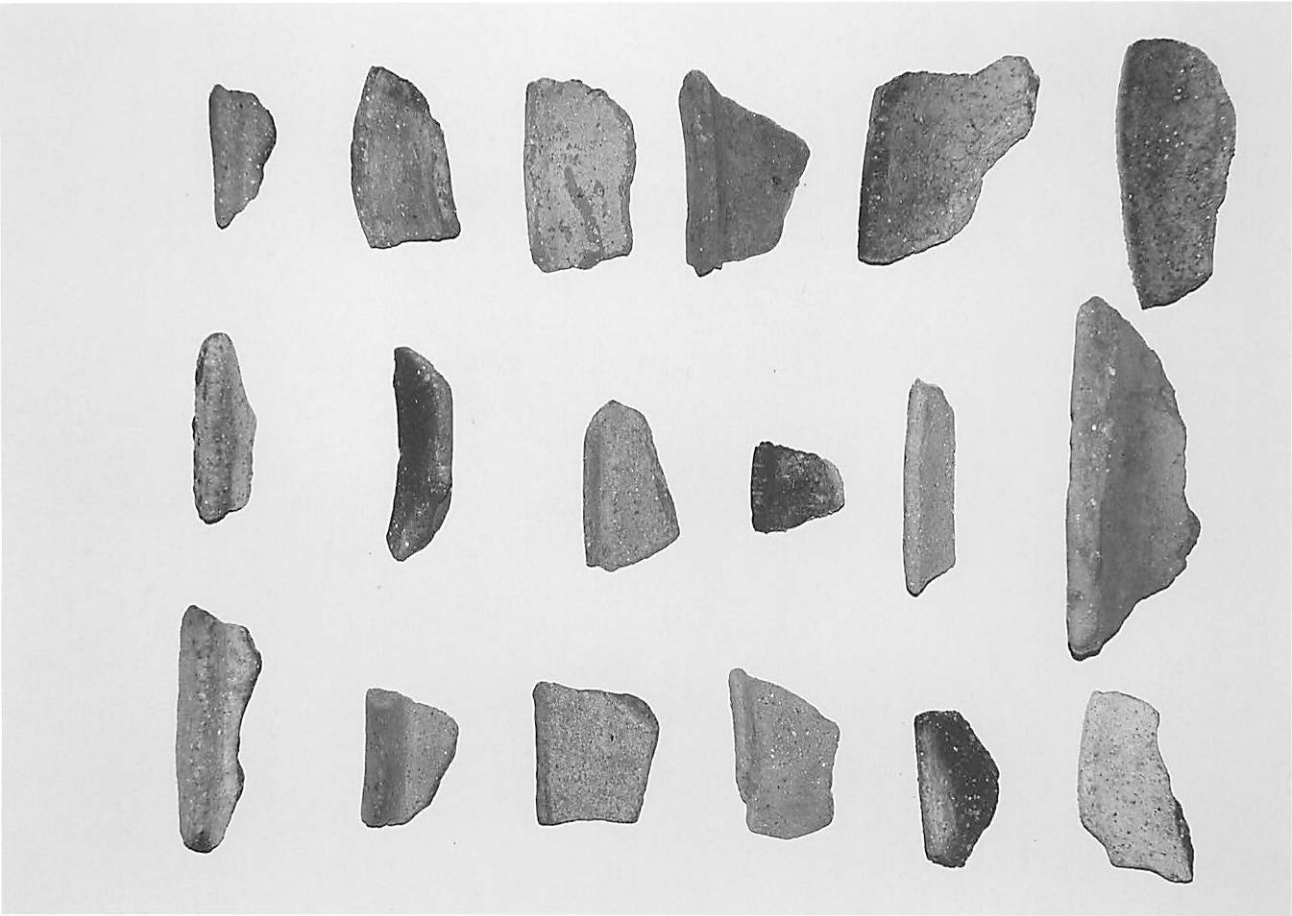
第8図ー7

第19図

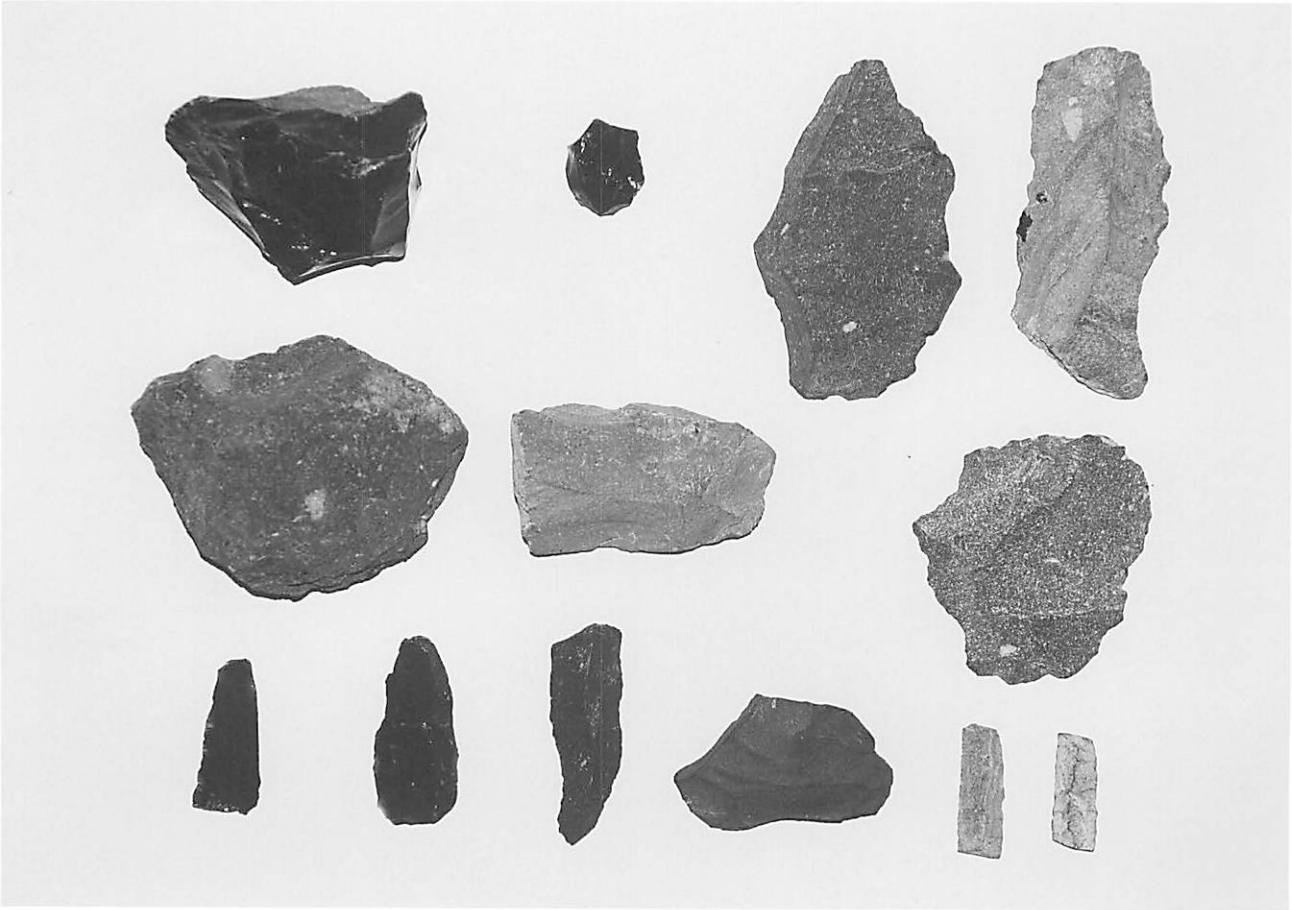
第15図ー29

第17図ー81

第33図ー166

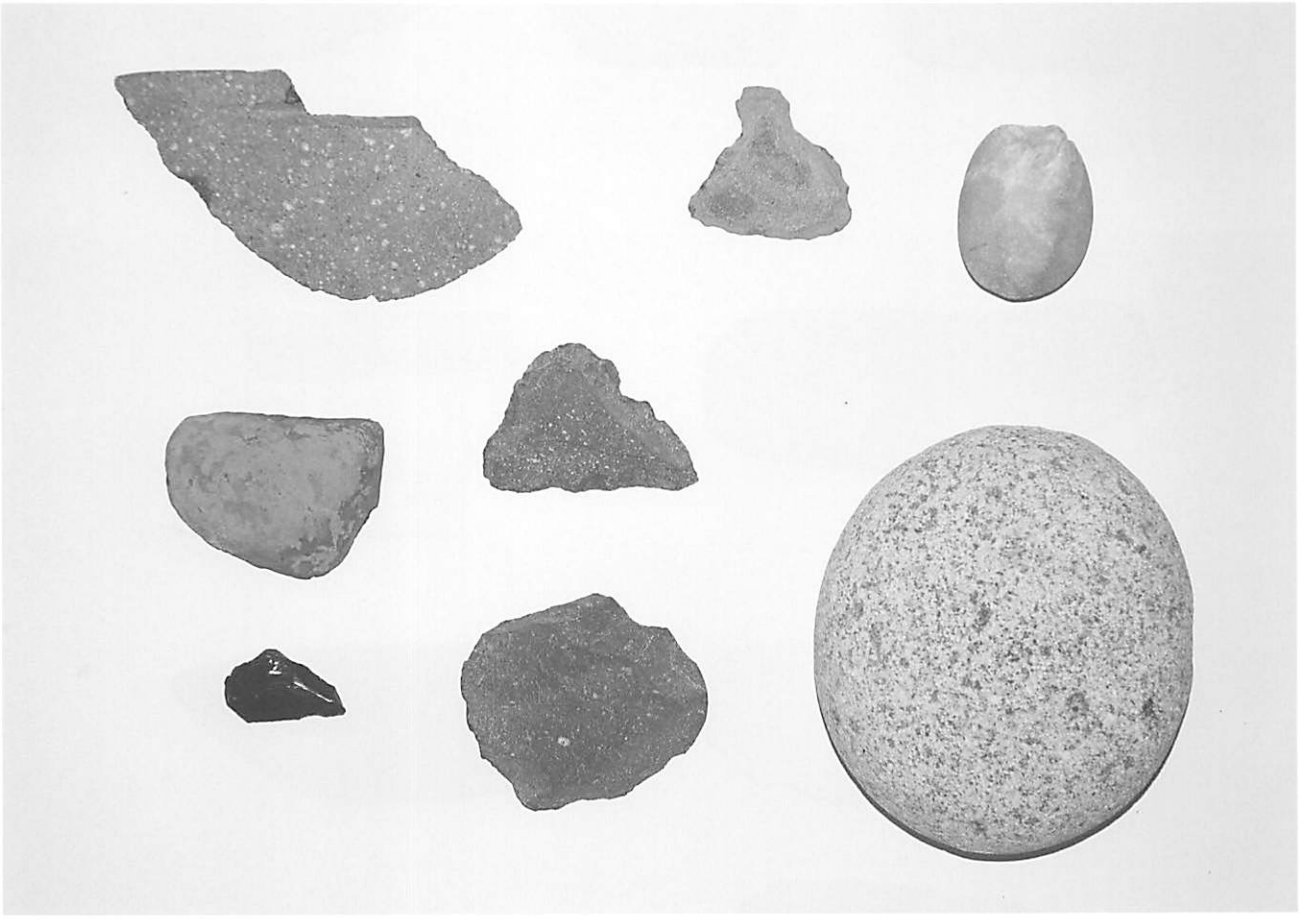


第35図



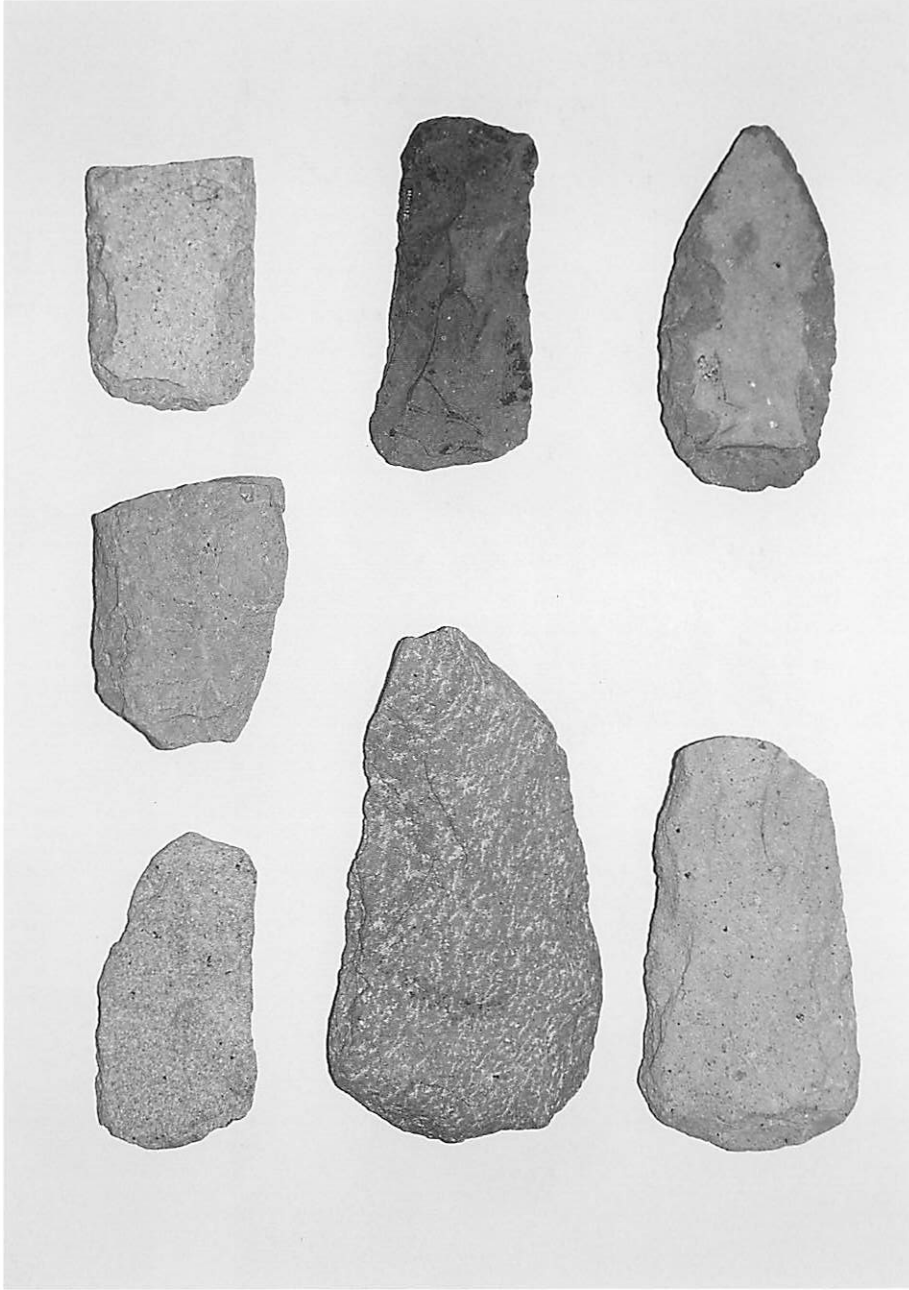
第37・38図

第36図



第40図

第42図



第41図

報告書抄録

ふりがな	くろまるいせきよん
書名	黒丸遺跡Ⅳ
副書名	郡川河川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	長崎県文化財調査報告書
シリーズ番号	第204集
編著者名	平田賢明・井上里奈
編集機関	長崎県教育委員会
所在地	〒850－0861　長崎県長崎市江戸町２－13　Tel.095－824－1111
発行年月日	2010年３月31日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
黒丸遺跡（くろまるいせき）	長崎県（ながさきけん） 大村市（おおむらし） 沖田町（おきたまち）	42205	5-86	32度 57分 40秒	129度 56分 10秒	20090106 ～ 20090313	930㎡	河川改修

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
黒丸遺跡	集落	弥生 古代	柱穴・土壙 土坑	弥生土器 土師器・須恵器	

要約

黒丸遺跡は，大村市北部に河口を持つ郡川によって形成された標高約０～10mの扇状地上に位置する。過去に複数回の発掘調査が実施され、縄文時代～中世に渡る長期間の複合遺跡であることが判明している。

今回の調査では縄文時代早期・前期に位置づけされる夜臼式、板付式段階の資料および柱穴、土坑などの遺構が検出された。土坑であるSK31からは、板付Ⅱ式並行段階の土器に伴って東日本系の橿原文様を施した石製品が出土し、当時の交易ルートを検討するうえで重要な資料といえよう。

８世紀後半～９世紀に位置づけされる遺物が出土したSK３・８・９は黒丸遺跡において検出された初の古代の遺構である。SK３からは「七月」と読める刻書を持つ土師器が出土した。黒丸地区周辺には古代の彼杵郡家が比定されており、なんらかの関連が考えられる資料である。

長崎県文化財調査報告書　第204集

黒丸遺跡Ⅳ

平成22年3月31日

編　集　　長崎県教育委員会
長崎県長崎市江戸町2番13号

印　刷　　株式会社　昭和堂
長崎県諫早市長野町1007-2